看　護　学　科

授　業　要　項

（シ　ラ　バ　ス）

令 和 5 年 度

京 都 府 立 医 科 大 学
医 学 部 看 護 学 科

令和5年度　京都府立医科大学医学部看護学科　学事予定表

	全学年共通		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
前期	入学式	4月8日	オリエンテーション	4月6日・7日	オリエンテーション	4月4日	オリエンテーション	4月4日	オリエンテーション	4月7日
	前期授業開始	4月5日							臨地実習	4月～7月上旬
	履修登録		履修登録期間	4月6日～11日	履修登録期間	4月4日～7日	履修登録期間	4月4日～7日		
	定期健康診断		定期健康診断	4月27日午後	定期健康診断	4月28日午後	定期健康診断	4月18日午後	定期健康診断	左記3日間で受診
							北部病院等地域滞在実習事前説明会	7月頃		
			定期試験	7月25日（予定）～	定期試験	7月24日（予定）～	定期試験	7月24日（予定）～		
							北部病院等地域滞在実習事前研修会	7月中旬（予定）		
							臨地実習オリエンテーション	7月下旬（予定）		
							北部病院等地域滞在実習	8月28日～9月1日（予定）	助産学実習	9月～11月
後期	後期授業開始		オリエンテーション	9月下旬(予定)	オリエンテーション	9月下旬(予定)	臨地実習	9月下旬～3月上旬	オリエンテーション	9月下旬(予定)
			基礎看護学実習Ⅰ	9月中旬						
	履修登録		履修登録	9月下旬(予定)～	履修登録	9月下旬(予定)～			履修登録	9月下旬(予定)～
					予防接種（予定） ・B型肝炎（1回目） ・　〃　（2回目） ・　〃　（3回目）	 9月中旬 10月下旬 3月中旬				
	解剖体秋季追悼式	10月14日（予定）	解剖体秋季追悼式	10月14日（予定）						
	府立医科大学創立記念日	11月1日								
	トリアス祭	10月29日～11月4日					北部病院等地域滞在実習報告会	11月（予定）	国家試験に関する説明会	11月頃
					地域看護学・助産学選択希望者ガイダンス	12月上旬（予定）				
			定期試験	1月下旬～（予定）	定期試験	1月下旬～（予定）			卒業に関する説明会	1月末頃
					基礎看護学実習Ⅱ	2月中旬～（予定）			国家試験	2月中旬（予定）
	卒業式	3月2日（予定）			地域看護学・助産学選択希望者面接	3月上旬（予定）				

（注）上記の日程は、学則上の規程と異なる場合があります。

（注）詳細は掲示によって行うので、掲示・システムによるお知らせは毎日見るなど、注意を払ってください。

目　　次

ページ

1 看護学科の概要 3

（1） 教育理念
（2） 教育研究等方針
（3） 入学定員、修業年限及び学位
（4） 取得できる資格

2 看護学科の教育課程 6

（1） 教育課程の構成
（2） 卒業に必要な単位数
（3） 医学部看護学科開講授業科目

3 看護学科の履修要項 7

（1） 履修方法
（2） 三大学教養教育共同化について
（3） 他の大学等との単位互換
（4） 既修得単位の認定
（5） 試験

4 看護学科の進級判定等 9

（1） 進級判定

5 看護学科の臨地実習 10

（1） 履修要件
（2） その他

6 地域看護学に関する授業科目の履修 10

（1） 履修許可人数
（2） 選考の時期等
（3） 選考の基準
（4） 履修方法
（5） 履修が必要な授業科目
（6） 履修許可の取消

7 助産学に関する授業科目の履修 11

（1） 履修許可人数
（2） 選考の時期等
（3） 選考の基準
（4） 履修方法
（5） 履修が必要な授業科目
（6） 履修許可の取消

8 令和5年度開講の医学部看護学科授業科目の概要 37

9 関係規程等 117

京都府立医科大学医学部看護学科授業科目履修規程
京都府立医科大学医学部看護学科の入学前の既修得単位認定に関する規程

10 施設等の概要 129

１　看護学科の概要

（１）教育理念

生命及び人間の尊厳を基盤に豊かな人間性と創造性を培い、高度の専門知識や技術など、看護専門職としての総合的な能力を有し、看護学の発展及び保健医療と福祉の向上に貢献できる人材を育成する。

（２）教育研究等方針

本学の看護教育は、明治２２年に京都府医学校の附属産婆教習所として開学したのが始まりで、その後､幾多の変遷を経て１２０年余りの歴史を有している。

本学科では、豊かな人間性と創造性を育む幅広い教養教育を基盤に、益々発展していく保健・医療・福祉の分野に対応できる高度な専門知識と技術を備えた看護の実践家及び看護教育・学術研究並びにマネージメントができる看護職者を育成するための専門教育を行う。

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

医学部看護学科では、「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念のもと、学習を通して生命及び人間の尊厳を基盤に豊かな人間性と創造性を培うとともに、専門知識や技術など看護専門職としての総合的な能力を有し、看護学の発展及び保健医療と福祉、地域社会の向上に貢献できる人材を育成している。

これに基づき、学年ごとに定められた進級要件を満たし、卒業に必要な所定の単位を修得した上で、以下の見識と能力を修得した者に、学位を授与する。

① 豊かな人間性を備え、全人的な看護を展開できること
看護学は人間を対象とするため、人間をどのように理解できるかが重要な鍵となる。
そのために豊かな教養と人間性を備え、奥深い専門的知識や技術など幅広い視野と洞察力をもち、人間を全体的・統合的に捉え、倫理観をもって全人的な看護を展開することのできる能力を育成することを目指している。

② 科学的思考に基づいた判断能力を育て、主体的に看護が実践できること
看護学は実践の科学であり、それゆえ専門的な知識・技術・態度はもとより、科学的思考に基づいた判断能力や問題解決能力を育て、主体的・創造的に看護が実践できる能力を育成することを目指している。

③ 保健・医療・福祉の連携を図り、看護が実践できること
地域社会における看護ニーズは益々拡大しており、それらに対応できるように、保健・医療・福祉の連携や調整を図り、協調しながら看護が実践できる能力を育成することを目指している。

④ 国際的な視野で健康問題を捉えて看護を考えられること
国際化の進む中で、豊かな国際感覚、高いコミュニケーション能力を持ち、国際的な視野で健康問題を捉えて看護を考えられる能力を育成することを目指している。

○カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

医学部看護学科では、基礎・教養科目、専門基礎科目、専門科目を配置し、それぞれの講義・演習・実習を通じて、生命及び人間の尊厳を基盤に豊かな人間性と創造性を培い、看護専門職として総合的な能力を有し社会に貢献できる人材を育成するために、カリキュラムを次の方針にしたがって策定する。

① 生命及び人間の尊厳の理解に基づく高い倫理観の形成、人間性及び環境への深い洞察力の育成
看護の対象である人や人をとりまく社会環境についての多面的な理解を促進し、幅広い視野に立脚した医療人としての豊かな人間性を育成する観点から、基礎・教養科目として、生命倫理や人権論、心の科学をはじめ、法律と社会、医療社会史などの科目を設置するとともに、三大学連携による教養教育共同化科目を配置し、選択科目数の拡大と多様な価値観を持つ学生間交流の促進を図る。
また、演習や実習を通じて看護専門職として必要な倫理観や気づきの力を段階的かつ継続的に養成するために、１年次から看護基礎理論や看護人間論、基礎看護学実習といった専門科目を配置する。

② 看護の専門職として必要な知識・技術・態度とあらゆる看護の場において主体的に看護が実践できる能力の育成

人体の構造や生命維持の仕組み、各疾病とその病態および治療や看護の方法など、健康・疾病・障害に関する基礎を修得するため、専門基礎科目において、人体構造機能論、生化学、栄養学、薬理学、病理学、感染免疫学、病態疾病論、成長発達論、生殖健康論、臨床遺伝学、人間看護工学の各科目を、また、保健・福祉に対する理解の増進に向けて、疫学、公衆衛生学、医療情報学などの科目を配置する。

加えて専門科目では、あらゆる場面で主体的な看護を実施し得る専門知識を養成するために、『看護学の基本』、『看護学の展開（理論と実践）』、『看護学の統合と発展』の各科目群を段階的に配置の上、実践的な講義や演習、実習を通じて、看護専門職として必要な高い知識と技術や患者との適切な対応等を体得させることとし、『看護学の基本』において実践に向けた基礎の修得を図るとともに、『看護学の展開』では、成人看護学、小児看護学、母性看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護論の科目ごとに、様々な局面に応じた看護実習を行う。

また、『看護学の統合と発展』には、既習である『看護の基本』および『看護学の展開』を統合した実践的な知識・技術を修得し得る各科目に加え、チーム医療や継続看護における看護の役割を理解するための統合実習を配置する。

③ 科学的思考に基づいた判断力、問題解決能力の育成

看護の実践局面において不可欠な科学的思考に基づく判断力や問題解決能力について、基礎・教養科目から専門基礎科目、専門科目へと学生参加型教育の段階的履修を通じ当該能力を高めていく観点から、看護現場における基礎的な問題解決スキルの修得に向け、『看護学の基本』科目群にヘルスアセスメント及び看護方法論を設置するとともに、『看護学の展開』に体系化した各科目での看護過程展開に係る事例研究や実習を反復して実施する。

また、医療、看護の質の向上に対し常に課題意識を持ち、この課題を科学的思考に基づき客観的に解決を図ろうとする「研究マインド」の醸成に向け、研究方法論の科目を設置する。

④ 地域医療やライフステージなど様々な看護ニーズに応えることのできる、保健・医療・福祉との連携・調整を図る能力の育成

多様化する医療ニーズへの対応やライフステージの変化に寄り添った看護のあり方について理解を促進するため、基礎・教養科目における環境論や生活と経済をはじめとして、専門基礎科目では、社会福祉学、看護と法律、医療と経営、発達心理学、家族社会学など、また専門科目として、在宅看護論、地域看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論などを設ける。

また、保健・医療・福祉との連携・調整手法を涵養するために、これらの履修で得た知識に加え、在宅看護実習や『看護学の統合と発展』各科目において実習を行う。

⑤ 国際理解とコミュニケーション能力を基にして、グローバルな視野で健康問題を理解し、看護活動ができる能力の育成

国際理解とコミュニケーション能力の醸成に向け、多様な文化を語学から理解するために、基礎・教養科目に英語、中国語、ドイツ語、フランス語、英会話及び国際情勢の理解といった教科を設ける。

また、専門科目の『看護の統合と発展』に、国際看護・国際保健や国際看護英語の教科を設置する。

⑥ 社会の変化に対応して看護を発展させ、自ら課題を探求し、研究していくことができる基礎的能力の育成

『看護の統合と発展』では、既習の幅広い基礎・教養科目と専門基礎科目、専門科目の接続を重視し、専門職業人としての倫理観を持ち、自らの課題を探求し学び続けるための基礎能力と、看護学を発展するための研究能力を育成するために、研究方法論、看護マネジメント論、看護教育論、看護倫理、看護の統合と実践（演習）、看護の統合と実践（実習）、災害看護論などの科目を設置する。

⑦ 成績評価にあたっては、公正さと透明性を確保するため、各科目に掲げられた教育目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行う。

（3）入学定員、修業年限及び学位

	定　　員	修 業 年 限	学　　位
入学定員	８５人	４年	学士（看護学）

（4）取得できる資格等

	資格等
全員	看護師国家試験受験資格
地域看護学履修者（※1） 20 名程度	保健師国家試験受験資格 養護教諭二種免許状申請資格（※3）
助産学履修者（※2） 15 名程度	助産師国家試験受験資格 受胎調節実地指導員申請資格

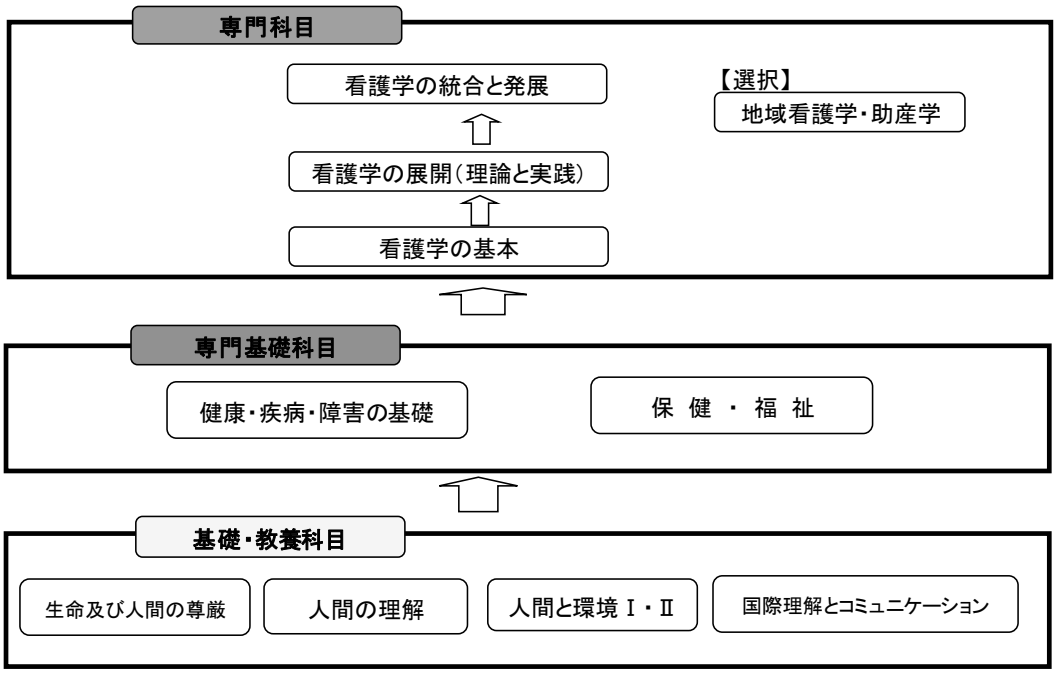
（※1・2）地域看護学・助産学履修者は選考により決定。両方を同時に履修することはできない。

（※3）保健師資格取得者で教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（日本国憲法 2 単位・体育 2 単位・外国語コミュニケーション 2 単位・情報機器の操作 2 単位）を修得した者は申請できる。

2　看護学科の教育課程

（1）教育課程の構成

教育課程は、本学の教育目標を達成するために、「基礎・教養科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」の３分野で構成する。



（2）卒業に必要な単位数

○卒業に必要な単位数

区　分		卒業に必要な単位数（令和4年度以降入学生）			卒業に必要な単位数（令和３年度以前入学生）		
		必修	選択	計	必修	選択	計
基礎・教養科目	生命及び人間の尊厳	4	12	22	4	12	22
	人間の理解	2			2		
	人間と環境Ⅰ	2			2		
	人間と環境Ⅱ	2			2		
	国際理解とコミュニケーション	2	6	8	2	6	8
	計	12	18	30	12	18	30
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	16	1	23	15	2	23
	保健・福祉	6			6		
	計	22	1	23	21	2	23
専門科目	看護学の基本	14	－	14	14	－	14
	看護学の展開（理論と実践）	49	－	49	50	－	50
	看護学の統合と発展	9	5	14	8	6	14
	※ 地域看護学	－	－	－	－	－	－
	※ 助産学	－	－	－	－	－	－
	計	72	5	77	72	6	78
合　計		106	24	130	105	26	131

※専門科目のうち、地域看護学・助産学に関する科目は、保健師・助産師国家試験受験資格取得を希望し、その履修を許可された学生が履修する。その場合、卒業必要単位数は次の表のとおり。

○地域看護学（保健師）履修・助産学（助産師）履修学生の卒業必要単位数

区 分		卒業に必要な単位数（令和４年度以降入学生）						卒業に必要な単位数（令和３年度以前入学生）					
		保健師			助産師			保健師			助産師		
		必修	選択	計	必修	選択	計	必修	選択	計	必修	選択	計
基礎・教養科目	生命及び人間の尊厳	4	9（注1）	22	6	10	22	4	9（注1）	22	6	10	22
	人間の理解	5			2			5			2		
	人間と環境Ⅰ	2			2			2			2		
	人間と環境Ⅱ	2			2			2			2		
	国際理解とコミュニケーション	2	6	8	2	6	8	2	6	8	2	6	8
	計	15	15	30	14	16	30	15	15	30	14	16	30
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	16	－	24	16	－	23	15	－	23	16	－	23
	保健・福祉	8			7			8			7		
	計	24	0	24	23	0	23	23	0	23	23	0	23
専門科目	看護学の基本	14	－	14	14	－	14	14	－	14	14	－	14
	看護学の展開（理論と実践）	49	－	49	49	－	49	50	－	50	50	－	50
	看護学の統合と発展	14	－	14	10	－	10	13	－	13	9	－	9
	地域看護学	12	－	12	1	－	1	12	－	12	1	－	1
	助産学	－	－	－	25	－	25	－	－	－	22	－	22
	計	89	0	89	99	0	99	89	0	89	96	0	96
合 計		128	15	143	136	16	152	127	15	142	133	16	149

（注１）実際には基礎・教養科目は１科目２単位のため、５科目１０単位の履修が必要となる。

（３）医学部看護学科開講授業科目

（令和５年度入学生用１２～１５頁、４年度入学生用１６～１９頁、３年度入学生用２０～２３頁、
２年度入学生用２４～２７頁、元年度入学生用２８～３１頁、３０年度入学生用３２～３５頁）

３ 看護学科の履修要項

（１）履修方法

ア　履修届

授業科目の履修については、毎学期の始めに、それぞれ履修しようとする科目を届け出なければならない。授業科目によっては、履修学生数等を定めることがある。

また、授業科目によっては、履修する曜日、時限等を指定する場合がある。履修届提出後は授業科目を変更し、又は取り消すことができない。ただし、学長が正当な事由と認めた場合はこの限りでない。

≪注意事項≫

履修届の提出に当たっては、２（２）「卒業に必要な単位数」に定める授業科目の区分に定める単位数以上をそれぞれ修得しなければ卒業することができないので、十分注意すること。

また、履修の届出をしないで授業を受けても試験を受けることができないので、単位は修得できない。

イ　履修

授業科目の履修は、定められた時限に定められた教室等で行われる授業の出席によって進められる。

授業に関わる休講、教室変更、時限変更等は、看護学学舎１階掲示板に掲示するとともに、学務システムで知らせるので常に注意すること。掲示・システムによるお知らせを見なかったために不利益を受けても、大学は責任を負わない。

【講義開始遅延の場合の対応】

教員が事故その他の事情により始業時間２０分を経るも授業開始に至らないときは、クラス代表者は、教育支援課に連絡し、その指示を受けなければならない。

（２）三大学教養教育共同化について

平成２６年度から、京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学は、以下のとおり教養教育の一部の科目を共同化することになった。共同化科目は原則として令和５年度１年生を対象とする。

ア　共同化科目の授業は月曜日に行う。授業科目は別冊に示しており、時間割表に従って行われるので、これらから選んで受講することができる。
ただし、受講者が定員を超えた場合は選考されることがある。

イ　各科目は半期ごと（前期・後期）、または、クォーターごと（前前期・前後期など）である。

ウ　これらの科目を修得した単位は、原則として卒業の単位として認められる。

エ　講義は京都府立大学キャンパス内の共同化施設（稲盛記念館）の共同化講義室で行う。

オ　共同化科目は共同化講義の学年歴（別冊）に従うため、授業の開始・終了・振替日・試験日程・休講取扱基準は、本学とは異なることがあるので注意すること。

（３）他の大学等との単位互換

本学医学部看護学科では、大学教育の充実と大学間交流、授業科目の多様な展開を図る上で有益な他の大学・短期大学との単位互換を実施している。

受講は本学の授業に支障のない範囲で受講でき、３０単位を超えない範囲で、本学において修得した単位として認定する。

また、教育上有益であると認めるときは、次の単位数に限って卒業に必要な単位として認定する。

● 基礎・教養科目　４単位

卒業に必要な単位として認定を受けようとする学生は、単位修得後、速やかに「他の大学等との単位互換授業科目の単位認定願」を教育支援課まで提出すること。

ア　財団法人大学コンソーシアム京都の単位互換（別冊参照）

単位互換事業に参加している大学、短期大学で開設される授業科目が受講できる。
開設科目は、毎年募集ガイドで示し、所定の手続をすれば無料（一部実費が必要な科目もある）で受講できる。ただし、受講者が定員を超えた場合は、選考されることがある。

（４）既修得単位の認定

大学又は短期大学を卒業又は中途退学（１年以上在学し、３０単位以上を修得していること）した後に、本学医学部看護学科に入学した者の当該大学又は短期大学で修得した単位については、教育上有益であると認めるときは、次の単位数に限って卒業に必要な単位として認定する。

認定を受けようとする学生は、入学後、所定の期日までに「既修得単位認定申請書」を教育支援課まで提出すること。

● 本学医学部看護学科で開設している基礎・教養科目及び専門基礎科目に相当する科目で、合計３０単位を超えないものとする。

（５）試　験

ア　試験の方法

試験は原則として筆記試験とするが、場合によっては口述、実技又はレポート提出、コンピュータ活用等の方法をとることがある。

イ　試験の実施時期

原則として、前期末と後期末の一定期間に実施する。試験期間中は通常の授業は行わない。

科目によっては授業期間内に試験を行うことがあるので、担当教員の指示又は掲示板に注意すること。

ウ　試験期間中の注意

試験は、授業のときと異なる教室、曜日、時限で実施することがあるので、掲示される試験時間割をよく確認して受験すること。

エ　受験資格

科目の授業時間数の３分の２（臨地実習にあっては５分の４）以上出席していない者は、原則として、その科目を受験できない。

オ　試験中の不正行為

試験中に不正行為を行った者については、その試験期間中のすべての試験を無効とし、受験資格を停止する。

カ　試験受験上の注意

①　試験開始後３０分を超えて遅刻した場合は、その試験を受験できない。

②　試験開始後３０分を経過しなければ、退室を許可しない。

キ　試験欠席手続

①　疾病、その他やむを得ない理由により試験に欠席する学生は、当該授業科目の試験開始時間までに必ず教育支援課（看護学科担当）まで連絡しなければならない。

②　連絡がなく試験を欠席した場合は、その授業科目の追試験及び再試験を受けることができない。

ク　追試験及び再試験

①　追試験

疾病、その他やむを得ない理由より試験を受けることができなかった者は、その科目について追試験を受けることができる。

但し、追試験は、定期試験終了後に行うので、追試験を受けようとするものは、所定の追試験・再試験受験申請書に医師の診断書又はその他やむを得ない理由を証する書類を添えて、指定された期日までに教育支援課まで提出しなければならない。

②　再試験

定期試験又は追試験において不合格となった者は、担当教員の承認を得て、１回に限り再試験を受けることができる。

但し、再試験を受けようとするものは、所定の追試験・再試験受験申請書を指定された期日までに教育支援課まで提出しなければならない。

ケ　単位の認定及び成績の評価

単位は、試験の結果を総合的に判断し、合格と判定された者に与えられる。

試験成績の評価は、評点又は評語をもって表し、合否の判定は次の基準により行う。

ただし、再試験の評点は６０点以下とする。

評　　点	評　語	認　　定
100 点～80 点	優	合　　格
79 点～70 点	良	
69 点～60 点	可	
59 点～ 0 点	不　可	不　合　格

コ　成績に対する不服申立てについて

成績評価の客観性、厳格性を確保するため、平成３０年度から成績に対する不服申立て制度を導入。自身の成績評価（優・良・可・不可）に疑義があるときは、成績に対する確認・開示を請求（原則として成績開示日から７日以内）することができ、その確認結果に不服があるときは不服申立てをすることができる。

４　看護学科の進級判定等

（１）進級判定

進級判定は、各学年の後期定期試験終了後に行う。

各学年末において、次の単位数を修得していなければ進級できない。

○　進級要件単位数

区　　分	進級要件単位数（令和4年度以降入学生）			進級要件単位数（令和3年度以前入学生）		
	1年から2年次	2年から3年次	3年から4年次	1年から2年次	2年から3年次	3年から4年次
	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目
基礎・教養科目	12単位	12単位	12単位	12単位	12単位	12単位
専門基礎科目	5単位	17単位	22単位	5単位	16単位	21単位
専　門　科　目	13単位	40単位	54単位	13単位	39単位	54単位
合　　計	30単位	69単位	88単位	30単位	67単位	87単位

5　看護学科の臨地実習

（1）履修要件

第３学年後期以降に履修する臨地実習の授業科目は、第３学年前期に履修する「専門基礎科目」及び「専門科目」の必修授業科目について、全部の単位を修得していなければ、履修することができない。

（2）その他

①　実習にあたっては事前にオリエンテーションを実施するので必ず出席すること。
　　オリエンテーションの日程は別途、掲示または学務システムのお知らせにより連絡する。
②　詳細については、「実習要項」の定めるところによる。

6　地域看護学に関する授業科目の履修

保健師国家試験の受験資格の取得を希望する学生は、地域看護学に関する授業科目の履修許可を受けなければ履修することができない。

（1）履修許可人数

２０人を超えないものとする。

（2）選考の時期等

地域看護学選択学生の選考は、毎年１０月末日までに、選考方法等を周知する。

地域看護学に関する授業科目の履修許可、不許可の決定は、毎年第２学年の３月下旬頃に学生に通知する。

（3）選考の基準

以下の選考基準、地域看護学選択履修理由書、面接の結果を総合的に評価する。

①　第３学年に進級できる者
②　第２学年後期末までに、教養科目も含めて幅広く科目を履修しており、履修した授業科目の成績の評価が「良」以上の者が望ましい
③　助産学選択を希望しない者
④　卒業後に保健師として就業する意思が強固な者

（4）履修方法

地域看護学に関する科目を履修しようとする学生は、毎学期の始めに、地域看護学に関する科目の履修届を提出しなければならない。

ただし、(2)の選考の結果、不許可と決定された学生は、当該不許可決定通知日以降は、地域看護学に関する科目を履修することができない。

（５）履修が必要な授業科目

医学部看護学科授業科目に記載の地域看護学に関する科目の全科目を履修するほか、選択科目のうち、「健康スポーツ科学」「健康スポーツ科学演習」「家族社会学」「医療と経営」「公衆衛生看護行政論」「家族相談援助論」「地域看護活動論Ⅰ・Ⅱ」の科目を必ず履修しなければならない。

なお、地域看護学に関する科目のうち、地域看護学実習の科目は、第３学年後期、第４学年前期に履修する臨地実習の授業科目の単位を全部修得しなければ履修することができない。また、地域看護学実習は必ず該当学年で履修することとし、翌年以降に履修することはできない。

（６）履修許可の取消

第３学年前期末において、「５　看護学科の臨地実習」に記載の履修要件を満たさない学生については、地域看護学に関する授業科目の履修許可を取り消すことがある。

７　助産学に関する授業科目の履修

助産師国家試験の受験資格の取得を希望する学生は、助産学に関する授業科目の履修許可を受けなければ履修することができない。

（１）履修許可人数

１５人を超えないものとする。

（２）選考の時期等

助産学選択学生の選考は、毎年１０月末日までに、選考方法等を周知する。

助産学に関する授業科目の履修許可、不許可の決定は、毎年第２学年の３月下旬頃に学生に通知する。

（３）選考の基準

以下の選考基準、助産学選択履修理由書、面接の結果を総合的に評価する。

① 第３学年に進級できる者

② 第２学年後期末までに、教養科目も含めて幅広く科目を履修しており、履修した授業科目の成績の評価が「良」以上の者が望ましい

③ 地域看護学選択を希望しない者

④ 卒業後に京都府内の医療機関等において、助産師として就業する意思が強固な者

（４）履修方法

助産学に関する科目を履修しようとする学生は、毎学期の始めに、助産学に関する科目の履修届を提出しなければならない。

ただし、(２)の選考の結果、不許可と決定された学生は、当該不許可決定通知日以降は、助産学に関する科目を履修することができない。

（５）履修が必要な授業科目

医学部看護学科授業科目に記載の助産学に関する科目の全科目を履修するほか、選択科目のうち、「生命倫理」「家族社会学」「家族相談援助論」「地域保健活動展開論」の科目を必ず履修しなければならない。

なお、助産学に関する科目のうち、助産学実習の科目は、第３学年後期、第４学年前期に履修する臨地実習の授業科目の単位を全部修得しなければ履修することができない。また、助産学実習は必ず該当学年で履修することとし、翌年以降に履修することはできない。

（６）履修許可の取消

第３学年前期末において、「５　看護学科の臨地実習」に記載の履修要件を満たさない学生については、助産学に関する授業科目の履修許可を取り消すことがある。

※なお、授業科目の履修に際しては、必要に応じて実費を徴収することがある。

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和5年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目	生命及び人間の尊厳	生命倫理		2		2	2		2								30	
		人権論	2		2		2		2								30	
		総合講義	2		2		2		2								30	
		医療人類学（共）		2		2		2	2								30	※1
		現代医療の人間観（共）		2		2		2		2							30	網掛け科目すべて
		哲学（共）		2		2		2		2							30	
		感性の実践哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	22単位以上
	人間の理解	音楽		2		2		2	2								30	
		心の科学	2		2		2		2								30	
		発達心理学（共）※2		2		2		2	2								30	看護師課程
		健康スポーツ科学		2	2			2	2								30	22単位以上
		健康スポーツ科学演習		1	1			1		1							30	必修10単位+
		西洋文学論（共）		2		2		2	2								30	選択12単位以上
		日本近現代文学Ⅰ（共）		1		1		1		1							15	
		日本近現代文学Ⅱ（共）		1		1		1		1							15	
		西洋文化論（共）		2		2		2		2							30	
		美と芸術（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		こころの科学（共）		2		2		2	2								30	
		認知心理学（共）		2		2		2	2								30	
		現代社会と心（共）		2		2		2		2							30	
		資料で親しむ京都学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2								2	30	
	人間と環境Ⅰ	教育の基礎		2		2		2	2								30	保健師課程
		法律と社会	2		2		2			2							30	22単位以上
		生活と経済（共）		2		2		2		2							30	必修13単位+
		医療社会史		2		2		2		2							30	選択9単位以上
		宗教と文化（共）※2		2		2		2		2							30	
		医療と社会（共）		2		2		2	2								30	
		比較宗教学（共）		2		2		2	2								30	
		日本史（共）		2		2		2		2							30	
		京都の文化と文化財（共）		2		2		2		2							30	
		東西文化交流史（共）		2		2		2		2							30	
		アジアの歴史と文化（共）		2		2		2	2								30	
		ヨーロッパの歴史と文化（共）		2		2		2		2							30	
		技術の人間学		2		2		2		2							30	
		日本近代精神史（共）		2		2		2	2								30	助産師課程
		京の意匠（共）		2		2		2		2							30	22単位以上
		京都の歴史Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	必修12単位+
		京都の歴史Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	選択10単位以上
		英語で京都（共）		2		2		2								2	30	
		政治学（共）		2		2		2		2							30	
		国際政治（共）		2		2		2	2								30	
		経済学入門（共）		2		2		2		2							30	
		京都の経済（共）		2		2		2		2							30	
		食経営学		2		2		2	2								30	
		現代教育論（共）		2		2		2	2								30	
		京の産業技術史（共）		2		2		2	2								30	
		近代京都と三大学（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会とジェンダー（共）		2		2		2	2								30	
		現代京都論（共）		2		2		2	2								30	

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和5年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目		科学史Ⅰ（共）		1		1		1	1								15	
		科学史Ⅱ（共）		1		1		1	1								15	
		環境問題と持続可能な社会（共）		2		2		2	2								30	
		環境と法（共）		2		2		2		2							30	
		法学（共）		2		2		2	2								30	
		京都の防災と府民（共）		2		2		2		2							30	
		京都の農林業（共）		2		2		2		2							30	
		京都の自然（共）		2		2		2	2								30	
		現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		社会科学の学び方　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		世界はいま　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		現代イスラーム世界の文化と社会　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		時事問題で学ぶファシリテーション　リベラルアーツ・ゼミナール		2		2		2		2							30	
		マーケティング入門　リベラルアーツ・ゼミナール		2		2		2							2		30	
		プレゼンテーション力とは　リベラルアーツ・ゼミナール		2		2		2	2								30	
	人間と環境Ⅱ	生物学的人間学（共）**※2**		2		2		2	2								30	┐
		生命有機化学		2		2		2		2							30	├ 1科目以上履修
		物理学		2		2		2		2							30	┘
		情報科学	2		2		2		2								30	
		人と自然と数学αⅠ（共）		1		1		1		1							15	
		人と自然と数学αⅡ（共）		1		1		1		1							15	※「生物学的人間学」「生命有機化学」「物理学」から1科目以上履修する（すべての課程に共通）
		人と自然と数学β（共）		2		2		2		2							30	
		物理学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		化学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		化学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		生物学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		生物学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		エネルギー科学（共）		2		2		2	2								30	
		キャンパスヘルス概論（共）		2		2		2	2								30	
		食と健康の科学（共）		2		2		2	2								30	
		現代科学と倫理（共）		2		2		2	2								30	
		意外と知らない植物の世界（共）		2		2		2		2							30	
		生命科学講話（共）		2		2		2	2								30	
		医学概論		2		2		2		2							30	
		製品の機能から科学を学ぶ　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2	2								30	
		レーザで測る、創る、楽しむ　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2	2								30	
	国際理解とコミュニケーション	英語ⅠA	1		1		1		1								30	
		英語ⅠB	1		1		1			1							30	
		英語ⅡA		1		1		1			1						30	
		英語ⅡB		1		1		1				1					30	
		中国語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		中国語Ⅱ		1		1		1		1							30	
		ドイツ語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		ドイツ語Ⅱ		1		1		1		1							30	**8単位以上**
		フランス語Ⅰ		1		1		1	1								30	**必修2単位+**
		フランス語Ⅱ		1		1		1		1							30	**選択6単位以上**
		国際情勢の理解		2		2		2				2					30	
		英会話Ⅰ		1		1		1			1						30	
		英会話Ⅱ		1		1		1				1					30	
		ラテン語		2		2		2		2							30	
		現代社会に学ぶ問う力・書く力　リベラルアーツ・ゼミナール（共）**※3**		2		2		2	2								30	
		フランス語圏の文化とジャポニズム（共）		2		2		2							2		30	
		映画で学ぶ英語と文化（共）		2		2		2								2	30	
		映画で学ぶドイツ語と文化（共）		2		2		2							2		30	
基礎・教養科目合計			12	180	15	177	14	178	97	77	2	4			6	6	3075	**30単位以上（必修単位を含む）**

※1　網掛けの科目は共同化科目のため講義は共同化施設で行う。

※2　本学科提供の共同化科目

※3　a･bとも同じ授業を行う

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和5年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	人体構造機能論Ⅰ	1		1		1		1								30	
		人体構造機能論Ⅱ	1		1		1			1							30	看護師課程
		生化学	1		1		1		1								30	23単位以上
		栄養学	1		1		1		1								30	必修22単位+
		薬理学	1		1		1				1						30	選択1単位以上
		病理学	1		1		1			1							30	
		感染免疫学	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅰ（成人急性期）	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅱ（成人慢性期）	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅲ（精神・運動器）	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅳ（臨床腫瘍）	1		1		1					1					30	保健師課程
		病態・疾病論Ⅴ（小児）	1		1		1					1					30	24単位以上
		病態・疾病論Ⅵ（老年）	1		1		1					1					30	必修24単位+
		成長発達論	1		1		1						1				30	選択
		生殖健康論	1		1		1				1						30	
		臨床遺伝学	1		1		1					1					30	
		人間看護工学		1		1		1		1							30	
	保健・福祉	疫学	1		1		1						1				30	
		公衆衛生学	1		1		1						1				30	
		医療情報学	1		1		1					1					30	助産師課程
		社会福祉学	1		1		1						1				30	23単位以上
		カウンセリング論	1		1		1						1				30	必修23単位+
		看護と法律	1		1		1					1					30	選択
		家族社会学		1	1		1						1				30	
		医療と経営		1	1			1					1				30	
	専門基礎科目合計		22	3	24	1	23	2	3	3	5	7	7				750	
専門科目	看護学の基本	看護基礎理論	2		2		2		2								30	
		看護人間論	1		1		1			1							30	
		生活援助論Ⅰ	2		2		2		2								60	
		生活援助論Ⅱ	2		2		2			2							60	
		治療援助論	2		2		2				2						60	14単位
		看護方法論	1		1		1					1					30	（必修14単位）
		ヘルスアセスメント	1		1		1				1						30	
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1		1			1							45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2		2					2					90	
		計	14		14		14		4	4	3	3					435	
	看護学の展開（理論と実践）	成人看護学概論	2		2		2			2							30	
		成人急性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人急性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人慢性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人慢性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護学実習	3		3		3							3			135	49単位
		成人慢性期看護学実習	3		3		3							3			135	（必修49単位）
		がん看護援助論	1		1		1						1				30	
		精神保健	1		1		1			1							30	
		精神看護学概論	2		2		2				2						30	
		精神看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		精神看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		精神看護学実習	3		3		3							3			135	
		小児看護学概論	2		2		2				2						30	
		小児看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		小児看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		小児看護学実習	3		3		3							3			135	
		母性看護学概論	2		2		2			2							30	
		母性看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		母性看護援助論Ⅱ	1		1		1				1						30	
		母性看護学実習	2		2		2							2			90	

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和5年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目		老年看護学概論	2		2		2				2						30	
		老年看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		老年看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		老年看護学実習	3		3		3							3			135	
		在宅看護学概論	2		2		2					2					30	
		在宅看護援助論	1		1		1						1				30	
		在宅看護実習	1		1		1							1			45	
		地域看護学概論	2		2		2				2						30	
		健康教育論	2		2		2					2					30	
		計	49		49		49			5	12	9	5	18			1500	
	看護学の統合と発展	研究方法論Ⅰ	1		1		1						1				30	
		研究方法論Ⅱ	1		1		1								1		30	
		研究方法論Ⅲ	2		2		2									2	60	
		看護マネジメント論	1		1		1						1				15	
		国際看護・国際保健Ⅰ	1		1		1						1				15	**看護師課程 14単位以上**
		国際看護・国際保健Ⅱ		1		1		1								1	15	
		国際看護英語		1		1		1								1	15	必修9単位+
		看護教育論		1		1		1								1	15	選択5単位以上
		地域精神看護論		1	1			1					1				15	
		発達援助論		1		1		1								1	15	**保健師課程 14単位**
		看護倫理		1		1		1								1	15	
		災害看護論	1		1		1						1				15	必修14単位
		メンタルヘルス・マネジメント		1		1		1								1	15	
		看護の統合と実践Ⅰ（演習）※4		1		1		1								1	30	
		看護の統合と実践Ⅱ（実習）	2		2		2							2			90	**助産師課程 10単位以上**
		公衆衛生看護行政論		1	1			1					1				15	
		家族相談援助論		1	1		1						1				15	必修10単位+
		地域看護活動論Ⅰ		1	1			1					1				15	選択
		地域看護活動論Ⅱ		1	1			1					1				15	
	小計		9	12	14	7	10	11					9	2	1	9	450	
	（履修許可された学生のみが履修する）	地域看護診断学Ⅰ			2								2				30	**保健師課程 12単位**
		地域看護診断学Ⅱ			2								2				30	
		地域保健活動展開論			1		1									1	15	必修12単位
		地域看護学演習			2									2			60	**助産師課程 1単位**
		地域看護学実習			5										5		225	
		小計			12		1						4	2	5	1	360	必修1単位
		助産学基礎理論					1						1				15	
		親役割援助論					1									1	15	
		助産マネジメント論					2						2				30	
		ウィメンズヘルス論					1						1				15	
		周産期病態生理学Ⅰ					1						1				30	
		周産期病態生理学Ⅱ					1							1			30	**助産師課程 25単位**
		地域母子保健論					1							1			15	
		助産診断学Ⅰ					1						1				15	必修25単位
		助産診断学Ⅱ					1						1				15	
		助産診断学Ⅲ					1							1			15	
		助産診断学Ⅳ					1							1			15	
		助産技術学Ⅰ					1							1			30	
		助産技術学Ⅱ					1								1		30	
		助産学実習Ⅰ					2								2		90	
		助産学実習Ⅱ					8									8	360	
		助産学実習Ⅲ					1									1	45	
		小計					25						7	5	3	10	765	
	専門科目合計		72	12	89	7	99	11	4	9	15	12	25	27	9	20	3510	
全科目合計			106	195	128	185	136	191	193		45		32	27	15	26	7335	**看護師課程 130単位以上 保健師課程 143単位以上 助産師課程 152単位以上**
			301		313		327											

※4 看護師国家試験のみの受験資格を取得者は選択必修である。

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和4年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目	生命及び人間の尊厳	生命倫理		2		2	2			2							30	
		人権論	2		2		2		2								30	
		総合講義	2		2		2		2								30	
		医療人類学（共）		2		2		2	2								30	※1
		現代医療の人間観（共）		2		2		2		2							30	網掛け科目すべて
		哲学（共）		2		2		2		2							30	
		感性の実践哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	22単位以上
		経営哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2								2	30	
	人間の理解	音楽		2		2		2	2								30	
		心の科学	2		2		2		2								30	
		発達心理学（共）※2		2		2		2	2								30	看護師課程
		健康スポーツ科学		2	2			2	2								30	22単位以上
		健康スポーツ科学演習		1	1			1		1							30	必修10単位+
		西洋文学論（共）		2		2		2	2								30	選択12単位以上
		日本近現代文学（共）		2		2		2		2							30	
		西洋文化論（共）		2		2		2		2							30	
		美と芸術（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		こころの科学（共）		2		2		2	2								30	
		認知心理学（共）		2		2		2	2								30	
		現代社会と心（共）		2		2		2		2							30	
		資料で親しむ京都学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2								2	30	
	人間と環境Ⅰ	教育の基礎		2		2		2	2								30	保健師課程
		法律と社会	2		2		2		2								30	22単位以上
		生活と経済（共）		2		2		2		2							30	必修13単位+
		医療社会史		2		2		2		2							30	選択9単位以上
		宗教と文化（共）※2		2		2		2		2							30	
		医療と社会（共）		2		2		2	2								30	
		比較宗教学（共）		2		2		2	2								30	
		日本史（共）		2		2		2		2							30	
		京都の文化と文化財（共）		2		2		2		2							30	
		東西文化交流史（共）		2		2		2		2							30	
		アジアの歴史と文化（共）		2		2		2	2								30	
		ヨーロッパの歴史と文化（共）		2		2		2		2							30	
		技術の人間学		2		2		2		2							30	
		日本近代精神史（共）		2		2		2	2								30	助産師課程
		京の意匠（共）		2		2		2		2							30	22単位以上
		京都の歴史Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	必修12単位+
		京都の歴史Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	選択10単位以上
		英語で京都（共）		2		2		2								2	30	
		政治学（共）		2		2		2		2							30	
		国際政治（共）		2		2		2	2								30	
		経済学入門（共）		2		2		2		2							30	
		京都の経済（共）		2		2		2		2							30	
		食経営学		2		2		2	2								30	
		現代教育論（共）		2		2		2	2								30	
		京の産業技術史（共）		2		2		2	2								30	
		近代京都と三大学（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会とジェンダー（共）		2		2		2	2								30	
		現代京都論（共）		2		2		2	2								30	

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和4年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目		科学史（共）		2		2		2	2								30	
		環境問題と持続可能な社会（共）		2		2		2	2								30	
		環境と法（共）		2		2		2		2							30	
		法学（共）		2		2		2	2								30	
		京都の防災と府民（共）		2		2		2		2							30	
		京都の農林業（共）		2		2		2		2							30	
		京都の自然（共）		2		2		2	2								30	
		現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		社会科学の学び方　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		世界はいま　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		現代イスラーム世界の文化と社会　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
	人間と環境Ⅱ	生物学的人間学（共）※2		2		2		2	2								30	1科目以上履修
		生命有機化学		2		2		2		2							30	
		物理学		2		2		2	2								30	
		情報科学	2		2		2		2								30	
		人と自然と数学α（共）		2		2		2	2								30	※「生物学的人間学」「生命有機化学」「物理学」から1科目以上履修する（すべての課程に共通）
		人と自然と数学β（共）		2		2		2		2							30	
		物理学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		人と自然と物理学（共）		2		2		2		2							30	
		化学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		化学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		生物学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		生物学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		エネルギー科学（共）		2		2		2	2								30	
		キャンパスヘルス概論（共）		2		2		2	2								30	
		食と健康の科学（共）		2		2		2	2								30	
		現代科学と倫理（共）		2		2		2	2								30	
		意外と知らない植物の世界（共）		2		2		2		2							30	
		生命科学講話（共）		2		2		2	2								30	
		製品の機能から科学を学ぶ　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2	2								30	
		レーザで測る、創る、楽しむ　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2	2								30	
	国際理解とコミュニケーション	英語ⅠA	1		1		1		1								30	
		英語ⅠB	1		1		1			1							30	
		英語ⅡA		1		1		1			1						30	
		英語ⅡB		1		1		1				1					30	
		中国語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		中国語Ⅱ		1		1		1		1							30	
		ドイツ語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		ドイツ語Ⅱ		1		1		1		1							30	8単位以上
		フランス語Ⅰ		1		1		1	1								30	必修2単位+
		フランス語Ⅱ		1		1		1		1							30	選択6単位以上
		国際情勢の理解		2		2		2				2					30	
		英会話Ⅰ		1		1		1			1						30	
		英会話Ⅱ		1		1		1				1					30	
		ラテン語		2		2		2		2							30	
		現代社会に学ぶ問う力・書く力　リベラルアーツ・ゼミナール（共）※3		2		2		2	2								30	
		フランス語圏の文化とジャポニズム（共）		2		2		2							2		30	
		映画で学ぶ英語と文化（共）		2		2		2								2	30	
		映画で学ぶドイツ語と文化（共）		2		2		2							2		30	
	基礎・教養科目合計		12	176	15	173	14	174	99	71	2	4			4	8	3015	30単位以上（必修単位を含む）

※1　網掛けの科目は共同化科目のため講義は共同化施設で行う。

※2　本学科提供の共同化科目

※3　a･bとも同じ授業を行う

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和4年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	人体構造機能論Ⅰ	1		1		1		1								30	
		人体構造機能論Ⅱ	1		1		1			1							30	**看護師課程**
		生化学	1		1		1		1								30	**23単位以上**
		栄養学	1		1		1		1								30	**必修22単位+**
		薬理学	1		1		1				1						30	**選択1単位以上**
		病理学	1		1		1			1							30	
		感染免疫学	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅰ（成人急性期）	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅱ（成人慢性期）	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅲ（精神・運動器）	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅳ（臨床腫瘍）	1		1		1					1					30	**保健師課程**
		病態・疾病論Ⅴ（小児）	1		1		1					1					30	**24単位以上**
		病態・疾病論Ⅵ（老年）	1		1		1					1					30	**必修24単位+**
		成長発達論	1		1		1						1				30	**選択**
		生殖健康論	1		1		1				1						30	
		臨床遺伝学	1		1		1					1					30	
		人間看護工学		1		1		1		1							30	
	保健・福祉	疫学	1		1		1						1				30	
		公衆衛生学	1		1		1						1				30	
		医療情報学	1		1		1					1					30	**助産師課程**
		社会福祉学	1		1		1						1				30	**23単位以上**
		カウンセリング論	1		1		1						1				30	**必修23単位+**
		看護と法律	1		1		1					1					30	**選択**
		家族社会学		1	1		1						1				30	
		医療と経営		1	1			1					1				30	
	専門基礎科目合計		22	3	24	1	23	2	3	3	5	7	7				750	
専門科目	看護学の基本	看護基礎理論	2		2		2		2								30	
		看護人間論	1		1		1			1							30	
		生活援助論Ⅰ	2		2		2		2								60	
		生活援助論Ⅱ	2		2		2			2							60	
		治療援助論	2		2		2				2						60	**14単位**
		看護方法論	1		1		1					1					30	**（必修14単位）**
		ヘルスアセスメント	1		1		1				1						30	
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1		1			1							45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2		2					2					90	
		計	14		14		14		4	4	3	3					435	
	看護学の展開（理論と実践）	成人看護学概論	2		2		2			2							30	
		成人急性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人急性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人慢性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人慢性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護学実習	3		3		3							3			135	**49単位**
		成人慢性期看護学実習	3		3		3							3			135	**（必修49単位）**
		がん看護援助論	1		1		1						1				30	
		精神保健	1		1		1			1							30	
		精神看護学概論	2		2		2				2						30	
		精神看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		精神看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		精神看護学実習	3		3		3							3			135	
		小児看護学概論	2		2		2				2						30	
		小児看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		小児看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		小児看護学実習	3		3		3							3			135	
		母性看護学概論	2		2		2			2							30	
		母性看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		母性看護援助論Ⅱ	1		1		1				1						30	
		母性看護学実習	2		2		2							2			90	

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和4年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分			授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
										1年次		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目			老年看護学概論	2		2		2				2						30	
			老年看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
			老年看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
			老年看護学実習	3		3		3							3			135	
			在宅看護学概論	2		2		2					2					30	
			在宅看護援助論	1		1		1						1				30	
			在宅看護実習	1		1		1							1			45	
			地域看護学概論	2		2		2				2						30	
			健康教育論	2		2		2					2					30	
			計	49		49		49			5	12	9	5	18			1500	
	看護学の統合と発展		研究方法論Ⅰ	1		1		1						1				30	
			研究方法論Ⅱ	1		1		1								1		30	
			研究方法論Ⅲ	2		2		2									2	60	
			看護マネジメント論	1		1		1						1				15	
			国際看護・国際保健Ⅰ	1		1		1						1				15	看護師課程 14単位以上
			国際看護・国際保健Ⅱ		1		1		1								1	15	
			国際看護英語		1		1		1								1	15	必修9単位+
			看護教育論		1		1		1								1	15	選択5単位以上
			地域精神看護論		1	1			1					1				15	
			発達援助論		1		1		1								1	15	保健師課程 14単位
			看護倫理		1		1		1								1	15	
			災害看護論	1		1		1						1				15	必修14単位
			メンタルヘルス・マネジメント		1		1		1								1	15	
			看護の統合と実践Ⅰ（演習）※4		1		1		1								1	30	
			看護の統合と実践Ⅱ（実習）	2		2		2							2			90	助産師課程 10単位以上
			公衆衛生看護行政論		1	1			1					1				15	
			家族相談援助論		1	1		1						1				15	必修10単位+
			地域看護活動論Ⅰ		1	1			1					1				15	選択
			地域看護活動論Ⅱ		1	1			1					1				15	
	小計			9	12	14	7	10	11					9	2	1	9	450	
	（履修許可された学生のみが履修する）	地域看護学	地域看護診断学Ⅰ			2								2				30	保健師課程 12単位
			地域看護診断学Ⅱ			2								2				30	
			地域保健活動展開論			1		1									1	15	必修12単位
			地域看護学演習			2									2			60	助産師課程 1単位
			地域看護学実習			5										5		225	
			小計			12		1						4	2	5	1	360	必修1単位
		助産学	助産学基礎理論					1						1				15	
			親役割援助論					1									1	15	
			助産マネジメント論					2						2				30	
			ウィメンズヘルス論					1						1				15	
			周産期病態生理学Ⅰ					1						1				30	
			周産期病態生理学Ⅱ					1							1			30	助産師課程 25単位
			地域母子保健論					1							1			15	
			助産診断学Ⅰ					1						1				15	必修25単位
			助産診断学Ⅱ					1						1				15	
			助産診断学Ⅲ					1							1			15	
			助産診断学Ⅳ					1							1			15	
			助産技術学Ⅰ					1							1			30	
			助産技術学Ⅱ					1								1		30	
			助産学実習Ⅰ					2								2		90	
			助産学実習Ⅱ					8									8	360	
			助産学実習Ⅲ					1									1	45	
			小計					25						7	5	3	10	765	
	専門科目合計			72	12	89	7	99	11	4	9	15	12	25	27	9	20	3510	
全科目合計				106	191	128	181	136	187	189		45		32	27	13	28	7275	看護師課程 130単位以上 保健師課程 143単位以上 助産師課程 152単位以上
				297		309		323											

※4 看護師国家試験のみの受験資格を取得者は選択必修である。

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和3年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目	生命及び人間の尊厳	生命倫理		2		2	2		2								30	
		人権論	2		2		2		2								30	
		総合講義	2		2		2		2								30	
		医療人類学（共）		2		2		2	2								30	
		現代医療の人間観		2		2		2		2							30	
		哲学（共）		2		2		2		2							30	※1　網掛け科目すべて
		感性の実践哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		経営哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2								2	30	**22単位以上**
	人間の理解	文芸創作論（共）**※2**		2		2		2		2							30	
		音楽		2		2		2	2								30	
		心の科学	2		2		2		2								30	
		発達心理学（共）**※2**		2		2		2	2								30	
		健康スポーツ科学		2	2			2	2								30	**看護師課程**
		健康スポーツ科学演習		1	1			1		1							30	**22単位以上**
		西洋文学論（共）		2		2		2	2								30	**必修10単位+**
		日本近現代文学（共）		2		2		2		2							30	**選択12単位以上**
		西洋文化論（共）		2		2		2		2							30	
		美と芸術（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		心理学（共）		2		2		2	2								30	
		認知心理学		2		2		2	2								30	
		現代社会と心（共）		2		2		2		2							30	**保健師課程**
		資料で親しむ京都学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2								2	30	**22単位以上**
	人間と環境Ⅰ	教育の基礎		2		2		2	2								30	**必修13単位+**
		法律と社会	2		2		2		2								30	**選択9単位以上**
		生活と経済（共）		2		2		2		2							30	
		医療社会史		2		2		2		2							30	
		宗教と文化（共）**※2**		2		2		2		2							30	
		医療と社会		2		2		2	2								30	
		比較宗教学（共）		2		2		2	2								30	
		日本史（共）		2		2		2		2							30	
		京都の文化と文化財（共）		2		2		2		2							30	**助産師課程**
		観光学α（共）		2		2		2	2								30	**22単位以上**
		東西文化交流史（共）		2		2		2		2							30	**必修12単位+**
		アジアの歴史と文化（共）		2		2		2	2								30	**選択10単位以上**
		ヨーロッパの歴史と文化（共）		2		2		2		2							30	
		日本近代精神史（共）		2		2		2	2								30	
		京の意匠（共）		2		2		2		2							30	
		京都の歴史Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		京都の歴史Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		英語で京都（共）		2		2		2								2	30	
		政治学（共）		2		2		2		2							30	
		国際政治（共）		2		2		2	2								30	
		経済学入門（共）		2		2		2		2							30	
		京都の経済（共）		2		2		2		2							30	
		現代教育論（共）		2		2		2	2								30	
		京の産業技術史（共）		2		2		2	2								30	
		近代京都と三大学（共）		2		2		2	2								30	
		SDGsをまなぶ		2		2		2		2							30	
		社会学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会とジェンダー（共）		2		2		2	2								30	
		現代京都論（共）		2		2		2	2								30	

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和3年度入学生用）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目	人間と環境Ⅱ	科学史（共）		2		2		2	2								30	
		環境問題と持続可能な社会（共）		2		2		2	2								30	
		環境と法（共）		2		2		2		2							30	
		法学（共）		2		2		2	2								30	
		京都の防災と府民（共）		2		2		2		2							30	
		京都の農林業（共）		2		2		2		2							30	
		京都の自然（共）		2		2		2	2								30	
		現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		社会科学の学び方　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		世界はいま　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		現代イスラーム世界の文化と社会　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		生物学的人間学（共）**※2**		2		2		2	2								30	**1科目以上履修する**
		生命有機化学		2		2		2		2							30	
		物理学		2		2		2	2								30	
		情報科学	2		2		2		2								30	※「生物学的人間学」「生命有機化学」「物理学」から1科目以上履修する（すべての課程に共通）
		人と自然と数学α（共）		2		2		2	2								30	
		人と自然と数学β（共）		2		2		2		2							30	
		物理学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		人と自然と物理学（共）		2		2		2		2							30	
		化学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		化学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		生物学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		生物学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		地球の科学（共）		2		2		2		2							30	
		エネルギー科学（共）		2		2		2	2								30	
		キャンパスヘルス概論（共）		2		2		2	2								30	
		食と健康の科学（共）		2		2		2	2								30	
		現代科学と倫理（共）		2		2		2	2								30	
		意外と知らない植物の世界（共）		2		2		2		2							30	
		生命科学講話（共）		2		2		2	2								30	
		時間生物学特論（共）		1		1		1	1						1		15	**院生も対象**
		製品の機能から科学を学ぶ　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2	2								30	
		レーザで測る、創る、楽しむ　リベラルアーツ・ゼミナール		2		2		2	2								30	
		計	10	159	13	156	12	157	94	67	0	0	0	0	1	6	2550	
	国際理解とコミュニケーション	英語ⅠA	1		1		1		1								30	
		英語ⅠB	1		1		1			1							30	
		英語ⅡA		1		1		1			1						30	
		英語ⅡB		1		1		1				1					30	
		中国語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		中国語Ⅱ		1		1		1		1							30	
		ドイツ語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		ドイツ語Ⅱ		1		1		1		1							30	
		フランス語Ⅰ		1		1		1	1								30	**8単位以上**
		フランス語Ⅱ		1		1		1		1							30	**必修2単位+**
		国際情勢の理解		2		2		2				2					30	**選択6単位以上**
		英会話Ⅰ		1		1		1			1						30	
		英会話Ⅱ		1		1		1				1					30	
		ラテン語（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会に学ぶ問う力・書く力　リベラルアーツ・ゼミナール（共）**※3**		2		2		2	2								30	
		フランス語圏の文化とジャポニズム（共）		2		2		2							2		30	
		映画で学ぶ英語と文化（共）		2		2		2								2	30	
		映画で学ぶドイツ語と文化（共）		2		2		2							2		30	
		計	2	22	2	22	2	22	6	6	2	4	0	0	4	2	540	
基礎・教養科目合計			12	181	15	178	14	179	100	73	2	4	0	0	5	8	3090	**30単位以上（必修12単位を含む）**

※1　網掛けの科目は共同化科目のため講義は共同化施設で行う。
※2　本学科提供の共同化科目
※3　a・bとも同じ授業を行う

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和3年度入学生用）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	人体構造機能論Ⅰ	1		1		1		1								30	
		人体構造機能論Ⅱ	1		1		1			1							30	
		生化学	1		1		1		1								30	
		栄養学	1		1		1		1								30	
		薬理学	1		1		1				1						30	
		病理学	1		1		1			1							30	23単位以上
		感染免疫学	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅰ（成人急性期）	1		1		1				1						30	看護師課程
		病態・疾病論Ⅱ（成人慢性期）	1		1		1				1						30	必修21単位+
		病態・疾病論Ⅲ（精神・運動器）	1		1		1					1					30	選択2単位以上
		病態・疾病論Ⅳ（臨床腫瘍）	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅴ（小児）	1		1		1					1					30	保健師課程
		病態・疾病論Ⅵ（老年）	1		1		1					1					30	必修23単位+選択
		成長発達論	1		1		1						1				30	
		生殖健康論	1		1		1				1						30	助産師課程
		臨床遺伝学		1		1	1					1					30	必修23単位+選択
		人間看護工学		1		1		1		1							30	
	保健・福祉	疫学	1		1		1						1				30	
		公衆衛生学	1		1		1						1				30	
		医療情報学	1		1		1					1					30	
		社会福祉学	1		1		1						1				30	
		カウンセリング論	1		1		1						1				30	
		看護と法律	1		1		1					1					30	
		家族社会学		1	1		1						1				30	
		医療と経営		1	1			1					1				30	
	専門基礎科目合計		21	4	23	2	23	2	3	3	5	7	7			0	750	23単位以上（必修単位を含む）
専門科目	看護学の基本	看護基礎理論	2		2		2		2								30	
		看護人間論	1		1		1			1							30	
		生活援助論Ⅰ	2		2		2		2								60	
		生活援助論Ⅱ	2		2		2			2							60	
		治療援助論	2		2		2				2						60	14単位
		看護方法論	1		1		1					1					30	（必修14単位）
		ヘルスアセスメント	1		1		1				1						30	
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1		1			1							45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2		2					2					90	
		計	14		14		14		4	4	3	3					435	
	看護学の展開（理論と実践）	成人看護学概論	2		2		2			2							30	
		成人急性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人急性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護援助論Ⅲ	1		1		1					1					30	
		成人慢性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人慢性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護学実習	3		3		3							3			135	
		成人慢性期看護学実習	3		3		3							3			135	
		がん看護援助論	1		1		1						1				30	
		精神保健	1		1		1			1							30	
		精神看護学概論	2		2		2				2						30	
		精神看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		精神看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		精神看護学実習	3		3		3							3			135	
		小児看護学概論	2		2		2				2						30	
		小児看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		小児看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		小児看護援助論Ⅲ	1		1		1						1				30	
		小児看護学実習	3		3		3							3			135	
		母性看護学概論	2		2		2			2							30	50単位
		母性看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	（必修50単位）
		母性看護援助論Ⅱ	1		1		1				1						30	
		母性看護学実習	2		2		2							2			90	

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和3年度入学生用）

区分			授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
										1年次		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目			老年看護学概論	2		2		2				2						30	
			老年看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
			老年看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
			老年看護援助論Ⅲ	1		1		1						1				30	
			老年看護学実習	3		3		3							3			135	
			在宅看護論Ⅰ	1		1		1					1					30	
			在宅看護論Ⅱ	1		1		1						1				30	
			在宅看護実習	1		1		1							1			45	
			地域看護学概論	2		2		2				2						30	
			健康教育論	1		1		1					1					30	
			計	50		50		50			5	12	8	7	18			1590	
	看護学の統合と発展		研究方法論Ⅰ	1		1		1						1				30	
			研究方法論Ⅱ	1		1		1								1		30	
			研究方法論Ⅲ	2		2		2									2	60	14単位以上
			看護マネジメント論	1		1		1						1				15	
			国際看護・国際保健	1		1		1						1				15	看護師課程 14単位以上
			国際看護英語		1		1		1								1	15	
			看護教育論		1		1		1								1	15	必修9単位(看護の統合と実践Ⅰ含む)+ 選択5単位以上
			看護倫理		1		1		1								1	15	
			災害看護論		1		1		1					1				15	
			地域精神看護論		1	1			1					1				15	保健師課程 14単位以上
			発達援助論		1		1		1								1	15	
			高齢者健康論		1		1		1								1	15	必修13単位+ ※5から1単位振り替え
			看護の統合と実践Ⅰ(演習)※4		1		1		1								1	30	
			看護の統合と実践Ⅱ(実習)	2		2		2							2			90	助産師課程 14単以上
			公衆衛生看護行政論		1	1			1					1				15	
			家族相談援助論		1	1		1						1				15	必修9単位+ ※6から5単位振り替え
			地域看護活動論Ⅰ		1	1			1					1				15	
			地域看護活動論Ⅱ		1	1			1					1				15	
			小計	8	12	13	7	9	11					9	2	1	8	435	
		地域看護学※5	地域看護診断学Ⅰ			2								2				30	保健師課程12単位 必修12単位
			地域看護診断学Ⅱ			2								2				30	
			地域保健活動展開論			1		1									1	15	
			地域看護学演習			2									2			60	助産師課程1単位 必修1単位
			地域看護学実習			5										5		225	
			小計			12		1	0					4	2	5	1	360	
		助産学※6	助産学基礎理論					1						1				15	助産師課程22単位 必修22単位
			親役割援助論					1									1	15	
			助産マネジメント論					2						2				30	
			ウィメンズヘルス論					1						1				15	
			周産期病態生理学Ⅰ					1						1				30	
			周産期病態生理学Ⅱ					1							1			30	
			助産診断・技術学Ⅰ					1						1				30	
			助産診断・技術学Ⅱ					1							1			30	
			助産診断・技術学Ⅲ					1							1			30	
			助産診断・技術学Ⅳ					1								1		30	
			助産学実習Ⅰ					2								2		90	
			助産学実習Ⅱ					8									8	360	
			助産学実習Ⅲ					1									1	45	
			小計		0		0	22	0					6	3	3	10	750	
	専門科目合計			72	12	89	7	96	11	4	9	15	11	26	34		19	3570	
全科目総計				105	197	127	187	133	192	192		44		33	34		19	7410	看護師課程 131単位以上 保健師課程 142単位以上 助産師課程 149単位以上
				302		314		325											

※4 看護師国家試験のみの受験資格を取得者は選択必修である。

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和2年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目	生命及び人間の尊厳	生命倫理		2		2	2		2								30	
		人権論	2		2		2		2								30	
		総合講義	2		2		2		2								30	
		医療人類学（共）		2		2		2	2								30	
		哲学（共）		2		2		2	2								30	※1　網掛け科目すべて
		科学と思想　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		感性の実践哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	22単位以上
		経営哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2								2	30	
	人間の理解	文芸創作論（共）　※2		2		2		2		2							30	
		音楽		2		2		2	2								30	
		心の科学	2		2		2		2								30	
		発達心理学（共）　※2		2		2		2	2								30	看護師課程
		健康スポーツ科学		2	2			2	2								30	22単位以上
		健康スポーツ科学演習		1	1			1		1							30	必修10単位+
		西洋文学論（共）		2		2		2	2								30	選択12単位以上
		日本近現代文学（共）		2		2		2		2							30	
		西洋文化論（共）		2		2		2		2							30	
		美と芸術（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		心理学（共）		2		2		2	2								30	
		認知心理学		2		2		2		2							30	保健師課程
		現代社会と心（共）		2		2		2		2							30	22単位以上
		資料で親しむ京都学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2								2	30	必修13単位+
	人間と環境Ⅰ	教育の基礎		2		2		2	2								30	選択9単位以上
		法律と社会	2		2		2		2								30	
		生活と経済（共）		2		2		2		2							30	
		医療社会史		2		2		2		2							30	
		宗教と文化（共）※2		2		2		2		2							30	
		比較宗教学（共）		2		2		2	2								30	
		日本史（共）		2		2		2		2							30	
		京都の文化と文化財（共）		2		2		2		2							30	助産師課程
		観光学α（共）		2		2		2	2								30	22単位以上
		東西文化交流史（共）		2		2		2		2							30	必修12単位+
		アジアの歴史と文化（共）		2		2		2		2							30	選択10単位以上
		ヨーロッパの歴史と文化（共）		2		2		2	2								30	
		日本近代精神史（共）		2		2		2		2							30	
		京の意匠（共）		2		2		2		2							30	
		京都の歴史Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		京都の歴史Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		英語で京都（共）		2		2		2								2	30	
		政治学（共）		2		2		2		2							30	
		国際政治（共）		2		2		2	2								30	
		経済学入門（共）		2		2		2		2							30	
		京都の経済（共）		2		2		2		2							30	
		人文地理学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		人文地理学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		現代教育論（共）		2		2		2	2								30	
		京の産業技術史（共）		2		2		2	2								30	
		近代京都		2		2		2	2								30	
		SDGsをま		2		2		2		2							30	
		社会学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会とジェンダー（共）		2		2		2	2								30	
		現代京都論（共）		2		2		2	2								30	

（3）医学部看護学科開講授業科目（令和2年度入学生用）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目		科学史（共）		2		2		2	2								30	
		環境問題と持続可能な社会（共）		2		2		2	2								30	
		環境と法（共）		2		2		2		2							30	
		法学（共）		2		2		2	2								30	
		京都の防災と府民（共）		2		2		2		2							30	
		京都の農林業（共）		2		2		2		2							30	
		京都の自然（共）		2		2		2	2								30	
		現代正義論(リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		社会科学の学び方 リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		世界はいま リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		現代イスラーム世界の文化と社会 リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
	人間と環境Ⅱ	生物学的人間学（共）※2		2		2		2	2								30	1科目以上履修する
		生命有機化学		2		2		2		2							30	
		物理学		2		2		2	2								30	
		情報科学	2		2		2		2								30	※「生物学的人間学」「生命有機化学」「物理学」から1科目以上履修する（すべての課程に共通）
		人と自然と数学α（共）		2		2		2	2								30	
		人と自然と数学β（共）		2		2		2		2							30	
		物理学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		人と自然と物理学（共）		2		2		2		2							30	
		化学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		化学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		生物学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		生物学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		地球の科学（共）		2		2		2		2							30	
		エネルギー科学（共）		2		2		2	2								30	
		キャンパスヘルス概論（共）		2		2		2	2								30	
		食と健康の科学（共）		2		2		2	2								30	
		現代科学と倫理（共）		2		2		2	2								30	
		意外と知らない植物の世界（共）		2		2		2		2							30	
		生命科学講話（共）		2		2		2	2								30	
		時間生物学特論（共）		1		1		1							1		15	院生も対象
		製品の機能から科学を学ぶ リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2	2								30	
		レーザで測る、創る、楽しむ リベラルアーツ・ゼミナール		2		2		2	2								30	
		計	10	161	13	158	12	159	91	71	0	0	0	0	1	6	2580	
	国際理解とコミュニケーション	英語ⅠA	1		1		1		1								30	
		英語ⅠB	1		1		1			1							30	
		英語ⅡA		1		1		1			1						30	
		英語ⅡB		1		1		1				1					30	
		中国語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		中国語Ⅱ		1		1		1		1							30	
		ドイツ語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		ドイツ語Ⅱ		1		1		1		1							30	8単位以上
		フランス語Ⅰ		1		1		1	1								30	必修2単位+
		フランス語Ⅱ		1		1		1		1							30	選択6単位以上
		国際情勢の理解		2		2		2				2					30	
		英会話Ⅰ		1		1		1			1						30	
		英会話Ⅱ		1		1		1				1					30	
		ラテン語（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会に学ぶ問う力・書く力 リベラルアーツ・ゼミナール（共）※3		2		2		2	2								30	
		フランス語圏の文化とジャポニズム（共）		2		2		2							2		30	
		映画で学ぶ英語と文化（共）		2		2		2								2	30	
		映画で学ぶドイツ語と文化（共）		2		2		2							2		30	
		計	2	22	2	22	2	22	6	6	2	4	0	0	4	2	540	
基礎・教養科目合計			12	183	15	180	14	181	97	77	2	4	0	0	5	8	3120	30単位以上（必修単位を含む）

※1 網掛けの科目は共同化科目のため講義は共同化施設で行う。
※2 本学科提供の共同化科目
※3 a・bとも同じ授業を行う

(3)医学部看護学科開講授業科目(令和2年度入学生用)

区分		授業科目	単位数(看護師)		単位数(保健師)		単位数(助産師)		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	人体構造機能論Ⅰ	1		1		1		1								30	
		人体構造機能論Ⅱ	1		1		1			1							30	
		生化学	1		1		1		1								30	
		栄養学	1		1		1		1								30	
		薬理学	1		1		1				1						30	
		病理学	1		1		1			1							30	
		感染免疫学	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅰ(成人急性期)	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅱ(成人慢性期)	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅲ(精神・運動器)	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅳ(臨床腫瘍)	1		1		1					1					30	23単位以上
		病態・疾病論Ⅴ(小児)	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅵ(老年)	1		1		1					1					30	看護師課程
		成長発達論	1		1		1						1				30	必修21単位+
		生殖健康論	1		1		1				1						30	選択2単位以上
		臨床遺伝学		1		1	1					1					30	
		人間看護工学		1		1		1		1							30	保健師課程
	保健・福祉	疫学	1		1		1						1				30	必修23単位+選択
		公衆衛生学	1		1		1						1				30	
		医療情報学	1		1		1					1					30	助産師課程
		社会福祉学	1		1		1						1				30	必修23単位+選択
		カウンセリング論	1		1		1						1				30	
		看護と法律	1		1		1					1					30	
		家族社会学		1	1		1						1				30	
		医療と経営		1	1			1					1				30	
	専門基礎科目合計		21	4	23	2	23	2	3	3	5	7	7			0	750	23単位以上(必修単位を含む)
専門科目	看護学の基本	看護基礎理論	2		2		2		2								30	
		看護人間論	1		1		1			1							30	
		生活援助論Ⅰ	2		2		2		2								60	
		生活援助論Ⅱ	2		2		2			2							60	
		治療援助論	2		2		2				2						60	14単位
		看護方法論	1		1		1					1					30	(必修14単位)
		ヘルスアセスメント	1		1		1				1						30	
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1		1			1							45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2		2					2					90	
		計	14		14		14		4	4	3	3					435	
	看護学の展開(理論と実践)	成人看護学概論	2		2		2			2							30	
		成人急性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人急性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護援助論Ⅲ	1		1		1					1					30	
		成人慢性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人慢性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護学実習	3		3		3							3			135	
		成人慢性期看護学実習	3		3		3							3			135	
		がん看護援助論	1		1		1						1				30	
		精神保健	1		1		1			1							30	
		精神看護学概論	2		2		2				2						30	
		精神看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		精神看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		精神看護学実習	3		3		3							3			135	
		小児看護学概論	2		2		2				2						30	
		小児看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		小児看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		小児看護援助論Ⅲ	1		1		1						1				30	
		小児看護学実習	3		3		3							3			135	
		母性看護学概論	2		2		2			2							30	50単位
		母性看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	(必修50単位)
		母性看護援助論Ⅱ	1		1		1				1						30	
		母性看護学実習	2		2		2							2			90	

(3)医学部看護学科開講授業科目(令和2年度入学生用)

区分		授業科目	単位数(看護師)		単位数(保健師)		単位数(助産師)		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目		老年看護学概論	2		2		2				2						30	
		老年看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		老年看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		老年看護援助論Ⅲ	1		1		1						1				30	
		老年看護学実習	3		3		3						3				135	
		在宅看護論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		在宅看護論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		在宅看護実習	1		1		1						1				45	
		地域看護学概論	2		2		2				2						30	
		健康教育論	1		1		1					1					30	
		計	50		50		50			5	12	8	7	18			1590	
	看護学の統合と発展	研究方法論Ⅰ	1		1		1						1				30	
		研究方法論Ⅱ	1		1		1								1		30	14単位以上
		研究方法論Ⅲ	2		2		2									2	60	
		看護マネジメント論	1		1		1						1				15	看護師課程
		国際看護・国際保健	1		1		1						1				15	14単位以上
		国際看護英語		1		1		1								1	15	必修9単位(看護の統合と実践Ⅰ含む)+
		看護教育論		1		1		1								1	15	選択5単位以上
		看護倫理		1		1		1								1	15	
		災害看護論		1		1		1					1				15	保健師課程
		地域精神看護論		1	1			1					1				15	14単位以上
		発達援助論		1		1		1								1	15	必修13単位+
		高齢者健康論		1		1		1								1	15	※5から1単位振り替え
		看護の統合と実践Ⅰ(演習)※4		1		1		1								1	30	助産師課程
		看護の統合と実践Ⅱ(実習)	2		2		2							2			90	14単以上
		公衆衛生看護行政論		1	1			1					1				15	必修9単位+
		家族相談援助論		1	1		1						1				15	※6から5単位振り替え
		地域看護活動論Ⅰ		1	1			1					1				15	
		地域看護活動論Ⅱ		1	1			1					1				15	
		小計	8	12	13	7	9	11					9	2	1	8	435	
		地域看護診断学Ⅰ			2								2				30	保健師課程12単位
		地域看護診断学Ⅱ			2								2				30	必修12単位
		地域保健活動展開論			1		1									1	15	
		地域看護学演習			2									2			60	助産師課程1単位
		地域看護学実習			5										5		225	必修1単位
		小計			12		1	0					4	2	5	1	360	
		助産学基礎理論					1						1				15	
		親役割援助論					1									1	15	
		助産マネジメント論					2						2				30	
		ウィメンズヘルス論					1						1				15	助産師課程22単位
		周産期病態生理学Ⅰ					1						1				30	必修22単位
		周産期病態生理学Ⅱ					1							1			30	
		助産診断・技術学Ⅰ					1						1				30	
		助産診断・技術学Ⅱ					1							1			30	
		助産診断・技術学Ⅲ					1							1			30	
		助産診断・技術学Ⅳ					1								1		30	
		助産学実習Ⅰ					2								2		90	
		助産学実習Ⅱ					8									8	360	
		助産学実習Ⅲ					1									1	45	
		小計		0		0	22	0					6	3	3	10	750	
	専門科目合計		72	12	89	7	96	11	4	9	15	11	26	34		19	3570	
全科目総計			105	199	127	189	133	194	193		44		33	34		19	7440	看護師課程 131単位以上 保健師課程 142単位以上 助産師課程 149単位以上
			304		316		327											

※4　看護師国家試験のみの受験資格を取得者は選択必修である。

（3）医学部看護学科開講授業科目（平成31年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目	生命及び人間の尊厳	生命倫理		2		2	2		2								30	
		人権論	2		2		2		2								30	
		総合講義	2		2		2		2								30	
		哲学（共）		2		2		2		2							30	※1　網掛け科目すべて
		科学と思想　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		感性の実践哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		経営哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2								2	30	
	人間の理解	文芸創作論（共）　**※2**		2		2		2		2							30	
		音楽		2		2		2	2								30	
		心の科学	2		2		2		2								30	
		発達心理学（共）　**※2**		2		2		2	2								30	
		健康スポーツ科学		2	2			2	2								30	
		健康スポーツ科学演習		1	1			1		1							30	
		日本文学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		日本文学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		西洋文学論（共）		2		2		2	2								30	
		日本近現代文学（共）		2		2		2		2							30	
		西洋文化論（共）		2		2		2		2							30	
		美と芸術（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	22単位以上
		京都の文学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	（必修10単位を含む）
		心理学（共）		2		2		2	2								30	
		現代社会と心（共）		2		2		2		2							30	
		資料で親しむ京都学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2								2	30	
	人間と環境Ⅰ	環境論（共）（31年度開講なし）		2		2		2		2							30	
		教育の基礎		2		2		2	2								30	
		法律と社会	2		2		2		2								30	
		生活と経済（共）		2		2		2		2							30	
		医療社会史		2		2		2		2							30	
		宗教と文化（共）**※2**		2		2		2		2							30	
		比較宗教学（共）		2		2		2	2								30	
		日本史（共）		2		2		2	2								30	
		東西文化交流史（共）		2		2		2		2							30	
		アジアの歴史と文化（共）		2		2		2	2								30	
		ヨーロッパの歴史と文化（共）		2		2		2		2							30	
		日本近代精神史（共）		2		2		2	2								30	
		京の意匠（共）		2		2		2		2							30	
		京都の歴史Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		京都の歴史Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		英語で京都　（共）		2		2		2								2	30	
		政治学（共）		2		2		2		2							30	
		国際政治（共）		2		2		2	2								30	
		経済学入門（共）		2		2		2		2							30	
		京都の経済（共）		2		2		2		2							30	
		人文地理学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		人文地理学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		現代教育論（共）		2		2		2	2								30	
		京の産業技術史（共）		2		2		2		2							30	
		近代京都と三大学（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会とジェンダー（共）		2		2		2	2								30	
		現代京都論（共）		2		2		2	2								30	
		医史学（共）		2		2		2		2							30	
		科学史（共）		2		2		2		2							30	

（3）医学部看護学科開講授業科目（平成31年度入学生用）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目		環境問題と持続可能な社会（共）		2		2		2	2								30	
		環境と法（共）		2		2		2		2							30	
		法学（共）		2		2		2	2								30	
		京都の防災と府民（共）		2		2		2		2							30	
		京都の農林業（共）		2		2		2		2							30	
		京都の自然と森林（共）		2		2		2	2								30	
		京野菜を栽培する（共）（31年度開講なし）		1		1		1	1								30	
		社会科学の学び方 リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会と映画制作 リベラルアーツ・ゼミナール（共）（31年度開講なし）		1		1		1	1								15	
		世界はいま リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		現代イスラーム世界の文化と社会 リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
	人間と環境Ⅱ	生物学的人間学（共）※2		2		2		2	2								30	1科目以上履修する
		生命有機化学		2		2		2		2							30	
		物理学		2		2		2	2								30	
		情報科学	2		2		2		2								30	
		人と自然と数学α（共）		2		2		2	2								30	
		人と自然と数学β（共）		2		2		2		2							30	
		物理学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		人と自然と物理学（共）		2		2		2		2							30	
		化学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		化学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		生物学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		生物学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		地球の科学（共）		2		2		2		2							30	
		エネルギー科学（共）		2		2		2	2								30	
		キャンパスヘルス概論（共）		2		2		2	2								30	
		食と健康の科学（共）		2		2		2	2								30	
		食環境をめぐる国際社会と日本（共）		2		2		2	2								30	
		現代科学と倫理（共）		2		2		2	2								30	
		意外と知らない植物の世界（共）		2		2		2		2							30	
		生命科学講話（共）		2		2		2	2								30	
		時間生物学特論（共）		1		1		1							1		15	院生も対象
		製品の機能から科学を学ぶ リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		レーザーで測る、創る、楽しむ リベラルアーツ・ゼミナール		2		2		2	2								30	
		計	10	161	13	158	12	159	89	73	0	0	0	0	1	6	2595	
	国際理解とコミュニケーション	英語ⅠA	1		1		1		1								30	
		英語ⅠB	1		1		1			1							30	
		英語ⅡA		1		1		1			1						30	
		英語ⅡB		1		1		1				1					30	
		中国語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		中国語Ⅱ		1		1		1		1							30	
		ドイツ語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		ドイツ語Ⅱ		1		1		1		1							30	8単位以上
		フランス語Ⅰ		1		1		1	1								30	（必修2単位を含む）
		フランス語Ⅱ		1		1		1		1							30	
		国際情勢の理解		2		2		2				2					30	
		英会話Ⅰ		1		1		1			1						30	
		英会話Ⅱ		1		1		1				1					30	
		ラテン語（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会に学ぶ問う力・書く力 リベラルアーツ・ゼミナール（共）※3		2		2		2	2								30	
		フランス語圏の文化とジャポニズム（共）		2		2		2							2		30	
		映画で学ぶ英語と文化（共）		2		2		2								2	30	
		映画で学ぶドイツ語と文化（共）		2		2		2							2		30	
		計	2	22	2	22	2	22	6	6	2	4	0	0	4	2	540	
基礎・教養科目合計			12	183	15	180	14	181	95	79	2	4	0	0	5	8	3135	30単位以上（必修12単位を含む）

※1 網掛けの科目は共同化科目のため講義は共同化施設で行う。
※2 本学科提供の共同化科目
※3 a・bとも同じ授業を行う

（3）医学部看護学科開講授業科目（平成31年度入学生用）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	人体構造機能論Ⅰ	1		1		1		1								30	
		人体構造機能論Ⅱ	1		1		1			1							30	
		生化学	1		1		1		1								30	
		栄養学	1		1		1		1								30	
		薬理学	1		1		1				1						30	
		病理学	1		1		1			1							30	
		感染免疫学	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅰ（成人急性期）	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅱ（成人慢性期）	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅲ（精神・運動器）	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅳ（臨床腫瘍）	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅴ（小児）	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅵ（老年）	1		1		1					1					30	
		成長発達論	1		1		1						1				30	
		生殖健康論	1		1		1				1						30	
		臨床遺伝学		1		1	1					1					30	23単位以上
		人間看護工学		1		1		1		1							30	（必修21単位を含む）
	保健・福祉	疫学	1		1		1						1				30	
		公衆衛生学	1		1		1						1				30	
		医療情報学	1		1		1					1					30	
		社会福祉学	1		1		1						1				30	
		カウンセリング論	1		1		1						1				30	
		看護と法律	1		1		1					1					30	
		家族社会学		1	1		1						1				30	
		医療と経営		1	1			1					1				30	
	専門基礎科目合計		21	4	23	2	23	2	3	3	5	7	7			0	750	23単位以上（必修21単位を含む）
専門科目	看護学の基本	看護基礎理論	2		2		2		2								30	
		看護人間論	1		1		1			1							30	
		生活援助論Ⅰ	2		2		2		2								60	
		生活援助論Ⅱ	2		2		2			2							60	
		治療援助論	2		2		2				2						60	14単位
		看護方法論	1		1		1					1					30	（必修14単位）
		ヘルスアセスメント	1		1		1				1						30	
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1		1			1							45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2		2					2					90	
		計	14		14		14		4	4	3	3					435	
	看護学の展開（理論と実践）	成人看護学概論	2		2		2			2							30	
		成人急性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人急性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護援助論Ⅲ	1		1		1					1					30	
		成人慢性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人慢性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護学実習	3		3		3							3			135	
		成人慢性期看護学実習	3		3		3							3			135	
		がん看護援助論	1		1		1						1				30	
		精神保健	1		1		1			1							30	
		精神看護学概論	2		2		2				2						30	
		精神看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		精神看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		精神看護学実習	3		3		3							3			135	
		小児看護学概論	2		2		2				2						30	
		小児看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		小児看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		小児看護援助論Ⅲ	1		1		1						1				30	
		小児看護学実習	3		3		3							3			135	
		母性看護学概論	2		2		2			2							30	50単位
		母性看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	（必修50単位）
		母性看護援助論Ⅱ	1		1		1				1						30	
		母性看護学実習	2		2		2							2			90	

（3）医学部看護学科開講授業科目（平成31年度入学生用）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目		老年看護学概論	2		2		2				2						30	
		老年看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		老年看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		老年看護援助論Ⅲ	1		1		1						1				30	
		老年看護学実習	3		3		3							3			135	
		在宅看護論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		在宅看護論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		在宅看護実習	1		1		1							1			45	
		地域看護学概論	2		2		2				2						30	
		健康教育論	1		1		1					1					30	
		計	50		50		50			5	12	8	7	18			1590	
	看護学の統合と発展	研究方法論Ⅰ	1		1		1						1				30	
		研究方法論Ⅱ	1		1		1								1		30	
		研究方法論Ⅲ	2		2		2									2	60	
		看護マネジメント論	1		1		1						1				15	
		国際看護・国際保健	1		1		1						1				15	
		国際看護英語		1		1		1								1	15	
		看護教育論		1		1		1								1	15	14単位以上
		看護倫理		1		1		1								1	15	（必修8単位を含む）
		災害看護論		1		1		1					1				15	
		地域精神看護論		1	1			1					1				15	
		発達援助論		1		1		1								1	15	
		高齢者健康論		1		1		1								1	15	
		看護の統合と実践Ⅰ（演習）※4		1		1		1								1	30	
		看護の統合と実践Ⅱ（実習）	2		2		2							2			90	
		公衆衛生看護行政論		1	1			1					1				15	
		家族相談援助論		1	1		1						1				15	
		地域看護活動論Ⅰ		1	1			1					1				15	
		地域看護活動論Ⅱ		1	1			1					1				15	
		小計	8	12	13	7	9	11					9	2	1	8	435	
	地域看護学	地域看護診断学Ⅰ			2								2				30	
		地域看護診断学Ⅱ			2								2				30	
		地域保健活動展開論			1		1									1	15	
		地域看護学演習			2									2			60	
		地域看護学実習			5										5		225	
		小計			12		1	0					4	2	5	1	360	
	助産学	助産学基礎理論					1						1				15	
		親役割援助論					1									1	15	
		助産マネジメント論					2						2				30	
		ウィメンズヘルス論					1						1				15	
		周産期病態生理学Ⅰ					1						1				30	
		周産期病態生理学Ⅱ					1							1			30	
		助産診断・技術学Ⅰ					1						1				30	
		助産診断・技術学Ⅱ					1							1			30	
		助産診断・技術学Ⅲ					1							1			30	
		助産診断・技術学Ⅳ					1								1		30	
		助産学実習Ⅰ					2								2		90	
		助産学実習Ⅱ					8									8	360	
		助産学実習Ⅲ					1									1	45	
		小計		0		0	22	0					6	3	3	10	750	
専門科目合計			72	12	89	7	96	11	4	9	15	11	26	34		19	3570	78単位以上（必修72単位を含む）
全科目総計			105	199	127	189	133	194	193		44		33	34		19	7455	131単位以上（必修105単位を含む）
			304		316		327											

「地域看護学」「助産学」の履修単位は、看護学の統合と発展の履修要件（保健師課程1単位、助産師課程5単位）に振替える。

したがって、保健師及び助産師国家試験受験資格を取得の上、卒業するためには保健師142単位、助産師149単位以上の履修が必要である。

※4 看護師国家試験のみの受験資格を取得者は選択必修である。

（3）医学部看護学科開講授業科目（平成30年度入学生用）

別表1　医学部看護学科教育課程（第3条関係）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目	生命及び人間の尊厳	生命倫理		2		2	2		2								30	
		人権論	2		2		2		2								30	
		総合講義	2		2		2		2								30	
		哲学（共）		2		2		2		2							30	※1　網掛け科目すべて
		科学と思想　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		感性の実践哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		経営哲学　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2							2		30	
	人間の理解	文芸創作論（共）　**※2**		2		2		2		2							30	
		音楽		2		2		2	2								30	
		心の科学	2		2		2		2								30	
		発達心理学（共）　**※2**		2		2		2	2								30	
		健康スポーツ科学		2	2			2	2								30	
		健康スポーツ科学演習		1	1			1		1							30	
		日本文学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		日本文学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		西洋文学論（共）		2		2		2	2								30	
		日本近現代文学（共）		2		2		2	2								30	
		西洋文化論（共）		2		2		2		2							30	
		美と芸術（共）		2		2		2	2								30	
		京都の文学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	**22単位以上**
		京都の文学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	**（必修10単位を含む）**
		心理学（共）		2		2		2	2								30	
		現代社会と心（共）		2		2		2		2							30	
		京都学・歴彩館ゼミ（共）		2		2		2								2	30	
	人間と環境Ⅰ	環境論（共）		2		2		2		2							30	
		教育の基礎		2		2		2	2								30	
		法律と社会	2		2		2		2								30	
		生活と経済（共）		2		2		2		2							30	
		医療社会史		2		2		2		2							30	
		宗教と文化（共）**※2**		2		2		2		2							30	
		比較宗教学（共）		2		2		2	2								30	
		日本史（共）		2		2		2	2								30	
		東西文化交流史（共）		2		2		2		2							30	
		アジアの歴史と文化（共）		2		2		2	2								30	
		ヨーロッパの歴史と文化（共）		2		2		2		2							30	
		日本近代精神史（共）		2		2		2	2								30	
		京の意匠（共）		2		2		2		2							30	
		京都の歴史Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		京都の歴史Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		英語で京都　（共）		2		2		2								2	30	
		政治学（共）		2		2		2		2							30	
		国際政治（共）		2		2		2	2								30	
		経済学入門（共）		2		2		2		2							30	
		京都の経済（共）		2		2		2		2							30	
		人文地理学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		人文地理学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		現代教育論（共）		2		2		2	2								30	
		京の産業技術史（共）		2		2		2		2							30	
		近代京都と三大学（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		社会学Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会とジェンダー（共）		2		2		2	2								30	
		現代京都論（共）		2		2		2	2								30	

（3）医学部看護学科開講授業科目（平成30年度入学生用）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目		医史学（共）		2		2		2	2								30	
		科学史（共）		2		2		2		2							30	
		環境問題と持続可能な社会（共）		2		2		2	2								30	
		環境と法（共）		2		2		2		2							30	
		法学（共）		2		2		2	2								30	
		京都の防災と府民（共）		2		2		2		2							30	
		京都の農林業（共）		2		2		2		2							30	
		京都の自然と森林（共）		2		2		2	2								30	
		京野菜を栽培する（共）		2		2		2	2								30	
		社会科学の学び方　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会と映画制作　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
		世界はいま　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1		1							15	
		現代イスラーム世界の文化と社会　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		1		1		1	1								15	
	人間と環境Ⅱ	生物学的人間学（共）※2		2		2		2	2								30	1科目以上履修する
		生命有機化学		2		2		2		2							30	
		物理学		2		2		2	2								30	
		情報科学	2		2		2		2								30	
		人と自然と数学α（共）		2		2		2	2								30	
		人と自然と数学β（共）		2		2		2		2							30	
		物理学Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		人と自然と物理学（共）		2		2		2		2							30	
		化学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		化学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		生物学概論Ⅰ（共）		2		2		2	2								30	
		生物学概論Ⅱ（共）		2		2		2		2							30	
		地球の科学（共）		2		2		2		2							30	
		エネルギー科学（共）		2		2		2	2								30	
		キャンパスヘルス概論（共）		2		2		2	2								30	
		食と健康の科学（共）		2		2		2	2								30	
		食環境をめぐる国際社会と日本(共)		2		2		2	2								30	
		現代科学と倫理（共）		2		2		2	2								30	
		意外と知らない植物の世界（共）		2		2		2		2							30	
		生命科学講話（共）		2		2		2	2								30	
		時間生物学特論（共）		1		1		1							1		15	院生も対象
		製品の機能から科学を学ぶ　リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2		2		2							30	
		レーザーで測る、創る、楽しむ　リベラルアーツ・ゼミナール		2		2		2	2								30	
		計	10	162	13	159	12	160	93	70	0	0	0	0	3	4	2595	
	国際理解とコミュニケーション	英語ＩＡ	1		1		1		1								30	
		英語ＩＢ	1		1		1			1							30	
		英語ⅡＡ		1		1		1			1						30	
		英語ⅡＢ		1		1		1				1					30	
		中国語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		中国語Ⅱ		1		1		1		1							30	
		ドイツ語Ⅰ		1		1		1	1								30	
		ドイツ語Ⅱ		1		1		1		1							30	8単位以上
		フランス語Ⅰ		1		1		1	1								30	（必修2単位を含む）
		フランス語Ⅱ		1		1		1		1							30	
		国際情勢の理解		2		2		2				2					30	
		英会話Ⅰ		1		1		1			1						30	
		英会話Ⅱ		1		1		1				1					30	
		ラテン語（共）		2		2		2		2							30	
		現代社会に学ぶ問う力・書く力　リベラルアーツ・ゼミナール（共）※3		2		2		2	2	(2)							30	
		フランス語圏の文化とジャポニズム（共）		2		2		2							2		30	
		映画で学ぶ英語と文化（共）		2		2		2								2	30	
		映画で学ぶドイツ語と文化（共）		2		2		2							2		30	
		計	2	22	2	22	2	22	6	6	2	4	0	0	4	2	540	
基礎・教養科目合計			12	184	15	181	14	182	99	76	2	4	0	0	7	6	3135	30単位以上（必修12単位を含む）

※1　網掛けの科目は共同化科目のため講義は共同化施設で行う。
※2　本学科提供の共同化科目
※3　前期・後期とも同じ内容の講義を行う

（3）医学部看護学科開講授業科目（平成30年度入学生用）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	人体構造機能論Ⅰ	1		1		1		1								30	
		人体構造機能論Ⅱ	1		1		1			1							30	
		生化学	1		1		1		1								30	
		栄養学	1		1		1		1								30	
		薬理学	1		1		1				1						30	
		病理学	1		1		1			1							30	
		感染免疫学	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅰ（成人急性期）	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅱ（成人慢性期）	1		1		1				1						30	
		病態・疾病論Ⅲ（精神・運動器）	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅳ（臨床腫瘍）	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅴ（小児）	1		1		1					1					30	
		病態・疾病論Ⅵ（老年）	1		1		1					1					30	
		成長発達論	1		1		1						1				30	
		生殖健康論	1		1		1				1						30	
		臨床遺伝学		1		1	1					1					30	23単位以上
		人間看護工学		1		1		1		1							30	（必修21単位を含む）
	保健・福祉	疫学	1		1		1						1				30	
		公衆衛生学	1		1		1						1				30	
		医療情報学	1		1		1					1					30	
		社会福祉学	1		1		1						1				30	
		カウンセリング論	1		1		1						1				30	
		看護と法律	1		1		1					1					30	
		家族社会学		1	1		1						1				30	
		医療と経営		1	1			1					1				30	
	専門基礎科目合計		21	4	23	2	23	2	3	3	5	7	7			0	750	23単位以上（必修21単位を含む）
専門科目	看護学の基本	看護基礎理論	2		2		2		2								30	
		看護人間論	1		1		1			1							30	
		生活援助論Ⅰ	2		2		2		2								60	
		生活援助論Ⅱ	2		2		2			2							60	
		治療援助論	2		2		2				2						60	14単位
		看護方法論	1		1		1					1					30	（必修14単位）
		ヘルスアセスメント	1		1		1				1						30	
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1		1			1							45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2		2					2					90	
		計	14		14		14		4	4	3	3					435	
	看護学の展開（理論と実践）	成人看護学概論	2		2		2			2							30	
		成人急性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人急性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護援助論Ⅲ	1		1		1					1					30	
		成人慢性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	
		成人慢性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	
		成人急性期看護学実習	3		3		3							3			135	
		成人慢性期看護学実習	3		3		3							3			135	
		がん看護援助論	1		1		1						1				30	
		精神保健	1		1		1			1							30	
		精神看護学概論	2		2		2				2						30	
		精神看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		精神看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		精神看護学実習	3		3		3							3			135	
		小児看護学概論	2		2		2				2						30	
		小児看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		小児看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		小児看護援助論Ⅲ	1		1		1						1				30	
		小児看護学実習	3		3		3							3			135	
		母性看護学概論	2		2		2			2							30	50単位
		母性看護援助論Ⅰ	1		1		1				1						30	（必修50単位）
		母性看護援助論Ⅱ	1		1		1				1						30	
		母性看護学実習	2		2		2							2			90	

（3）医学部看護学科開講授業科目（平成30年度入学生用）

区分		授業科目	単位数（看護師）		単位数（保健師）		単位数（助産師）		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
									1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目		老年看護学概論	2		2		2				2						30	
		老年看護援助論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		老年看護援助論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		老年看護援助論Ⅲ	1		1		1						1				30	
		老年看護学実習	3		3		3							3			135	
		在宅看護論Ⅰ	1		1		1					1					30	
		在宅看護論Ⅱ	1		1		1						1				30	
		在宅看護実習	1		1		1							1			45	
		地域看護学概論	2		2		2				2						30	
		健康教育論	1		1		1					1					30	
		計	50		50		50			5	12	8	7	18			1590	
	看護学の統合と発展	研究方法論Ⅰ	1		1		1						1				30	
		研究方法論Ⅱ	1		1		1								1		30	
		研究方法論Ⅲ	2		2		2									2	60	
		看護マネジメント論	1		1		1						1				15	
		国際看護・国際保健	1		1		1						1				15	
		国際看護英語		1		1		1								1	15	
		看護教育論		1		1		1								1	15	14単位以上
		看護倫理		1		1		1								1	15	（必修8単位を含む）
		災害看護論		1		1		1								1	15	
		地域精神看護論		1	1			1					1				15	
		発達援助論		1		1		1								1	15	
		高齢者健康論		1		1		1								1	15	
		看護の統合と実践Ⅰ（演習）※4		1		1		1								1	30	
		看護の統合と実践Ⅱ（実習）	2		2		2							2			90	
		公衆衛生看護行政論		1	1			1					1				15	
		家族相談援助論		1	1		1						1				15	
		地域看護活動論Ⅰ		1	1			1					1				15	
		地域看護活動論Ⅱ		1	1			1					1				15	
		小計	8	12	13	7	9	11					8		1	9	435	
		地域看護診断学Ⅰ			2								2				30	
		地域看護診断学Ⅱ			2								2				30	
		地域保健活動展開論			1		1									1	15	
		地域看護学演習			2									2			60	
		地域看護学実習			5										5		225	
		小計			12		1	0					4	2	5	1	360	
		助産学基礎理論					1						1				15	
		親役割援助論					1									1	15	
		助産マネジメント論					2						2				30	
		ウィメンズヘルス論					1						1				15	
		周産期病態生理学Ⅰ					1						1				30	
		周産期病態生理学Ⅱ					1							1			30	
		助産診断・技術学Ⅰ					1						1				30	
		助産診断・技術学Ⅱ					1							1			30	
		助産診断・技術学Ⅲ					1							1			30	
		助産診断・技術学Ⅳ					1								1		30	
		助産学実習Ⅰ					2								2		90	
		助産学実習Ⅱ					8									8	360	
		助産学実習Ⅲ					1									1	45	
		小計		0		0	22	0					6	3	3	10	750	
	専門科目合計		72	12	89	7	96	11	4	9	15	11	25	32		20	3570	78単位以上（必修72単位を含む）
全科目総計			105	200	127	190	133	195	194		44		32	32		20	7455	131単位以上（必修105単位を含む）
			305		317		328											

「地域看護学」「助産学」の履修単位は、看護学の統合と発展の履修要件（保健師課程1単位、助産師課程5単位）に振替える。

したがって、保健師及び助産師国家試験受験資格を取得の上、卒業するためには保健師142単位、助産師149単位以上の履修が必要である。

※4 看護師国家試験のみの受験資格を取得者は選択必修である。

８　令和５年度開講の医学部 看護学科授業科目の概要

（看護学科提供科目以外の教養教育共同化科目は別冊参照のこと）

◎　実務家教員担当科目
［医師、看護師、臨床心理士等が、自らの実務経験を活かし授業（講義、演習、実習等）を行う科目］

基礎・教養科目	ページ
生命倫理	４１
人権論	４１
総合講義◎	４２
音楽	４２
心の科学◎	４３
発達心理学◎	４３
健康スポーツ科学	４４
健康スポーツ科学演習	４４
教育の基礎	４５
法律と社会	４５
医療社会史◎	４６
宗教と文化	４６
生物学的人間学	４７
生命有機化学	４７
物理学	４８
情報科学	４８
英語ⅠＡ	４９
英語ⅠＢ	４９
英語ⅡＡ	５０
英語ⅡＢ	５０
中国語Ⅰ	５１
中国語Ⅱ	５１
ドイツ語Ⅰ	５２
ドイツ語Ⅱ	５２
フランス語Ⅰ	５３
フランス語Ⅱ	５３
国際情勢の理解	５４
英会話Ⅰ	５５
英会話Ⅱ	５５

専門基礎科目	ページ
人体構造機能論Ⅰ◎	５６
人体構造機能論Ⅱ◎	５６
生化学◎	５７
栄養学	５７
薬理学◎	５８
病理学◎	５８
感染免疫学◎	５９
病態・疾病論Ⅰ（成人急性期）◎	５９
病態・疾病論Ⅱ（成人慢性期）◎	６０
病態・疾病論Ⅲ（精神・運動器）◎	６１
病態・疾病論Ⅳ（臨床腫瘍）◎	６１
病態・疾病論Ⅴ（小児）◎	６２
病態・疾病論Ⅵ（老年）◎	６３
成長発達論◎	６４
生殖健康論◎	６４
臨床遺伝学（2022年入学生）◎	６５
臨床遺伝学（2021年入学生）◎	６５
人間看護工学	６６
疫学◎	６６
公衆衛生学◎	６７
医療情報学	６７
社会福祉学	６８
カウンセリング論◎	６８
看護と法律◎	６９
家族社会学	６９
医療と経営◎	７０

専門科目	ページ
看護基礎理論◎	７０
看護人間論◎	７１
生活援助論Ⅰ◎	７２
生活援助論Ⅱ◎	７３
治療援助論◎	７４
看護方法論◎	７５
ヘルスアセスメント◎	７５
基礎看護学実習Ⅰ◎	７６
基礎看護学実習Ⅱ◎	７６
成人看護学概論◎	７７
成人急性期看護援助論Ⅰ◎	７７
成人急性期看護援助論Ⅱ◎	７８
成人急性期看護援助論Ⅲ（2021年入学生）◎	７８
成人慢性期看護援助論Ⅰ◎	７９
成人慢性期看護援助論Ⅱ◎	７９
成人急性期看護学実習◎	８０
成人慢性期看護学実習◎	８０
がん看護援助論◎	８１
精神保健◎	８１
精神看護学概論◎	８２
精神看護援助論Ⅰ◎	８２
精神看護援助論Ⅱ◎	８３
精神看護学実習◎	８３
小児看護学概論◎	８４
小児看護援助論Ⅰ（2022年入学生）◎	８５
小児看護援助論Ⅰ（2021年入学生）◎	８５
小児看護援助論Ⅱ◎	８６
小児看護援助論Ⅲ◎	８６

専門科目

小児看護学実習◎ ８７
母性看護学概論◎ ８７
母性看護援助論Ⅰ◎ ８８
母性看護援助論Ⅱ◎ ８８
母性看護学実習◎ ８９
老年看護学概論◎ ８９
老年看護援助論Ⅰ◎ ９０
老年看護援助論Ⅱ◎ ９０
老年看護援助論Ⅲ◎ ９１
老年看護学実習◎ ９１
在宅看護学概論（2022年入学生）◎ ９２
在宅看護論Ⅰ（2021年入学生）◎ ９２
在宅看護論Ⅱ◎ ９３
在宅看護実習◎ ９３
地域看護学概論◎ ９４
健康教育論（2022年入学生)◎ ９５
健康教育論（2021年入学生)◎ ９５
研究方法論Ⅰ◎ ９６
研究方法論Ⅱ◎ ９６
研究方法論Ⅲ◎ ９７
看護マネジメント論◎ ９７
国際看護・国際保健◎ ９８
国際看護英語 ９８
看護教育論◎ ９９
看護倫理◎ ９９
災害看護論◎ １００
地域精神看護論◎ １００
発達援助論◎ １０１
高齢者健康論◎ １０１
看護の統合と実践Ⅰ（演習）◎ １０２
看護の統合と実践Ⅱ（3年実習）◎ １０３
看護の統合と実践Ⅱ（4年実習）◎ １０４
公衆衛生看護行政論◎ １０５
家族相談援助論◎ １０５
地域看護活動論Ⅰ◎ １０６
地域看護活動論Ⅱ◎ １０６
地域看護診断学Ⅰ◎ １０７
地域看護診断学Ⅱ◎ １０７
地域保健活動展開論◎ １０８
地域看護学演習◎ １０９
地域看護学実習◎ １０９
助産学基礎理論◎ １１０
親役割援助論◎ １１０
助産マネジメント論◎ １１１
ウィメンズヘルス論◎ １１１
周産期病態生理学Ⅰ◎ １１２
周産期病態生理学Ⅱ◎ １１２
助産診断・技術学Ⅰ◎ １１３
助産診断・技術学Ⅱ◎ １１３
助産診断・技術学Ⅲ◎ １１４
助産診断・技術学Ⅳ◎ １１４
助産学実習Ⅰ◎ １１５
助産学実習Ⅱ◎ １１５
助産学実習Ⅲ◎ １１６

＜シラバス記載上の説明＞

必修･選択科目欄
看護…看護師国家試験受験資格取得希望者
保健…保健師国家試験受験資格取得希望者
助産…助産師国家試験受験資格取得希望者

担当者欄
〇印…複数担当の際の単位認定者を示す

実務経験のある教員による授業科目一覧
（医学部看護学科）

区分	授業科目	配当学年	必修選択	単位数
基礎・教養科目	総合講義	1年	必修	2
	心の科学	1年	必修	2
	発達心理学	1年	選択	2
基礎専門科目	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ	1年	必修	1
	生化学	1年	必修	1
	薬理学	2年	必修	1
	病理学	1年	必修	1
	感染免疫学	2年	必修	1
	病態・疾病論Ⅰ(成人急性期)	2年	必修	1
	病態・疾病論Ⅱ(成人慢性期)	2年	必修	1
	病態・疾病論Ⅲ(精神・運動器)	2年	必修	1
	病態・疾病論Ⅳ(臨床腫瘍)	2年	必修	1
	病態・疾病論Ⅴ(小児)	2年	必修	1
	病態・疾病論Ⅵ(老年)	2年	必修	1
	成長発達論	3年	必修	1
	生殖健康論	2年	必修	1
	臨床遺伝学	2年	必修	1
	疫学	3年	必修	1
	公衆衛生学	3年	必修	1
	カウンセリング論	3年	必修	1
	看護と法律	2年	必修	1
	医療と経営	3年	選択	1
専門科目	看護基礎理論	1年	必修	2
	看護人間論	1年	必修	1
	生活援助論Ⅰ	1年	必修	2
	生活援助論Ⅱ	1年	必修	2
	治療援助論	2年	必修	2
	看護方法論	2年	必修	1
	ヘルスアセスメント	1年	必修	1
	基礎看護学実習Ⅰ	1年	必修	1
	基礎看護学実習Ⅱ	2年	必修	2
	成人看護学概論	1年	必修	2
	成人急性期看護援助論Ⅰ	2年	必修	1
	成人急性期看護援助論Ⅱ	2年	必修	1
	成人慢性期看護援助論Ⅰ	2年	必修	1
	成人慢性期看護援助論Ⅱ	2年	必修	1
	成人急性期看護学実習	3年	必修	3
	成人慢性期看護学実習	3年	必修	3
	がん看護援助論	3年	必修	1
	精神保健	1年	必修	1
	精神看護学概論	2年	必修	2
	精神看護援助論Ⅰ	2年	必修	1
	精神看護援助論Ⅱ	3年	必修	1
	精神看護学実習	3年	必修	3
	小児看護学概論	2年	必修	2
	小児看護援助論Ⅰ	2年	必修	1
	小児看護援助論Ⅱ	3年	必修	1
	小児看護学実習	3年	必修	3
	母性看護学概論	1年	必修	2
	母性看護援助論Ⅰ	2年	必修	1
	母性看護援助論Ⅱ	2年	必修	1
	母性看護学実習	3年	必修	2

区分	授業科目		配当学年	必修選択	単位数
専門科目	老年看護学概論		2年	必修	2
	老年看護援助論Ⅰ		2年	必修	1
	老年看護援助論Ⅱ		3年	必修	1
	老年看護学実習		3年	必修	3
	在宅看護学概論		2年	必修	2
	在宅看護援助論		3年	必修	1
	在宅看護実習		3年	必修	1
	地域看護学概論		2年	必修	2
	健康教育論		2年	必修	2
	研究方法論Ⅰ		3年	必修	1
	研究方法論Ⅱ		4年	必修	1
	研究方法論Ⅲ		4年	必修	2
	看護マネジメント論		3年	必修	1
	看護教育論		4年	選択	1
	看護倫理		4年	選択	1
	災害看護論		3年	必修	1
	地域精神看護論		3年	選択	1
	発達援助論		4年	選択	1
	メンタルヘルス・マネジメント		4年	選択	1
	看護の統合と実践Ⅰ(演習)		4年	選択	1
	看護の統合と実践Ⅱ(実習)		4年	必修	2
	公衆衛生看護行政論		3年	選択	1
	家族相談援助論		3年	選択	1
	地域看護活動論Ⅰ		3年	選択	1
	地域看護活動論Ⅱ		3年	選択	1
	地域看護学	地域看護診断学Ⅰ	3年	必修	2
		地域看護診断学Ⅱ	3年	必修	2
		地域保健活動展開論	4年	必修	1
		地域看護学演習	3年	必修	2
		地域看護学実習	4年	必修	5
	助産学	助産学基礎理論	3年	必修	1
		親役割援助論	4年	必修	1
		助産マネジメント論	3年	必修	2
		ウィメンズヘルス論	3年	必修	1
		周産期病態生理学Ⅰ	3年	必修	1
		周産期病態生理学Ⅱ	3年	必修	1
		地域母子保健論	3年	必修	1
		助産診断学Ⅰ	3年	必修	1
		助産診断学Ⅱ	3年	必修	1
		助産診断学Ⅲ	3年	必修	1
		助産診断学Ⅳ	3年	必修	1
		助産技術学Ⅰ	3年	必修	1
		助産技術学Ⅱ	4年	必修	1
		助産学実習Ⅰ	4年	必修	2
		助産学実習Ⅱ	4年	必修	8
		助産学実習Ⅲ	4年	必修	1

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
生命倫理	２単位(30時間)	看護：選択 保健：選択 助産：必修	１年次・前期	講義・討論 （稲盛記念会館）

担当者	瀬戸山 晃一

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：諸外国の状況など国際的でグローバルな視点から多角的に生命倫理の諸問題（生命医科学技術や先端医療の倫理的法的社会的諸課題（ELSI））を捉え、多様な価値観を有する個々の患者さんやご家族等へのケアや意思決定支援の在り方を今後の日本医療を担う皆さんが主体的に考えることを通し得られた知的洞察を医療実践に活用できる柔軟な思考と態度の養成を目標とします。

授業概要：本講義では 11 講までは医学科と合同授業の予定で現代医療をめぐる生命倫理や医療倫理・臨床倫理が問題となる具体的な事例を考えます。ビデオ視聴や医学科の受講生とのディスカッションを通し、倫理問題に気づく感受性を涵養します。

DPとの関連:強く関連するDP(①④)、関連するDP(②)

2　授業内容・準備学習

1	授業ガイダンス、生命倫理の4原則と自己決定（自由）制約の4原理	【準備学習】 ・講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 ・毎回の講義ごとに、授業で得た知的洞察（深まった問題意識や考え方などの知見）と質問事項をフィードバックコメントとして提出する。 次回授業でそれらの質問等に対して回答や補足説明を行う。
2	癌の告知：インフォームド・コンセントとパターナリズム	
3	遺伝子診断と遺伝学的情報の開示：知る権利と知らないでいる権利	
4	民間の体質遺伝子検査ビジネスと遺伝学的情報のプライバシー	
5	遺伝子差別：遺伝子格差社会と生物的不平等	
6	着床前診断と胚選別、デザイナーベビー（救世主兄弟）	
7	出生前診断と選択的堕胎：優生思想、強制的不妊	
8	臨床倫理の方法論、人工生命維持装置停止・治療中止、胃ろう：消極的安楽死、アドバンスケアプランニング（ACP）	
9	自殺幇助と積極的安楽死、尊厳死：尊厳ある死を選ぶ権利	
10	臓器移植と臓器売買：医療ツーリズムと闇市場	
11	研究不正と研究倫理：隠れたカリキュラムと逸脱の標準化	
12	精子卵子売買や代理出産をめぐる問題：子の福祉と出自を知る権利	
13	重度障害新生児の治療停止	
14	赤ちゃんポストと内密出産	
15	全体のまとめ（総括）、筆記試験について	

3　教科書：霜田求（編）『テキストブック生命倫理（第２版）』(法律文化社 2022 年、2300 円+税)

4　参考書：講義において適宜指示する。また参考資料を配布する。

5　評価方法・成績評価基準：毎回提出課題内容等の平常点50％と筆記試験50％の総合評価。

6　オフィス・アワー：特に設けずメールでアポイントをとること。

7　1～11講までは医学科と合同授業の予定。ZOOM講義の場合には別途留意事項の案内を行う。

8　授業開始時刻10分以上の遅刻や終了時刻10分以前の退出は欠席扱いとする。遅刻や離席等の合計が60分を超える場合に1回の欠席扱いとする。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
人権論	２単位(３０時間)	必修	１年次・前期	講義

担当者	川野 麻衣子

1　授業概要（教育目標・指導方法）

人権の定義および歴史を概観した上で、将来看護職に就く立場から、と同時に今を生きる“私”の立場から、人権に関わる現代的諸課題について考察する。教育目標は、第一に看護をする者として、①患者や患者家族の人権を尊重することの意味を自分なりに見いだし、②人権の観点からみた看護現場における課題について理解することであり、第二に人権に関わる現代的諸課題について理解するべく、必要な情報を収集・整理し、自分なりの見解を持てるようになることである。

指導方法は授業テーマ解説の後に学生間の討議を取り入れる。討議の内容や収集した資料の整理等の結果を、グループ毎に整理、発表する機会も取り入れる予定である。そのねらいは考察を深め新たな気づきをもたらすためである。積極的な参加を求める。

2　授業内容

1	オリエンテーション
2	人権とは
3	差別とは①　差別を生み出す原理
4	差別とは②　差別問題と向き合う
5	第一世代から第三世代の人権
6	民主主義国家における人権保障①
7	民主主義国家における人権保障②
8	社会保障①　貧困問題・生活保護
9	社会保障②　家族関係
10	社会保障③　孤独と社会排除
11	障害とは　可能性を鎖すもの？
12	現行の“障害者福祉の在り方”を問う
13	働く女性の権利保障
14	医療における子どもの人権

3　教科書：なし。資料を適宜配付する。

4　参考書：川野麻衣子『ひと山まるごとプレイパーク　日常の緊張感から解放される場所』萌文社、生田周二『差別・人権と教育』部落問題研究所、尾川昌法『人権のはじまり　近代日本の人権思想』、野辺明子ら編著『障害をもつ子を産むということ』中央法規出版、佐藤仙務『働く、ということ-19歳で社長になった重度障害者の物語』彩図社、ヨシタケシンスケ『みえるとかみえないとか』アリス館、伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどうみているのか』、阿部彩『子どもの貧困』岩波新書、好井裕明『差別言論＜わたし＞のなかの権力とつきあう』、橘ジュン『漂流少女』太郎次郎社エディタス、「医療における子どもの人権を考えるシンポジウム」実行委員会『医療における子どもの人権』明石書店

5　評価方法・成績評価基準：コメント提出・発表２０％、最終レポート８０％

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
総合講義	１単位(15時間)	必修	１年次・前期	講義・演習

担当者	夜久均学長、佐和貞治病院長、藤本早和子看護部長、吉岡さおり学科長、松岡知子、志澤美保、井上ルミ子、図書館員、1年生担任　　○林容子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：　総合講義は看護学の導入として位置づけられている。本学の特徴、大学での学び方、図書館の活用方法、看護の本質、看護職の役割について理解する。

授業概要：医学部で学んでほしいこと、医療の現状と医療従事者の姿、看護とは何か、看護職の役割、文献検索、キャリア教育について看護部長、看護学科教員、図書館司書などによる講義に加え、グループ討議とその結果を発表する報告会を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(①②)

2　授業内容・準備学習

1	4/14(５)	『看護学を学ぶ』　（学科長）	【準備学習】 ・事前に資料が配布される場合は必ず目を通しておくこと ・各授業終了後小レポートを毎回提出する。
2	4/21 (５)	『大学で学ぶということ・・アカデミックスキルズ』　（林）	
3・4	4/28 (４・５)	『医療の現状と医療従事者の姿』（医学科と合同）（病院長）	
5・6	5/12 (４・５)	『医学部で学んでほしいこと』（医学科と合同）　（学長）	
7	5/16 (１・２)	『文献検索』　（１時間目Ｂクラス、２時間目Ａクラス） （図書館員）	
8	5/18 (２)	『保健師の役割』　（志澤）	
9	5/18 (３)	『看護の役割』　（看護部長）	
10・11	5/31 (１・２)	『キャリア教育』　（井上・林）	
12	6/9 (２)	『助産師の役割』　（松岡）	
13	6/9 (３)	『専門看護師の役割』　（吉岡）	
14	6/30 (５)	『私たちの目指す看護』　（林）	
15	7/21 (５)	『学生生活について』　（1年生担任）	

3　教科書：使用しない　　4．参考書：授業時に紹介する

5　評価方法・成績評価基準：　レポートの提出と解剖秋季追悼式出席により単位を認定する。ただし、点数評価は行わない。

6　オフィス・アワー：本授業日の後

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
音楽	2単位(30時間)	選択	1年次・前期	講義

担当者	山上友佳子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：音楽、特にオペラ（歌劇）を題材とし、人間的教養の一助として触れてもらう。

授業概要：「コミュニケーション手段としての音楽」を視点としてその実例を多く解説することで、学生諸氏にはこれらを咀嚼した上で人間的もしくは医療従事者としての「気づき」を期待したい。

DPとの関連：強く関連するDP（①）

2　授業内容・準備学習

1	ガイダンス	【準備学習】 ・授業内で指定する。
2	モーツァルト作曲のオペラ作品など	
3	同上	
4	同上	
5	同上	
6	フランスのオペラ作品など	
7	同上	
8	同上	
9	イタリアのオペラ作品など	
10	同上	
11	同上	
12	その他	
13	同上	
14	同上	
15	まとめ（事情が許せばミニコンサートを実施）	

3　教科書：なし

4　参考書：授業中に適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：レポートおよび平常の出席状況により総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
心の科学	２単位(30時間)	必修	1年次・前期	講義

担当者	上條　史絵

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標:人間の行動と心理を科学的に理解して説明できる。人間の能力とパーソナリティ，他者や環境からの影響と心理について理解して，説明できる。

授業概要:人間の行動を“こころ”という目に見えないものを軸として，講義形式で学ぶ。適宜視聴覚資料データを参照し，事象や実験研究を紹介して，人間の心の動きの多様性を理解する。遠隔システムを活用したグループワークや相互学習を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(　①　)、関連するDP(　②　)

2　授業内容・準備学習

1	心理学とは　歴史と成り立ち	【準備学習】 ・教科書と事前配布のスライドを予習し，質問等の準備をしておくこと。 ・各回終了後，講義内容のポイントをまとめておくこと。 ・各自の興味に従って，関連項目や分野の発展学習に努めること。 ・翌回のためのミニ課題がある場合は，行うこと。
2	心の生物学的基盤，感覚・知覚	
3	記憶①　記憶の仕組み	
4	記憶②　記憶の不思議	
5	学習①　学習の仕組み	
6	学習②　学習と動機づけ	
7	意思決定－思考・判断・推論	
8	感情	
9	パーソナリティ	
10	発達①　胎生期から児童期	
11	発達②　思春期・青年期	
12	社会①　他者－魅力と共感性	
13	社会②　家族と集団	
14	心の健康とストレス	
15	まとめ	

3　教科書:「公認心理師の基礎と実践②　心理学概論」　2018　繁桝算男編　遠見書房

4　参考書:適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準:ミニレポート10%，小テスト30%，期末試験60%によって評価する。授業への積極的参加，秀逸な質問・意見には加点をする。

6　その他:質問等はポータル上もしくは講義時に案内する講師メールアドレスにて受付・対応する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
発達心理学	２単位(３０時間)	必修	1年次・前期	講義

担当者	上條　史絵

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標:人生の各時期における発達課題や問題について理解して，説明できる。感覚・言語・運動・認知などの各種基本的能力および，社会性や感情の発達、コミュニケーション能力、パーソナリティなど、他者と関係をもちながら生きていくための能力の発達について理解し，説明できる。

授業概要:人間の発達の各時期に獲得するべき能力・課題・問題について講義形式で学ぶ。適宜データを参照したり，遠隔システムを活用したグループワークや相互学習を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(　①　)、関連するDP(　②　)

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション・発達心理学とは	【準備学習】 ・教科書と事前配布のスライドを予習し，質問等の準備をしておくこと。 ・各回終了後，講義内容のポイントをまとめておくこと。 ・各自の興味に従って，関連項目や分野の発展学習に努めること。 ・翌回のためのミニ課題がある場合は，行うこと。
2	胎児期，乳児期の発達	
3	乳児期・幼児期①　愛着の発達	
4	乳児期・幼児期②　運動・認知の発達	
5	乳児期・幼児期③　情緒と社会性の発達	
6	非定型発達と発達障害	
7	子どもへの支援と援助	
8	児童期の発達	
9	思春期・青年期①　アイデンティティ	
10	思春期・青年期②　対人関係・社会とのかかわり	
11	思春期・青年期に生じる課題	
12	成人期の発達①　自立と就労	
13	成人期の発達②　パートナーシップ・家族	
14	壮年期・老年期の発達	
15	まとめ	

3　教科書:使用しない。適宜スライド資料・レジュメを配付する。

4　参考書:適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準:小レポート40%，試験60%。試験の受験資格は各大学・学科の規定に従う。規定がない場合には，講義時間の３分の２以上の出席を必要とする。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
健康スポーツ科学	２単位（３０時間）	看護：選択 保健：必修 助産：選択	１年次・前期	講義

担当者	井上恵子

1　授業概要（教育目標・指導方法）

運動やスポーツをする目的は個人によりさまざまである。しかしただ闇雲に行っても効果が少ないばかりか健康を害することもあり、科学的知見に基づいて行われることが望まれる。本授業では身体活動に関する科学的理論を理解し、生涯にわたって自身や家族の健康づくりに寄与できるようになることを目的とする。

2　授業内容

1	ガイダンス、現代の健康問題
2	筋の構造と機能
3	運動の調節
4	筋力トレーニングの科学的基礎
5	筋力トレーニングの実際
6	運動時のエネルギー供給
7	環境とスポーツ
8	健康づくりのための身体活動基準（レポート課題）
9	全身持久力とトレーニング
10	全身持久力トレーニングの実際
11	肥満の評価とメタボリックシンドローム
12	肥満とその改善法
13	発育・発達とスポーツ・運動
14	加齢と運動
15	まとめ、全体の概観と到達目標の確認

3　教科書：教科書は使用しない。授業時に資料を配布する

4　参考書：必要に応じ提示する

5　授業終了時に授業内容に対する質問や授業内で提起した論点に関する意見の提出を求める

6　評価方法・成績評価基準：授業に対する取り組みや、期末テストおよびレポートの結果から総合的に評価する。　それぞれの配分は、取り組み 30%、期末テスト 50%、レポート 20%とする

7　状況によりWeb（オンデマンド）授業になる場合がある

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
健康スポーツ科学演習	１単位（３０時間）	看護：選択 保健：必修 助産：選択	１年次・後期	実技 （体育館他）

担当者	井上恵子

1　授業概要（教育目標・指導方法）

「健康スポーツ科学」で学んだ理論を活かし、健康・体力づくりに役立つ運動の実際を体験学習するとともに、自らスポーツを楽しみ、身体活動の習慣化を図る。

2　授業内容

1 ～ 15	体育実技 ・1回目は体育館にてガイダンスを行う（更衣の必要はありません） ・2回目以降、以下の種目を適宜取り入れ実施する バレーボール、ソフトバレーボール（体育館） バトミントン、卓球（体育館） エアロビックダンス（体育館） ランニング、ウォーキング（鴨川河川敷、京都御所内）

3　教科書：使用しない。

4　参考書：必要に応じ提示する。

5　評価方法・成績評価基準：出席状況および通常授業への取り組みを評価する。
なお、3/4以上出席した者のみを成績評価の対象とする。

6　運動のできる服装（体操着）に着替え、シューズ、タオル、水分を用意すること。

7　状況によりWeb（オンデマンド）による授業になる場合があります。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
教育の基礎	２単位（３０時間）	選択	１年次・前期	講義

担当者	長谷川　豊

1　授業概要（教育目標・指導方法）

教育は人間社会にとって欠かせない営みです。教育と言うと学校を思い浮かべるほど、当たり前のような存在であるにもかかわらず、「学校に通えて良かった」「様々なことが学べて学校が楽しい」と思えないのはどうしてでしょう。「低学力」「いじめ」「不登校」など様々な問題が生じるなか、「改革」が頻繁に行われていますが、教育や学校は良くなっているのでしょうか。コロナ禍が長期化し、人と人とが教えあい学びあい交流しあうことが制限を受けるなか、家庭も学校も地域社会や世界も変化を余儀なくされ、教育や学習は新たな課題に直面しています。

この授業では、日本や世界の教育や学校、子どもたちの歴史や現状、抱える課題について、様々なテーマを通して理解を深めます。講義やディスカッション、映像視聴等を行うとともに（オンライン授業の場合は変更あり）、受講生の皆さんが学校を含む教育体験をふりかえり、自らの成長と今後のあり方を考える機会にしたいと考えていますので、積極的に参加してください。

2　授業内容

1	オリエンテーション　―「教える」こと、「学ぶ」こと
2	私たちをとりまく教育・学校のしくみ
3	「学力」をテストで測るということ
4	教育・学校はより良くなったのか　―社会の変化と教育改革
5	教育によって人は変わる？変えられる？
6	自らの教育体験・学校体験をふりかえる、語る、綴る
7	人はなぜ教えるのか、何をどのように教えてきたのか
8	子どもたちはどのような世界・社会に生きているか　―子どもの貧困、ヤングケアラー
9	学校から見捨てられる／見放される子どもたち　―不登校・不就学
10	学校が教えていること、教えていないこと　―教育におけるジェンダー平等
11	いのちの安全・安心を語る、伝える、学ぶこと　―安全教育・防災学習
12	どの子にも教育を受ける権利、学ぶ権利がある　―子どもの権利条約・こども基本法
13	よりよく生きること（well-being）を支える教育・学習
14	生涯にわたり学び続けることの意味
15	まとめ　―よりよく「生きる」ために学ぶ

3　教科書:　特には指定しません。レジュメ・資料を配布し、参考文献を適宜紹介します。
4　参考書：　必要に応じて、授業内で適宜紹介します。
5　評価方法・成績評価基準：　授業参加（５０％）＋期末試験（orレポート）（５０％）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
法律と社会	2単位(30時間)	必修	1年次・後期	講義

担当者	松本　薫子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：身近な法（憲法の人権規定、民法の契約・不法行為・親族・相続、刑法、労働法、社会保障法等）及び判例について学び、人間の尊重の観点から社会問題を考察、分析し、自分の意見を論理的に構築し、表現することができる。

授業概要：教科書のほか、新聞記事など各種資料、法律問題を扱ったVTRを用いて、社会問題を具体的にイメージしてもらい、意見発表を通して多様な考え方を理解し、人に寄り添うことのできる豊かな人間性を育む。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②)

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション／法・法適用・法解釈の方法，日本の司法制度	【準備学習】 ・各授業開始前 教科書・プリント等を一読し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・授業で判例を扱った場合、事例に自分をあてはめてみて、自分が当事者だったらどうするか、を考えてみる。
2	法とは何か，日本法の成り立ちと現在，憲法（1）：立憲主義	
3	憲法（2）：国民主権，外国人，個人の尊重	
4	憲法（3）：平和主義，思想良心の自由	
5	憲法（4）：表現の自由，違憲審査制度	
6	憲法（5）：学問の自由，教育を受ける権利，平等権	
7	民法（1）：所有権，契約法①	
8	民法（2）：契約法②	
9	民法（3）：不法行為法	
10	民法（4）：家族法①（性別，婚姻）	
11	民法（5）：家族法②（氏，相続）	
12	民法（6）：家族法③（親子）	
13	刑法，刑事手続と法	
14	社会保障法，行政と法	
15	労働法，経済活動と法，まとめ	

3　教科書：緒方桂子，豊島明子，長谷河亜希子（編）『日本の法　第２版』（日本評論社,2020年）
4　参考書：適宜プリントを配布する。
5　評価方法・成績評価基準：ミニテスト（40%）、レポート試験（60%）で評価する。
6　オフィス・アワー：

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
医療社会史	２単位（３０時間）	選択	１年次・後期	講義 （稲盛記念会館）

担当者	八木聖弥

1　授業概要（教育目標・指導方法）

医療と社会とのかかわりを歴史的視点から学習する。歴史を通して医療に従事する心を養いたい。本年度は日本の医療・看護の歴史をテーマとして講義する。本学の前身京都療病院の創設期についても触れる。

2　授業内容

1	序　医療・看護と社会／医療・看護史概観
2	Ⅰ　古代の医療と看護／仏教の医学思想
3	〃　／看病僧と看病五法
4	〃　／浄土教と看取り
5	〃　／悲田院と施薬院
6	Ⅱ　中世の医療と看護／医療の分化
7	〃　／看病用心鈔
8	Ⅲ　近世の医療と看護／養生思想
9	〃　／蘭学の導入
10	〃　／蘭学の展開
11	〃　／病家須知にみる看護と産婆
12	Ⅳ　近代の医療と看護／日本赤十字社の創設
13	〃　／京都看病婦学校と同志社病院
14	〃　／京都療病院と看護・助産教育
15	まとめ

3　教科書：なし

4　参考書：教室で指示

5　評価方法・成績評価基準：平常点（２０％）と筆記またはレポート試験（８０％）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
宗教と文化 （共同化科目）	2単位(30時間)	選択	1年次・後期	講義 （稲盛記念会館）

担当者	竹貫友佳子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：日本の仏教と文化の歴史を概観・検討することにより、日本の仏教や文化に対する知識と理解を深め、幅広い視野と深い教養を身につけ、国際的な感覚を養う。

授業概要：日本の中世を中心に、仏教の歴史、主に禅宗史を概観し、その影響を受けながら発展・展開してきた日本の文化について概観・検討する。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(④)

2　授業内容・準備学習

1	日本の仏教	
2	禅宗について	
3	禅宗の伝来	
4	鎌倉時代の禅宗	
5	鎌倉時代の禅宗の展開	
6	鎌倉時代の禅宗と文化	
7	南北朝時代の禅宗の展開	
8	南北朝・室町時代前期の禅宗	
9	室町時代前期の禅宗の展開	
10	室町幕府と禅宗寺院	
11	室町時代後期の禅宗の展開	
12	室町時代の禅宗と文化（１）	
13	室町時代の禅宗と文化（２）	
14	近世初頭の仏教	
15	黄檗宗	

3　教科書：教室でプリント等を配布する。

4　参考書：教室で指示する。

5　評価方法・成績評価基準：試験もしくはレポート（100％）で評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
生物学的人間学 （共同化科目）	2 単位(30時間)	選択	1年次・前期	講義 （稲盛記念会館）

担当者	○　野村　真、後藤仁志

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：生物学的視点から「人間」を包括的に理解できる。生物学的観点からの人体の普遍性と特殊性を理解し、人体に対する探究心や洞察力を深めることができる。

授業概要：遺伝子やタンパク質の働きが人体の恒常性に果たす役割や、ヒトの発生の過程や脳の高次機能、さらにヒトの進化と環境適応について学習する。

DPとの関連:強く関連するDP(①、②)、関連するDP(③、④)

2　授業内容・準備学習

1	生物学的観点からのヒトの理解の歴史　（野村）	【準備学習】 ・各授業開始前 参考図書・プリント等を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後 毎回の講義ごとに、授業内容を整理して書いておくこと。また、次回の予習指示にしたがって、学習を進めておくこと。
2	細胞の働きーその１：ヒトと生物の形質の遺伝　（後藤）	
3	細胞の働きーその２：遺伝子の読み取りとヒトの形質への関わり（後藤）	
4	細胞の働きーその３：遺伝子の複製と細胞の老化　（後藤）	
5	細胞の働きーその４：細胞の運命とヒトの老化　（後藤）	
6	細胞の働きーその５：細胞のエネルギーと個体のエネルギー（後藤）	
7	細胞の働きーその６：幹細胞の生物学（後藤）	
8	細胞の働きーその７：ヒトと細菌とウイルス　（後藤）	
9	人体の成り立ちーその１：個体の発生（野村）	
10	人体の成り立ちーその２：個体のサイズと成長（野村）	
11	人体の成り立ちーその３：がんと人体　（野村）	
12	人体の成り立ちーその４：脳の高次機能とその破綻　（野村）	
13	ヒトと環境ーその１：環境による発生の変化　（野村）	
14	ヒトと環境ーその２：ヒトの進化　（野村）	
15	ヒトと環境―その３：人新世におけるヒトと環境　（野村）	

3　教科書：特に指定しない。講義資料は指定の Web site に掲載する。

4　参考書：デイビッド・サダヴァ他　カラー図解　新・大学生物学の教科書 第1-3巻
シッダールタ・ムカジー著　遺伝子　親密なる人類史
カール・ジンマー他　カラー図解　進化の教科書　第1-3巻

5　評価方法・成績評価基準：定期試験あるいはレポート提出（詳細は講義中に提示する）
定期試験の受験資格は各大学・学科の規定に従う（規定がない場合には6割以上の出席を求める）

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
生命有機化学	２単位（３０時間）	選択	１年次・後期	ゼミナール 実習 （稲盛記念会館）

担当者	○大庭　誠　武元宏泰

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：ライフサイエンスに関わる化学の基礎的コンセプトを感覚的に理解できる。

授業概要：実際に体験して主体的に授業に参加してもらうため、プリントを用いた実習およびゼミナール形式で講義を進める。主に小分子化合物を対象とし、その性質や挙動を実際に確かめる。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①)

2　授業内容・準備学習

1	ガイダンス、ライフサイエンスと化学	【準備学習】 ・各授業開始前 第１回の授業の際にすべての実習内容を記載した資料を配布する。各授業開始前に、当日行う内容について予習しておく。 ・各授業終了後 次回の実習をスムーズに行うために、行った実習内容を整理しておく。
2	化学実験入門	
3	アセトアニリドについて	
4	アセトアニリドの合成	
5	アセトアニリドの再結晶と薄層クロマトグラフィーによる分析	
6	人工甘味料について	
7	アスパルテームの構造	
8	人工甘味料アスパルテームについて	
9	アミノ酸・ペプチドの保護・脱保護について	
10	ペプチド縮合反応	
11	化合物の精製と分析について	
12	ペプチドの化学について	
13	アスパルテームの合成・単離	
14	アスパルテームの定量と甘味試験	
15	まとめ、ライフサイエンスと化学	

3　教科書：特に指定しない

4　参考書：特に指定しない

5　評価方法・成績評価基準：授業態度６０％、レポート４０％

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
物理学	２単位（３０時間）	選択	１年次・後期	講義 （稲盛記念会館）

担当者	高西 陽一　川野 輝彦

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：物理の原理とその看護への応用について理解し、わかりやすく説明できるようになる。

授業概要：主に看護で接する事象の物理的側面を講義を通じて学ぶ。提出課題によって文章力を磨き、自分の考えをわかりやすく説明できる力を磨く。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①)

２　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション、力学現象：重心線と支持基盤面	【準備学習】 ・各授業開始前に前回の講義の内容を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後にA4サイズ用紙 一枚程度に授業内容を整理して書いておくこと。 ・提出課題がある場合には、授業を受けていない他の学生が読んでも理解できるぐらいわかりやすい説明で必要な論点をおさえて課題を作成すること。
2	力学現象：安定性、てこの原理	
3	力学現象：力のモーメント①	
4	力学現象：力のモーメント②（骨格力学モデルでの腰部負担推定計算）、作用・反作用①	
5	力学現象：作用・反作用②、慣性力	
6	熱力学現象：圧力とその応用①（サイホンの原理）	
7	熱力学現象：圧力とその応用②（ボイルの法則、血圧計の原理）	
8	波動現象：振動と波動	
9	波動現象：音	
10	波動現象：超音波、エコー	
11	電磁気現象：電磁気の基礎	
12	電磁気現象：磁気現象とMRI	
13	電磁気現象：さまざまな電磁波とその応用①（マイクロ波など）	
14	電磁気現象：さまざまな電磁波とその応用②(X線など)	
15	総括	

３　教科書：特になし

４　参考書：看護学生のための物理学　佐藤和良　（医学書院）
生活の中の物理　藤城敏幸　（東京教学社）
医歯系の物理学　赤野松太郎　他　（東京教学社）

５　評価方法・成績評価基準：提出課題２０％　試験８０％

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
情報科学	２単位 （３０時間）	必修	１年次・前期	講義・実習 （情報科学実習室）

担当者	浅野　弘明

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標　：パソコンと電子メールの基礎知識を習得するとともに、重要アプリケーションソフト（ワード、エクセル、パワーポイント）を、一定レベルで使えるようになることを目標とする。

授業概要　：実際にパソコンを操作しながら、知識や技術を習得する。

DPとの関連：強く関連するDP(②)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	パソコンの基礎、ファイル操作の基礎１	【準備学習】 ・機会を見つけて、できるだけたくさんパソコンにさわること。 ・知っている操作であっても、繰り返し練習すること。 ・簡単な技術であっても、一つ々々しっかりマスターすること。 ・前回習った技術は、しっかりマスターしてから授業に臨むこと。
2	電子メールの使い方１、ファイル操作の基礎２、情報検索１	
3	電子メールの使い方２、ワープロ１、スライド１、情報検索２	
4	表計算１、ワープロ２、スライド２、情報検索３	
5	表計算２、スライド３、ワープロ３、情報検索４、	
6	表計算３、ワープロ４、スライド４	
7	表計算４、スライド５、	
8	表計算５、スライド６	
9	表計算６、ワープロ５、スライド７	
10	表計算７、ワープロ６、スライド８	
11	表計算８、スライド９	
12	表計算９、スライド10、統計処理１	
13	表計算10、スライド11、統計処理２	
14	表計算11、スライド12、統計処理３	
15	最終課題の説明と最終課題に対する処理	

３　教科書：特にナシ

４　参考書：特にナシ（必要な教材等は、ファイルとして提供する）。

５　評価方法・成績評価基準：講義に対する参加意欲(40%)、授業での提出課題（40%）、最終課題（20%）により評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
英語　ＩＡ	１単位（３０時間）	必修	１年次・前期	演習

担当者	小久保　有美

１　授業概要（教育目標・指導方法）

日本の医療現場でもグローバル化への対応が求められています。外国人の患者さんやその家族と英語でコミュニケーションをとるのに必要な用語や表現を習得することを目標とします。また、日本語と英語の表現上の違いを理解しながら異文化理解を学びましょう。

２　授業内容

1	オリエンテーション
2	Unit 1 Meeting Patients
3	Unit 2 Taking a Medical History
4	Unit 3 Assessing Patients’ Symptoms
5	Unit 4 Taking Vital Signs
6	Unit 5 Taking a Specimen
7	Unit 6 Conducting Medical Examinations
8	Unit 7 Assessing Pain
9	Unit 8 Advising about Medication
10	Unit 9 Improving Patients’ Mobility
11	Unit 10 Maintaining a Good Diet
12	Unit 11 Caring for Inpatients
13	Unit 12 Coping with Emergencies
14	Review
15	Final Test

３　教科書：「Caring for People」Michiko Mayuzumi他　著（センゲージラーニング株式会社）

４　参考書：授業時に説明します。

５　評価方法：平常点（出席・授業参加・発表など）、小テスト、レポート。
定期テスト：テキストの内容に沿った筆記テスト

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
英語　ＩＢ	１単位（３０時間）	必修	１年次・後期	演習

担当者	小久保　有美

１　授業概要（教育目標・指導方法）

社会のグローバル化、多様性が進む中、看護においても社会の変化に対応しなければいけない場面が増えてきます。他文化との違いを理解するということに視点を置いて英語を学習します。

２　授業内容

1	オリエンテーション・ Unit 1 What Does “Culture” Mean?
2	Unit 2 Cultural Rules for Acceptable Behavior
3	Unit 3 Stereotyping
4	Unit 4 Media and Culture
5	Unit 5 Nonverbal Communication: Gestures and Body Language
6	Unit 6 Cultural Perspectives of Time
7	Unit 7 Touch and Space
8	Unit 8 Verbal Communication Norms
9	Unit 9 The Individual and the Group
10	Unit 10 Subcultures
11	Unit 11 Status
12	Unit 12 What Is a Family?
13	Unit 13 Gender ass Culture
14	Unit 14 Our Connected World
15	Final Test

３　教科書：「This is Culture」Asako Kajiura、Gregory Goodmacher 著(Nanun-Do)

４　参考書：　授業時に説明します。

５　評価方法：平常点（積極的な授業参加・発表など）、小テスト、レポート。
定期テスト：英語でのグループプレゼンテーション

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
英語　IIA	１単位（３０時間）	選択	２年次・前期	演習

担当者	小久保　有美

１　授業概要（教育目標・指導方法）

前期の目標は、医療看護の場面でよく使われる英語表現を理解し、アウトプットができるようになることです。看護の場面だけではなく、様々な場面でも使える表現も合わせながら、話す力と聞く力を伸ばしていくことで、英語で社会に参加できるスキルを養いましょう。

1年生で学習した事も踏まえながら実際に英語を「聞く」「話す」ことを中心に行う、少人数の参加型、実践中心の授業です。

２　授業内容

1	オリエンテーション
2	Unit 1 Hospital Department
3	Unit 2 Application Forms
4	Unit 3 Parts of the Body
5	Unit 4 Illnesses
6	Review Unit 1-4
7	Unit 5 Daily Routine
8	Unit 6 Hospital Objects
9	Unit 7 Location of Hospital Objects
10	Unit 8 Hospital Directions and Instructions
11	Review Unit 5-8
12	Review
13	Review
14	Review
15	Test

● 12～14回のReviewは会話練習が中心となります。

３教科書：「Vital Signs」 Vivian Morooka, Terri Sugiura (NANUN-DO)
４参考書：授業時に説明します。
５評価方法：平常点（積極的な授業参加・発表など）、小テスト、レポート。
定期試験：テキストの内容に沿った筆記試験。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
英語　II B	１単位（３０時間）	選択	２年次・後期	演習

担当者	小久保　有美

１　授業概要（教育目標・指導方法）

前期に続いて、医療看護の場面でよく使われる英語表現を理解し、医療の場面で適切な対応ができる力を身につけましょう。また、自分の意見を伝え、説明ができるディスカッションスキルも養成します。前期よりもさらに英語を話す機会を増やし、様々な場面で幅広くコミュニケーションができる英会話力を習得しましょう。少人数の参加型、実践中心の授業です。

２　授業内容

1	オリエンテーション
2	Unit 9 Direction (Outside the Hospital)
3	Unit 10 Chatting with a Patient
4	Unit 11 Taking a Medical History
5	Unit 12 Hospital Procedures
6	Review Unit 9-12
7	English in American Medical Dramas
8	病院内での様々な対応
9	救急の場面での英語（1）
10	救急の場面での英語（２）
11	英語でディスカッション
12	英語でディスカッション
13	英語でディスカッション
14	英語でディスカッション
15	Test

３教科書：「Vital Signs」 Vivian Morooka, Terri Sugiura (NANUN-DO)
４　参考書：授業時に説明します。
５　評価方法：平常点（積極的な授業参加・発表など）、小テスト、レポート。
定期テスト：テキストの内容に沿った筆記試験。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
中国語Ⅰ	１単位（３０時間）	選択	１年次・前期	講義

担当者	鄭 愛莉

１　授業概要(教育目標・指導方法)

『入門　ビジュアル中国』は、写真をふんだんに取り混ぜながら、生き生きとしたシーンを通して中国語を理解し、中国語の基礎能力をつけることを目指す。

この教科書で、中国の歴史的遺産と現代の姿、雄大な自然と工夫を凝らした造形美、多様な側面をもつ社会と一人ひとりの魅力的な人物像に接したら、話で聞くだけでなしに、きっと自分でその場に行って、自分の目で自ら体験してみたいと思うようになることだろう。

中国語を半年勉強してから、少し話せるようになってきた上で、後期の講義では、続けて根本的な文法の説明により、中国語の基礎を身につけ、話せる喜びをもっと感じさせるような楽しい授業を目指したい。

２　授業内容

1	中国・中国語の概要
2	発音（単母音・声調）
3	発音（子音）発音（複合母音）
4	発音（まとめ）　自己紹介
5	第一課　自己紹介など
6	第一課の口頭練習　キャンパス用語
7	第二課　中華民族園で刺しゅうをしている少数民族に出会う
8	第三課　ダイ族の友達との会話
9	第三課　ダイ族の習慣についての会話
10	第四課　旅行の話
11	第四課　誘いの言い方　意欲の表現
12	第五課　新婚さんの家に遊びに行く
13	第六課　西安郊外の秦の始皇帝兵馬俑博物館にて
14	第七課　西安
15	復習

３　教科書：『入門ビジュアル中国』遠藤光暁＝　監修　衛榕群＋汪暁京＝著（朝日出版社

４　参考書：『中日辞典』（小学館）　『はじめての中国語学習辞典』（朝日出版社）

５　評価方法・成績評価基準：平常点　30%　　期末試験の成績　70%

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
中国語Ⅱ	１単位（３０時間）	選択	１年次・後期	講義

担当者	鄭 愛莉

１　授業概要(教育目標・指導方法)

中国語を半年勉強してから、少し話せるようになってきた上で、後期の講義では、続けて根本的な文法の説明により、中国語の基礎を身につけ、話せる喜びをもっと感じさせるような楽しい授業を目指したい。

２　授業内容

1	復習（前期の内容）・応用
2	第八課　上海　世界博覧会
3	第九課　上海万博の会場にて
4	第十課　蘇州の庭園の話
5	第十一課　北京の天壇公園にて
6	第十二課　中国の武術の総本山少林寺にて
7	第十三課　中国の「二十四節気」の一つ・清明節
8	第十三課　中国のことについての発表
9	第十四課「老舎茶館」で中国茶を飲む。
10	第十五課　公園にアマチュアの京劇」を見に行く
11	第十五課　会話練習
12	第十六課　北京の新しい観光スポット「798アートゾーン」へ
13	会話練習
14	中国映画鑑賞
15	復習・まとめ

３　教科書：『入門ビジュアル中国』遠藤光暁＝　監修　衛榕群＋汪暁京＝著（朝日出版社）

４　参考書：『中日辞典』（小学館）
　　『はじめての中国語学習辞典』（朝日出版社）

５　評価方法・成績評価基準：平常点　30%　　期末試験の成績　70%

６　履修条件：中国語Ⅰ履修者

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
ドイツ語Ⅰ	１単位（３０時間）	選択	１年次・前期	講義・演習

担当者	山下　大輔

１　授業概要（教育目標・指導方法）

ドイツ語の文字や発音、基本の文法事項を習得し、ドイツ語の基礎を身につけます。また、視聴覚資料を用いながらニュース・文化・生活などについても随時紹介します。はじめてドイツ語に触れる方もこの授業を通して簡単なドイツ語会話ができるようになり、ドイツ語圏の出来事に広く関心を持ってもらうことが目標です。

２　授業内容

1	はじめに：授業の進め方＋文字と発音
2	文字と発音＋動詞
3	動詞＋第1課テクスト
4	第1課練習問題＋名詞の性と冠詞
5	名詞の性と冠詞＋第2課テクスト
6	第2課練習問題＋不規則変化動詞／人称代名詞
7	不規則変化動詞／人称代名詞＋第3課テクスト
8	第3課練習問題＋定冠詞類／不定冠詞類
9	定冠詞類／不定冠詞類＋第4課テクスト
10	第4課練習問題＋前置詞
11	前置詞＋第5課テクスト
12	第5課練習問題＋複数形／形容詞の格変化
13	複数形／形容詞の格変化＋第6課テクスト
14	第6課練習問題＋復習
15	前期のまとめとフィードバック

３　教科書：　『PANORAMA Deutsch Express』（白水社）2022年

４　参考書：　独和辞典　（初回の授業で推薦する）

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験または課題＋平常点

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
ドイツ語Ⅱ	１単位（３０時間）	選択	１年次・後期	講義・演習

担当者	山下　大輔

１　授業概要（教育目標・指導方法）

過去形や受動態等の表現について学習し、ドイツ語での基礎的な会話・読み書きの能力を身につけます。また、学んだ内容の復習や疑問点を解説するための時間も適宜設けます。視聴覚資料を通してドイツ語圏の文化に親しみながら、幅広い知識を得てもらうことが目標です。

２　授業内容

1	前期の復習あるいは前期に到達できなかった範囲
2	復習＋助動詞／分離動詞
3	助動詞／分離動詞＋第7課テクスト
4	第7課練習問題＋zu不定詞／従属接続詞／再帰代名詞
5	zu不定詞／従属接続詞／再帰代名詞＋第8課テクスト
6	第8課練習問題＋過去形
7	過去形＋第9課テクスト
8	第9課練習問題＋完了形／受動態／非人称表現
9	完了形／受動態／非人称表現＋第10課テクスト
10	第10課練習問題＋関係代名詞／比較表現
11	関係代名詞／比較表現＋第11課テクスト
12	第11課練習問題＋接続法
13	接続法＋第12課テクスト
14	第12課練習問題＋復習
15	後期のまとめ

３　教科書：　『PANORAMA Deutsch Express』（白水社）2022年

４　参考書：　独和辞典　（初回の授業で推薦する）

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験または課題＋平常点

６　履修条件：ドイツ語Ⅰ履修者

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
フランス語 Ⅰ	１単位（３０時間）	選択	1年次・前期	講義・演習

担当者	西江　秀三

1　授業概要（教育目標・指導方法）

フランス語がどのようなことばなのか、そのしくみに眼をそそぎながら、日常でよく使われる表現の理解と習得を目指します。

また、主に宮崎駿の前半期の作品をフランス語吹替＋日本語字幕で見ながら、その中で使われる重要なフランス語表現に親しんでもらいます。

2　授業内容

1	フランス語を学ぶにあたり、知っておいてほしいこと＋α
2	フランス語の大まかなしくみ、その１＋α
3	フランス語の大まかなしくみ、その２＋α
4	フランス語の基本表現、その１＋フランス語吹替「風の谷のナウシカ」1
5	フランス語の基本表現、その２＋フランス語吹替「風の谷のナウシカ」2
6	フランス語の基本表現、その３＋フランス語吹替「天空の城ラピュタ」1
7	フランス語の基本表現、その４＋フランス語吹替「天空の城ラピュタ」2
8	フランス語の基本表現、その５＋フランス映画を観る 1
9	フランス語の基本表現、その６＋フランス映画を観る 2
10	フランス語の基本表現、その７＋フランス語吹替「となりのトトロ」1
11	フランス語の基本表現、その８＋フランス語吹替「となりのトトロ」2
12	フランス語の基本表現、その９＋フランス語吹替「魔女の宅急便」1
13	フランス語の基本表現、その１０＋フランス語吹替「魔女の宅急便」2
14	フランス語の基本表現、その１１＋フランス語吹替「紅の豚」1
15	フランス語の基本表現、その１２＋フランス語吹替「紅の豚」2

3　教科書：『かわいいパリ歩きのフランス語』 トリコロル・パリ 荻野雅代・桜井道子著
発行元：株式会社パイ インターナショナル (PIE International)

4　参考書： 必要があれば授業で指示します。

5　評価方法・成績評価基準： 授業へのレスポンス30%、プレゼンテーション課題20%、テキスト音読課題50%で評価します。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
フランス語 II	１単位（３０時間）	選択	1年次・後期	講義・演習

担当者	西江　秀三

1　授業概要（教育目標・指導方法）

前期に引き続き、フランス語の基本表現を学んでいきます。

また主に宮崎駿の後半期の作品をフランス語で見てもらい、その中で使われる重要なフランス語表現に親しんでもらいます。

2　授業内容

1	フランス語Ⅰで学んだ内容の再確認等
2	フランス語の基本表現、その１＋フランス語吹替「崖の上のポニョ」1
3	フランス語の基本表現、その２＋フランス語吹替「崖の上のポニョ」2
4	フランス語の基本表現、その３＋フランス語吹替「風立ちぬ」1
5	フランス語の基本表現、その４＋フランス語吹替「風立ちぬ」2
6	フランス語の基本表現、その５＋フランスのアニメーション映画を観る 1
7	フランス語の基本表現、その６＋フランスのアニメーション映画を観る 2
8	フランス語の基本表現、その７＋フランス語吹替「もののけ姫」1
9	フランス語の基本表現、その８＋フランス語吹替「もののけ姫」2
10	フランス語の基本表現、その９＋フランス映画を観る 1
11	フランス語の基本表現、その１０＋フランス映画を観る 2
12	フランス語の基本表現、その１１＋フランス語吹替「千と千尋の神隠し」1
13	フランス語の基本表現、その１２＋フランス語吹替「千と千尋の神隠し」2
14	フランス語の基本表現、その１３＋フランス語吹替「ハウルの動く城」1
15	フランス語の基本表現、その１４＋フランス語吹替「ハウルの動く城」2

3　教科書：『かわいいパリ歩きのフランス語』トリコロル・パリ 荻野雅代・桜井道子著
発行元：株式会社パイ インターナショナル (PIE International)

4　参考書： 必要な場合には授業中に指示します。

5　評価方法・成績評価基準： 授業へのレスポンス30%、プレゼンテーション課題20%、テキスト音読課題50%で評価します。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
国際情勢の理解	２単位（３０時間）	選択	２年次・後期	講義 （第９演習室）

担当者	向井　啓二

１　授業概要（教育目標・指導方法）

この授業では、地球規模で起きている問題（国際的な社会問題）を取り上げ、理解を深めることを目標とする。現在問題として取り上げられている各種のテーマを説明することにより、国際社会（国際情勢）について理解を深める。

特に近年、よく使われている「グローバル化」ということがどのような意味を持ち、私たちの生活に関係しているのかを理解してもらうこととしたい。

２　授業内容

１	イントロダクション　この授業の目的、開発協力とは？
２	国際関係はいつ生まれたのか？歴史――ウェストファリアー条約
３	国際的な協力――ミレニアム開発目標、ＭＤＧｓ、人間の安全保障など――
４	アメリカ社会について考える
５	イスラームとは何か？―歴史と現状――
６	世界の貧困――１日いくらで過ごす？―
７	病気の歴史――昔からパンデミックはあった――
８	現在の病気の広がり――天然痘、ポリオ、ＡＩＤＳ、マラリアなど――
９	世界の環境問題
10	新自由主義の拡大――はびこるわがままな資本主義――
11	難民問題――日本には関係がないのか？―
12	グローバル化のなかの子どもたち――子ども兵士、教育など――
13	グローバル化のなかの女性たち――差別はなくなっていない――
14	グローバル化のなかの障害者たち――現状と国際的な取り決め――
15	まとめ――国際機関について学ぶ――

３　教科書：　毎時間プリントを配布

４　参考書：　藤井・津止・黒田・向井編『手づくりの国際理解教育』（クリエイツかもがわ）
西崎文子・武内進一編著『紛争・対立・暴力』（岩波ジュニア新書）

５　評価方法・成績評価基準：出席５０％，　レポート５０％

（但し、レポート。インターネットで右クリック貼り付けは著作権侵害であり認めない。）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
英会話Ⅰ	１単位（３０時間）	選択	２年次・前期	講　義

担当者	Dawn　E. O'Day

1. Objective:
Students will learn to speak basic English conversation through oral communication exercises and role-play exercises. English conversation related to nursing responsibilities will also be studied, and students will be able to learn how to talk to patients.

2. Methods:
Oral communication exercises, role-play exercises, audio-visual materials, and games will be used to help students to master the course material.

3. Schedule:

1. **Review syllabus, greetings, and *wh*-questions. Meet your teacher, your partner, and your group.**
2. **Topic: People. Meeting people. Classroom English.**
3. **Asking for and giving personal information. Asking for information from patients.**
   Grammar focus: The verb *to be*, and possessive adjectives. Let's learn about one another.
4. **Describe different occupations. Talk about people and their occupations. Talking about being a nurse and health professional occupations.**
5. **Test #1. Topic: Work, rest, and play. Talking about work and free time. Talking about hospital departments and explaining how to tell a patient how to get to them.**
   Grammar focus: Simple present tense. Prepositions of time, and adverbs of frequency.
6. **Talking about working in a hospital. Nurses filling out application forms.**
7. **Describe a social celebration or festival. Compare different festivals. Parts of the body and discussing patients' symptoms.**
8. **Test #2. Topic: Going places. Identifying possessions. Asking and giving personal travel information. More about discussing symptoms. What's the matter with you?**
   Grammar focus: Possessive adjectives, possessive pronouns, and learning about using the word *should* when giving advice. Discussing illnesses.
9. **Giving travel advice. Sharing special travel tips with others. Making conversations about illnesses.**
10. **Giving advice to patients. Reviewing hospital departments, application forms, parts of the body, and illnesses.**
11. **Test # 3. Topic: Food. Talking about food. Ordering a meal. Daily routine for patients in a hospital.**
    Grammar focus: Count and non-count nouns, the use of articles, and using information and quantifiers.
12. **Talking about diets. Discussing unusual and favorite foods. Daily routine for patients in a hospital (cont'd) and telling time.**
13. **Test #4.**

4. Students must purchase the following textbooks and bring the following to every class:
1. **World English I. Author: Martin Milner. Publisher: Heinle Cengage Learning .**
   ISBN 13: 9781305089549
2. **Vital Signs (Revised Edition). Authors: Vivian Morooka & Terri Sugiura. Publisher: NAN'UN-DO**
3. **English/Japanese dictionary.**

5. Evaluation: Equal weight will be given to homework, tests, classroom activities, and attendance.

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
英会話Ⅱ	１単位（３０時間）	選択	２年次・前期	講　義

担当者	Dawn　E. O'Day

1. Objective:
Students will learn to improve their English conversation skills through this course, which will primarily concentrate on speaking and pronunciation skills as well as building vocabulary. English conversation related to nursing responsibilities will also be studied and students will build vocabulary about common objects in a hospital, how to discuss their location, how to give instructions and directions in and around a hospital. Students will also learn how to take a medical history and how to chat with patients, and how to express empathy using English.

2. Methods:
Oral communication exercises, role-play exercises, audio-visual materials, and games will be used to help students to master the course material.

3. Schedule:
1. **Review syllabus. Topic: Sports. Talking about activities that are happening now. Comparing everyday and present-time activities. Talking about favorite sports. Building vocabulary regarding sports injuries.**
2. **Talking about rehabilitation and physical therapy. Discussing adventure holidays.**
   Grammar focus: Present continuous tense and stative verbs. Building vocabulary about hospital objects.
3. **Test # 1. Topic: Destinations. Talking about past vacation trips. Talking about locations of hospital objects.**
4. **Using *was/were* to describe a personal experience. Learning about hospital instructions and giving directions and instructions to patients.**
5. **Talking about a discovery from the past. Talking about illnesses using the past tense. Review of hospital objects, their location and giving instructions and directions to patients.**
6. **Test #2. Topic: Communication. Talking about personal communication. Giving directions outside the hospital.**
7. **Giving and writing down contact details. Role-playing. Giving directions outside the hospital (cont'd).**
8. **Describing characteristics and qualities. Comparing different types of communication.**
   Grammar focus: Irregular past tense. Learning to chat with patients.
9. **Test #3. Topic: The future. Talking about plans. Discussing long- and short- term plans. Learning to chat with patients (cont'd).**
10. **Making weather predictions. Discussing the future.**
    Grammar focus: Practice with the future tense. How to take a medical history.
11. **Test #4. Topic: Shopping for clothes. Making comparisons and explaining preferences. How to take a medical history (cont'd).**
12. **Talking about clothing and materials. Understanding and describing a process.**
    Grammar focus: Using comparatives. Learning about hospital procedures.
13. **Review of giving directions outside of the hospital, chatting with patients, taking a medical history, and hospital procedures.**
    Reflection exercise.

4. Students must purchase the following textbooks and bring the following to every class:
1. **World English I Author: Martin Milner. Publisher: Heinle Cengage Learning .**
   ISBN 13: 9781305089549
2. **Vital Signs (Revised Edition). Authors: Vivian Morooka & Terri Sugiura. Publisher: NAN'UN-DO**
3. **English/Japanese dictionary.**

5. Evaluation: Equal weight will be given to tests, homework assignments, classroom activities, and attendance.

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
人体構造機能論Ⅰ	１単位（３０時間）	必修	1年次・前期	講義

担当者	生体構造科学部門 田中雅樹、松田賢一、山田俊児、田口勝敏、小泉　崇 生体機能形態科学部門 八代健太、小林大介、中島由郎、茂田昌樹、松尾和彦 ○森本昌史

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護を行ううえで必要な体、すなわち人体の基本的な構造と機能の基礎知識を学び、説明することができる。

授業概要：人体の構造と機能について系統的に講義を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①)

２　授業内容・準備学習

1	総論	【準備学習】 ・各授業開始前 事前配布された資料があれば予習を行い、質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後 A4サイズ用紙 一枚程度に授業内容をまとめておくこと。
2	消化器１	
3	消化器２	
4	呼吸器	
5	循環器	
6	泌尿器	
7	内分泌	
8	骨	
9	筋	
10	神経１	
11	神経２（感覚器を含む）	
12	生殖器（発生を含む）	
13	解剖見学実習	
14	解剖見学実習	

３　教科書：　系統看護学講座　解剖生理学　人体の構造と機能　[1] 医学書院

ナーシング・グラフィカ１　人体の構造と機能「解剖生理学」メディカ出版

４　参考書：「入門人体解剖学」藤田恒夫　南江堂

「人体生理学」朝倉書院、「標準生理学」医学書院

５　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

６　オフィス・アワー：本授業後

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
人体構造機能論Ⅱ	１単位（３０時間）	必修	1年次・後期	講義

担当者	細胞生理学部門 相馬祥吾　野村憲吾 統合生理学部門 八木田和弘　小池宣也　笹脇ゆふ ○森本昌史

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護を行ううえで必要な体、すなわち人体の基本的な構造と機能の基礎知識を学び、説明することができる。

授業概要：人体の構造と機能について系統的に講義を行う。

適宜、適切なテーマで演習を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①)

２　授業内容・準備学習

1	細胞生理学・循環	【準備学習】 ・各授業開始前 事前配布された資料があれば予習を行い、質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後 A4サイズ用紙 一枚程度に授業内容をまとめておくこと。
2	循環	
3	血液	
4	呼吸	
5	腎	
6	消化器	
7	感覚器	
8	細胞膜と活動電位	
9	シナプス伝達	
10	自律神経系	
11	内分泌	
12	睡眠	
13	視覚	
14	運動器	

３　教科書：ナーシング・グラフィカ１　人体の構造と機能「解剖生理学」メディカ出版

系統看護学講座　解剖生理学　人体の構造と機能　[1] 医学書院

４　参考書：「入門人体解剖学」藤田恒夫　南江堂

「人体生理学」朝倉書院、「標準生理学」医学書院

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験

６　オフィス・アワー：本授業後

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
生化学	1単位(30時間)	必修	1年次・前期	講義

担当者	○来原康通、吉田達士、山崎健太、忠垣憲次郎（いずれも医学科分子生化学所属）

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：生体分子とその代謝制御機構のしくみについて理解し、生体の恒常性の維持メカニズムや、その破綻がどのようにして疾病の発生を招くのかについての理解を深める。もって看護に携わるものとしての観点から、人体の生理や疾病について科学的理解のできる能力を涵養する。

授業概要：「生化学」は生命現象を物理化学的観点から解き明かし、生命体の分子基盤を包括的に理解することを目指す基幹的基礎医学である。それゆえ看護の本質である「病めるひとに正しく向き合う」こと、そして「より健やかな生活にむけた支援を行なう」上で、修得しておくべき必須の基礎看護専門教育の一環を構成する。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①③)

2　授業内容・準備学習

1	生化学の概略と学修の準備	【準備学習】 ・授業形態としては指定教科書に沿った形の全体講義とする。また、教育を補完するプリント類などの教材を用意する。 ・生化学は高校や大学教養の化学や生物学の知識の上に成り立っている教科である。履修にあたっては、これまで高校生物や化学で学んだことを前もって復習しておいていただきたい。 ･多くの看護学生にとって「生化学」はなじみの少ない科目である。試験は一夜漬けでは対応が難しいものと思われる。テキスト内容だけでもいいので、毎回の授業の予習と復習を期待する。
2	代謝の基礎と酵素・補酵素	
3	糖質の構造と機能	
4	糖質代謝	
5	脂質の構造と機能	
6	脂質代謝	
7	タンパク質の構造と機能	
8	タンパク質代謝	
9	ポルフィリン代謝と異物代謝	
10	遺伝子と核酸	
11	遺伝子の複製・修復・組換え	
12	転写	
13	翻訳と翻訳後修飾	
14	シグナル伝達	
15	がん / 生化学講義のまとめ	

3　教科書：系統看護学講座専門基礎 2 人体の構造と機能２ 生化学　第 14 版（医学書院）

4　参考書：イラストレイテッド生化学 第７版（丸善）　（図書館に蔵書あり）

5　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況などを総合的に評価する。

6　オフィス･アワー:本授業日の昼休み時間およびそれぞれの授業前後に質問を受け付ける。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
栄養学	１単位（３０時間）	必修	１年次・前期	講義

担当者	桑波田雅士

1　授業概要（教育目標・指導方法）

我々が抱える食事・栄養問題を明らかにし、その解決のために、人間栄養学の取り組みがなぜ必要なのかを、授業を通して考える。そのために、栄養学の基礎や臨床栄養の基本について学ぶとともに、ニュートリションサポートチームでの連携や栄養ケア計画の実際について解説する。

2　授業内容

1	人間栄養学と看護
2	栄養状態の評価・判定とその方法（臨床診査、身体計測）
3	栄養状態の評価・判定とその方法（臨床検査、食事調査）
4	栄養素の種類とはたらき（糖質、脂質、タンパク質）
5	栄養素の種類とはたらき（ビタミン、ミネラル、食物繊維、水）
6	エネルギー代謝
7	栄養素の消化・吸収
8	栄養素の体内代謝
9	栄養ケア・マネジメント
10	ライフステージと栄養（乳幼児期、学童期、思春期、成人期）
11	ライフステージと栄養（妊娠・授乳期、更年期、高齢期）
12	臨床栄養（病院食、栄養補給法）
13	臨床栄養（疾患別食事療法１）
14	臨床栄養（疾患別食事療法２）
15	健康づくりと食品・食事・食生活（日本人の食事摂取基準）

3　教科書：中村丁次　他「系統看護学講座　栄養学　人体の構造と機能３」　医学書院

4　参考書：随時紹介する

5　評価方法・成績評価基準：　出席（１割）　定期試験（筆記）（９割）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
薬理学	１単位（３０時間）	必修	２年次・前期	講義

担当者	楳村敦詩　　岩田和実　　勝山真人

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：薬理学の概念、薬物の生体内動態、薬物の作用点・作用機序・相互作用などについて学習する。

授業概要：薬理学の概念、薬物の生体内動態、薬物の作用点・作用機序・相互作用を学習することにより、各病態における薬物の使い方、副作用・相互作用を理解し，臨床での薬物治療について説明出来る。

DPとの関連：強く関連するDP(②),関連するDP(①③)

２　授業内容・準備学習

1	総論１	【準備学習】各授業開始前、教科書・プリント等を予習・復習し、疑問点がある場合は質問の準備をしておくこと。 配布プリントならびに各授業で小テストを実施した場合、両者を授業終了後必ず復習し、次回の講義までに理解しておくこと。
2	総論２	
3	末梢神経作用薬（１）	
4	末梢神経作用薬（２）	
5	中枢神経作用薬（１）	
6	中枢神経作用薬（２）	
7	循環器作用薬（１）	
8	循環器作用薬（２）	
9	抗アレルギー薬・抗炎症薬（１）	
10	抗アレルギー薬・抗炎症薬（２）	
11	消化器作用薬（１）	
12	消化器作用薬（２）・呼吸器作用薬	
13	糖尿病治療薬・内分泌系作用薬	
14	抗悪性腫瘍薬	
15	抗感染症薬	

３　教科書：わかりやすい薬理学（安原一・小口勝司、ヌーヴェルヒロカワ）

４　参考書：NEW薬理学改訂第７版（南江堂）

５　評価方法・成績評価基準：小テスト・課題学習等（20%）、筆記試験（80%）によって評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
病理学	１単位（３０時間）	必修	１年次・後期	講義

担当者	原田義規　小形岳寛　中尾龍太

１　到達目標・授業概要・ディプロマポリシー(DP)との関連

到達目標：１）疾病の原因について説明できる。２）疾病の成り立ちについて説明できる。

授業概要：看護を行う際には患者の病態を十分に理解する必要がある。病理学総論を中心とした講義を受け、病気の原因・成り立ちについて学ぶ。

DPとの関連：強く関連するDP（①）、関連するDP（②③）

２　授業内容・準備学習

1	病理学で学ぶこと・病理診断の実際	【準備学習】 ・各授業開始前に教科書を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・課題提出については、各講師が指示する。
2	細胞・組織の障害と修復Ⅰ	
3	細胞・組織の障害と修復Ⅱ	
4	循環障害Ⅰ	
5	循環障害Ⅱ	
6	炎症と免疫、移植と再生医療　Ⅰ	
7	炎症と免疫、移植と再生医療　Ⅱ	
8	感染症　Ⅰ	
9	感染症　Ⅱ	
10	代謝障害・老化と死	
11	先天異常と遺伝子異常　Ⅰ	
12	先天異常と遺伝子異常　Ⅱ	
13	腫瘍　Ⅰ	
14	腫瘍　Ⅱ	
15	腫瘍　Ⅲ	

３　教科書：「系統看護学講座　疾病の成り立ちと回復の促進（１）　病理学　大橋健一著　医学書院

４　参考書：必要時に紹介

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験（80%）、課題提出資料（20%）により総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間	必修・選択	年次・学期	授業形態
感染免疫学	１単位３０時間	必修	２年次・前期	講義

担当者	中屋隆明　渡邊洋平　西岡敬介　岸田綱郎　河野正孝　和田　誠　○島田順一

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ（DP）との関連

抗生物質が開発される前までは、感染症は主要死因の一つであった。昨今でも新興感染症、再興感染症、エイズの流行等があり、感染症は看護にとって疎かにできない領域である。

ここでは、感染症の原因となる微生物とはなにか、人体の微生物に対する防御機構（免疫　、臨床看護で日常的に遭遇する疾患、自己免疫疾患、膠原病について講義する。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	感染症：感染と発病、感染の経過、感染予防、滅菌、消毒、治療	中屋	感染病態	【準備学習】各授業開始前に教科書・資料などを事前学習し、質問の用意をする。
2	感染免疫１：自然免疫、液性免疫	岸田	免疫	
3	感染免疫２：細胞性免疫、粘膜免疫	岸田	免疫	
4	病原微生物学総論：細菌、ウイルス、原虫、真菌、プリオン	中屋	感染病態	
5	各論１：皮膚・皮下・筋肉に病変を起こす病原体、蚊が媒介する感染症	大道寺	感染病態	
6	各論２：呼吸器に感染する病原体、眼の感染症	渡邊	感染病態	
7	各論３：消化管を攻撃する病原体、食中毒の原因となる病原体	大道寺	感染病態	
8	各論４：尿路感染起因菌、性感染症、TORCH 症候群	渡邊	感染病態	
9	各論５：脳・神経・髄膜を侵す病原体、口腔内細菌、唾液腺感染	大道寺	感染病態	
10	各論６：肝炎ウイルス、腫瘍を起こすウイルス・細菌	渡邊	感染病態	
11	各論７：ダニ媒介感染症、人獣共通感染症、ウイルス性出血熱、院内感染	中屋	感染病態	
12	感染症疾患の臨床とその看護	和田	内分泌免疫	
13	臨床免疫学総論、関節リウマチ	河野	内分泌免疫	
14	膠原病	和田	内分泌免疫	
15	アレルギー	和田	内分泌免疫	

3　教科書：系統看護学講座６　「微生物学」　医学書院
系統看護学講座　成人看護学（11　「アレルギー疾患患者の看護・膠原病患者の看護、感染症患者の看護」　医学書院

4　参考書：微生物学入門書　京都府立医科大学　今西二郎教授著、金芳堂

5　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
病態・疾病論Ⅰ（成人急性期）	１単位（３０時間）	必修	２年次・前期	講義

担当者	昇　修治　吉井龍吾　井上敬太　直居靖人　阪口晃一　有田智洋 清水浩紀　森村　玲　小西博貴　沼田　智　前田吉宣　川尻英長 ○島田順一

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ（DP）との関連

外科的治療について、看護活動の場で生かせるようわかりやすく、楽しい授業をしていきたい。
手術に必要な麻酔法と麻酔に関わる全身管理について学習する。内分泌系では、主要な疾患について、その概念および診断と治療の要点について学習する。消化器系では、消化器の外科的疾患とその術前、術後の看護に必要となる基礎的知識の習得を目指す。そして、呼吸・循環器系では、呼吸器系・循環器系疾患を外科的治療を中心に、解剖・生理の知識を踏まえ、ビデオや人工臓器の供覧など総合的に学習する。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	外科総論、外科的診断法、基本手技	(移植一般外科)	【準備学習】各授業開始前に教科書・資料などを事前学習し、質問の用意をする。
2	術前管理、術後管理、術後合併症	(麻酔科)	
3	麻酔の目的と方法（全身麻酔と局所麻酔）	(麻酔科)	
4	置換・再生外科（臓器移植）	(移植一般外科)	
5	乳腺外科	(内分泌・乳腺外科)	
6	内分泌外科	(内分泌・乳腺外科)	
7	腹部救急疾患	(消化器外科)	
8	胃癌、胃の手術	(消化器外科)	
9	食道癌、食道の手術	(消化器外科)	
10	肝・胆・膵の手術	(消化器外科)	
11	大腸がん・大腸の手術	(消化器外科)	
12	血管疾患の外科的治療	(心臓血管外科)	
13	先天性心疾患の外科的治療	(心臓血管外科)	
14	後天性心疾患の外科的治療	(心臓血管外科)	
15	肺癌の外科	(呼吸器外科)	
16	転移性肺腫瘍・縦隔洞腫瘍・良性疾患の外科	(呼吸器外科)	

3　教科書:「系統看護学講座　臨床外科看護総論」医学書院　「系統看護学講座　成人看護学６　内分泌・代謝」医学書院、「系統看護学講座　成人看護学５　消化器」医学書院、「系統看護学講座　成人看護学３　循環器」医学書院、「系統看護学講座　成人看護学２　呼吸器」医学書院、

4　参考書：下間正隆他「エキスパートナースMOOK14　まんがでみる手術と処置」小学館
下間正隆他「エキスパートナースMOOK22　続まんがでみる手術と処置」小学館

5　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
病態・疾病論Ⅱ （成人慢性期）	１単位（３０時間）	必修	２年次・前期	講義

担当者	黒田純也　稲葉　亨　濱口真英　千丸貴史　岡田博史　木谷友哉　矢西賢次 桐田雄平　中西直彦　津端英雄　三宅隼人　瀬古裕也　森本健司 片山勇輝 ○島田順一

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ（DP）との関連

循環器疾患：主要な循環器疾患の診断・治療法を解説し、看護学への応用ができるよう理解を深める。また、近年増加している虚血性疾患および心不全については、急性期と慢性期での対応の違いについても説明する。

消化器疾患：消化管、肝臓、膵臓、胆道系には種々の病気があるが、その中でも日常的に経験する良・悪性疾患を取り上げ、概要、病態、治療、看護の要点を解説する。

内分泌疾患：内分泌、代謝疾患の病因・病態・症状・治療法について充分理解し、疾病の本質を理解した看護が可能なように学習する。

呼吸器疾患：感染症、慢性閉塞性疾患（肺気腫，気管支喘息）、肺腫瘍について説明する。

血液疾患　：貧血、白血病、無顆粒球症、紫斑症、ＤＩＣについて説明する。

腎疾患　　：主要な腎疾患の概要、病態、診断、治療法について説明する。

臨床検査　：臨床検査を正しく理解し、判断するための基礎的知識について学習する。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	高血圧・動脈硬化	（循環器内科）	【準備学習】 各授業開始前に教科書・資料などを事前学習し、質問の用意をする。
2	虚血性心疾患	（循環器内科）	
3	心不全・心臓リハビリテーション・不整脈	（循環器内科）	
4	弁膜症・感染性心内膜炎	（循環器内科）	
5	消化管疾患の総論（症候・検査等）	（消化器内科）	
6	消化管疾患の基礎知識	（消化器内科）	
7	肝・胆・膵疾患の基礎知識	（消化器内科）	
8	代謝疾患	（内分泌・代謝内科）	
9	下垂体系疾患、副腎疾患	（内分泌・代謝内科）	
10	甲状腺、副甲状腺疾患	（内分泌・代謝内科）	
11	血液疾患の症状、検査について	（血液内科）	
12	貧血各論、白血病、紫斑症、ＤＩＣ、 その他の血液疾患	（血液内科）	
13	呼吸器感染症、肺癌	（呼吸器内科）	
14	閉塞性肺疾患	（呼吸器内科）	
15	腎疾患の症状、検査、急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全	（腎臓内科）	
16	臨床検査について	（感染制御・検査医学）	

3　教科書：系統看護学講座 成人看護学２ 呼吸器　医学書院
系統看護学講座 成人看護学３ 循環器　医学書院
系統看護学講座 成人看護学４ 血液・造血器　医学書院
系統看護学講座 成人看護学５ 消化器　医学書院
系統看護学講座 成人看護学６ 内分泌・代謝　医学書院
系統看護学講座 成人看護学８ 腎・泌尿器　医学書院

4　参考書：ナースのための心電図トレーニング:エキスパートナース（小学館）
モニター心電図: エキスパートナース（小学館）
新人ナースの循環器basic:メデイカ出版
ナースのための冠疾患事典：メデイカ出版
今日の診断指針（2011年発刊　医学書院）

5　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
病態・疾病論Ⅲ （精神・運動器）	１単位（３０時間）	必修	２年次・後期	講義

担当者	成本 迅　富永敏行　中前 貴　綾仁信貴　飯田直子　渡辺杏里　桑原明子　中嶋義幸 大矢 望　加藤佑佳　生駒和也　祐成　毅　大久保直輝　大森直樹　下村征史 ○島田順一

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ（DP）との関連

時代の変遷や神経科学の発展に伴い、旧来の精神疾患に加えて新たな疾患概念も生まれてきている。また、医療現場においては、患者の心理的側面への配慮がますます重要になり、さまざまな場面で精神医学的アプローチが要求される。整形外科学領域も病態が多様化している。

到達目標：講義では、従来の精神疾患に加え、近年発展しつつある精神科リハビリテーションやリエゾン精神医学、また心身医学的問題などについて学習する。整形外科領域については、関節疾患・脊椎疾患・腫瘍・骨粗鬆症などの多様化専門化している整形外科学を各疾患の病態、診断、治療を学習する。

授業概要：精神医学的アプローチと整形外科学を各疾患の病態、診断、治療を学習する。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	総論（歴史・疾病概念・症候学）	【準備学習】 各授業開始前に教科書・資料などを事前学習し、質問の用意をする。
2	統合失調症	
3	気分障害	
4	神経症性障害	
5	ストレス関連障害・身体表現性障害	
6	老年期精神障害・器質性精神障害（てんかんを含む）	
7	児童青年期精神障害・パーソナリティ障害	
8	精神作用物質使用による精神障害	
9	リエゾン精神医学・緩和ケア	
10	心理検査	
11	運動器学１　運動器疾患の治療法（保存／手術療法）、骨折と脱臼	
12	運動器学２　肩・肘関節外科、手の外科、末梢神経	
13	運動器学３　骨盤・股関節の外科、膝関節外科、足の外科、大腿骨頭壊死症	
14	運動器学４　頸椎・腰椎疾患、脊椎・脊髄損傷、骨粗鬆症	
15	運動器学５　関節リウマチ、小児整形外科、骨・軟部腫瘍の診断と治療	

３　教科書：瀧川　薫　編：精神看護学（看護学標準教科書）　オーム社　東京
「図解整形外科」久保俊一他　金芳堂

４　参考書：随時紹介する。

５　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業方法
病態疾病論Ⅳ	１単位（３０時間）	必修	2年次・後期	講義

担当者	髙山浩一　山田忠明　岩破將博　西岡直哉　玉木長良　酒井晃二　長澤慎介　小川 覚 早瀬一馬　橋本直哉　立澤和典　高橋義信　南都昌孝　梅林大督　丸山大輔○島田順一

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ（DP）との関連

臨床腫瘍学概論を通じて、化学療法、免疫療法、臨床医療に必須の放射線診断学、放射線治療学、疼痛・緩和医療学の基本を理解する。脳神経外科学では、救急医療での対象疾患となりうる脳血管障害については、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血に分けてしっかりと病態と治療を理解できることを目標とする。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	臨床腫瘍学１	呼吸器内科学	がんの薬物療法総論	【準備学習】 各授業開始前に教科書・資料などを事前学習し、質問の用意をする。
2	臨床腫瘍学２	呼吸器内科学	がんの免疫療法と副作用	
3	臨床腫瘍学３	呼吸器内科学	がんのゲノム医療	
4	臨床腫瘍学４	呼吸器内科学	がんの分子標的治療と副作用	
5	臨床腫瘍学５	放射線医学	核医学検査と治療概論	
6	臨床腫瘍学６	放射線医学	放射線科画像機器概論	
7	臨床腫瘍学７	放射線医学	放射線治療概論	
8	臨床腫瘍学８	疼痛・緩和医療学	がん性疼痛	
9	臨床腫瘍学９	疼痛・緩和医療学	緩和医療	
10	脳神経外科学１	脳神経外科学	脳神経外科学総論	
11	脳神経外科学２	脳神経外科学	脳血管障害（１）	
12	脳神経外科学３	脳神経外科学	脳血管障害（２）	
13	脳神経外科学４	脳神経外科学	脳腫瘍	
14	脳神経外科学５	脳神経外科学	脊椎・脊髄疾患	
15	脳神経外科学６	脳神経外科学	神経外傷、機能的脳神経外科	

・脳神経外科学のコマシラバスは以下をご確認ください。
https://drive.google.com/drive/folders/1AEByBoKE1hQvARUw81gWFS5F_OGmVHBq?usp=sharing

３　教科書：系統看護学講座　成人看護学７「脳神経」、医学書院

４　参考書：「新臨床腫瘍学」南江堂、がん一４０００年の歴史（ハヤカワ文庫　上下）
ワインバーグ　がんの生物学　　「ニュスタンダード 脳神経外科学」三輪書店

５　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
病態・疾病論Ⅴ （小児）	１単位（３０時間）	必修	２年次・後期	講義・演習

担当者	大曽根眞也　宮地　充　長谷川龍志 戸澤雄紀　吉田秀樹　　梶山　葉 森元英周　西田眞佐志　杉本　哲 高山勝平　金　聖和　大内一孝　○森本昌史

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護に必要な小児の病態・疾病を理解し、説明できる。

授業概要：代表的な子どもの疾患・特有の疾患の病態、診断、治療、予後について臓器系統別に講義を行う。適宜、適切なテーマで演習を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(①、②)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	小児科学総論	【準備学習】 ・各授業開始前 事前配布された資料があれば予習を行い、質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後 A4サイズ用紙 一枚程度に授業内容をまとめておくこと。
2	出生前の疾患、新生児・低出生体重児（１）	
3	出生前の疾患、新生児・低出生体重児（２）	
4	内分泌疾患、代謝性疾患	
5	血液疾患、悪性新生物（１）	
6	消化器疾患、血液疾患、悪性新生物（２）	
7	呼吸器疾患、免疫・アレルギー疾患	
8	感染症	
9	神経・筋疾患	
10	循環器疾患（１）	
11	循環器疾患（２）	
12	腎・泌尿器疾患	
13	小児外科疾患（１）	
14	小児外科疾患（２）	
15	総括	

３　教科書：特になし、授業ごとに資料を使用する。

４　参考書：適宜紹介する。

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験（90 %）、演習課題（10 %）

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
病態・疾病論Ⅴ （小児）	１単位（３０時間）	必修	２年次・後期	講義・演習

担当者	大曽根眞也　宮地　充　長谷川龍志 戸澤雄紀　吉田秀樹　　梶山　葉 森元英周　西田眞佐志　杉本　哲 高山勝平　金　聖和　大内一孝　○森本昌史

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護に必要な小児の病態・疾病を理解し、説明できる。

授業概要：代表的な子どもの疾患・特有の疾患の病態、診断、治療、予後について臓器系統別に講義を行う。適宜、適切なテーマで演習を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(①、②)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	小児科学総論	【準備学習】 ・各授業開始前 事前配布された資料があれば予習を行い、質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後 A4サイズ用紙 一枚程度に授業内容をまとめておくこと。
2	出生前の疾患、新生児・低出生体重児（１）	
3	出生前の疾患、新生児・低出生体重児（２）	
4	内分泌疾患、代謝性疾患	
5	血液疾患、悪性新生物（１）	
6	消化器疾患、血液疾患、悪性新生物（２）	
7	呼吸器疾患、免疫・アレルギー疾患	
8	感染症	
9	神経・筋疾患	
10	循環器疾患（１）	
11	循環器疾患（２）	
12	腎・泌尿器疾患	
13	小児外科疾患（１）	
14	小児外科疾患（２）	
15	総括	

３　教科書：特になし、授業ごとに資料を使用する。

４　参考書：適宜紹介する。

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験（90 %）、演習課題（10 %）

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
病態・疾病論Ⅵ （老年）	１単位（３０時間）	必修	２年次・後期	講義

科 目	病態・疾病論Ⅵ(神経内科疾患)	担当者	笠井高士　尾原知行　田中章浩　森井芙貴子
	病態・疾病論Ⅵ(老年医学)		近藤正樹　横関恵美
	病態・疾病論Ⅵ（眼科疾患）		新開陽一郎　米田亜規子
	病態・疾病論Ⅵ(皮膚科疾患)		在田貴裕　中江 真
	病態･疾病論Ⅵ(耳鼻咽喉科疾患)		安田誠　杉山庸一郎　瀧正勝

○島田順一

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ（DP）との関連

1）脳・神経系内科疾患

神経内科の代表的な疾患の症候の原因は中枢神経や末梢神経系に存在する。授業は疾患の病理・病態・治療について講義する。またこれらの疾患は脳神経外科、整形外科、神経耳鼻科、神経眼科などの領域とも重複する。したがって神経内科系の学習は患者を総合的に把握することが重要である。

2）老年医学

高齢時代に入り、認知症・寝たきり老人などの障害性老人にいかに対応するかは、医療のみならず社会的にも重要な問題である。高齢者には高齢者特有の病態があり、それらの知識と具合的な対応方法を身につけることは、高齢時代の医療を担う人間にとって必須のことである。

3）眼科疾患

人間は外界からの情報の約８０％を視覚器から得ている。眼科領域の基本的な解剖・生理を解説し、眼科疾患および全身とのつながりを理解し、眼科看護の基本知識を修得する。主要な疾患（結膜・角膜・ブドウ膜・水晶体・網膜硝子体・視機能・小児・神経眼科・眼窩疾患など）について、その病理・病態・治療法および看護の要点をわかりやすく解説する。視覚障害者への対応やロービジョンケアについても理解する。

4）皮膚疾患

皮膚科学では解剖、生理、病理などの基礎医学で修得した知識をもとに、皮膚病変の病態と臨床像把握を目的とする。病変部が体表に顕れる皮膚疾患の看護について特に配慮すべき点を修得することを目的とする。総論的事項としては、1. 皮膚の解剖・生理　2. 皮疹の性状・病態生理　3. 皮膚疾患の診断と検査法について概説する。また、各論として、1. アレルギー性皮膚疾患　2. 自己免疫疾患　3. 物理的原因による皮膚疾患　4. 角化症　5. 感染性皮膚疾患　6. 母斑・腫瘍等について講義するとともに症例を示説する。

5）耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科学は、たとえば京都の町屋のように間口は狭いが奥行きが広い領域で、耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、気管・食道科学、音声言語医学、頭頸部（腫瘍）外科学、免疫アレルギー学、先天異常など多岐にわたる分野を含んでいる。対象とする頭頸部領域には、感覚器、消化器、呼吸器、外分泌、内分泌臓器として多種の重要臓器が存在しており、多くの脳神経が、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、呼吸、嚥下、発声、構音咀嚼などの重要機能に関与している。疾患については、奇形、感染症、炎症疾患、腫瘍、外傷、変性疾患等を診療する機会を持ち、診断、治療、術後の経過観察など終始一貫した医療をおこなう診療科である。対象となる患者も男性、女性とも全年齢層に及び、耳鼻咽喉科専門疾患に加えて出血・外傷・めまい・神経麻痺といった救急医学やプライマリケア医療、摂食、呼吸という基本機能の入り口、聴覚や音声言語というコミュニケーション分野の異常を取り扱うことから、ケア、介助、看護、いずれの分野においても学ぶべき重要な要素がある。これらの中で将来看護学、看護体系に少しでも役立つような項目を中心に、プライマリケア、外来診療上の重要疾患について解説する。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	神経内科に必要な解剖・生理、脳神経系の機能、検査法	神経内科	【準備学習】 各授業開始前に教科書・資料などを事前学習し、質問の用意をする。
2	神経疾患の特徴・病歴聴取、診断法	神経内科	
3	脳血管障害：脳出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作	神経内科	
4	パーキンソン病、脊髄疾患、末梢神経疾患、他	神経内科	
5	神経・筋疾患：重症筋無力症、筋ジストロフィー、 筋萎縮性側索硬化症　他	神経内科	
6	高齢者のリハビリテーション	老年医学	
7	認知症の病態と地域ケア	老年医学	
8	眼球の解剖と検査法	眼科	
9	眼科疾患と看護の特徴	眼科	
10	皮膚科学総論・各論Ⅰ	皮膚科	
11	皮膚科学各論Ⅱ	皮膚科	
12	耳鼻咽喉科総論、検査法、鼻副鼻腔の機能とその異常、 鼻副鼻腔疾患、顎・顔面疾患　聴覚・平衡覚とその 異常、外耳疾患、中耳疾患、内耳疾患	耳鼻咽喉科	
13	口腔疾患、咽頭疾患、扁桃疾患、喉頭疾患、 嚥下とその異常、頭頸部腫瘍	耳鼻咽喉科	
14	まとめ１		
15	まとめ２		

3　教科書：「系統看護学講座　成人看護学７ 脳・神経」医学書院
「系統看護学講座　成人看護学12　皮膚」　医学書院
「系統看護学講座　成人看護学13　眼」　医学書院
「系統看護学講座　成人看護学14 耳鼻咽喉」医学書院

4　参考書：西山茂夫「皮膚病アトラス」文光堂

5　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
成長発達論	１単位（３０時間）	必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	森本昌史

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：乳幼児期を中心に胎児期から思春期までの成長および心身の発達過程について学び、小児の成長発達過程に即した看護及び保健活動を実践するための基礎知識を深める。

授業概要：乳幼児の正常発達、小児保健、発達障害などにつき系統的に講義を行う。適宜、適切なテーマで演習を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(①、②、③)、関連するDP(④)

２　授業内容・準備学習

1	小児の成長・発達（総論 1）	【準備学習】 ・各授業開始前 事前配布された資料があれば予習を行い、質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後 A4サイズ用紙 一枚程度に授業内容をまとめておくこと。
2	小児の成長・発達（総論 2）	
3	小児の成長・発達（各論 1）	
4	小児の成長・発達（各論 2）	
5	小児保健 1 前半	
6	小児保健 1 後半	
7	小児保健 2 前半	
8	小児保健 2 後半	
9	乳幼児期に特有な疾患と支援 1	
10	乳幼児期に特有な疾患と支援 2	
11	発達の評価とアドバイス 1	
12	発達の評価とアドバイス 2	
13	発達障害 1	
14	発達障害 2	
15	総括	

３　教科書：なし

４　参考書：写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法（南山堂）

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験（90 %）、演習課題（10 %）

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
生殖健康論	１単位（３０時間）	必修	２年次・前期	講義

担当者	楠木　泉　田中佑輝子　古株哲也　片岡　恒　沖村浩之 藤井麻耶　山田剛司　粥川成優　宮下雅亜

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：１）女性生殖器・泌尿器の構造と機能に関する医学的知識を習得する。２）女性生殖器・泌尿器に関する病態と最近のトピックスに関わる知識の理解を深める

授業概要：女性生殖器および泌尿器の構造と機能、病態・医学的ケアに関する必要な基礎知識を学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	女性生殖器の構造と機能、婦人科の診察・処置・画像診断	4/17　楠木　泉	【準備学習】 ・各授業開始前に教科書該当部を事前学習しておくこと ・各授業終了後、教科書、プリントなどを整理して知識を整理するとともに、次回授業の予習に生かすこと
2	性周期とホルモン、月経異常	4/24　楠木　泉	
3	妊娠の成立、正常妊娠	5/8　楠木　泉	
4	異常妊娠・妊娠合併症・周産期感染症	5/15　田中佑輝子	
5	正常分娩・産褥	5/22　楠木　泉	
6	分娩・産褥の異常、産科手術	5/29　藤井麻耶	
7	不妊症と不育症、生殖補助医療	6/5　沖村浩之	
8	婦人科良性腫瘍・類腫瘍	6/12　楠木　泉	
9	婦人科悪性腫瘍	6/19　古株哲也	
10	女性ヘルスケア、性感染症	6/26　片岡　恒	
11	泌尿器科学概論：泌尿器科症候学、泌尿器科検査法	（泌尿器科）	
12	泌尿器科学各論：泌尿器疾患	（泌尿器科）	
13	泌尿器科学各論：男性生殖器疾患	（泌尿器科）	
14	生殖健康論総合講義	7/3　楠木　泉	
15	まとめ	7/19　楠木　泉	

３　教科書：小林拓郎「新体系看護学全書　女性生殖器」メヂカルフレンド社
森恵美他「系統看護学講座　母性看護学各論」医学書院
小磯謙吉「新体系看護学全書　泌尿器」 メヂカルフレンド社

４　参考書：井上裕美他監修「病気がみえる９婦人科、10産科」メディックメディア

５　評価方法・成績評価基準：成績評価基準：筆記試験(100%)、レポート課題により評価する

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業方法
臨床遺伝学 (2022年入学生)	１単位（３０時間）	必修	2年次・後期	講義

担当者	黒田純也　森本昌史　山中 巧　森田 翠　前田英子　水田依久子　千代延友裕 村島京子　○島田順一

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ（DP）との関連

遺伝医学は遺伝病を扱う専門領域で、遺伝子解析の高度化、高速化にともない、医学を構成する重要な分野になってきている。

講義では、「遺伝」の基礎を理解したうえで、実臨床で遺伝医学を担う現場の医療者から、最新の内容を講義に盛り込んでもらうことで、遺伝学・ゲノム学が人の健康と病気にどのように関与するかについて、理解を深める。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	遺伝医学総論、臨床遺伝学、メンデルの遺伝学、 単一遺伝子疾患	島田	【準備学習】 各授業開始前に教科書・資料などを事前学習し、質問の用意をする。
2	遺伝医学の基礎、多因子疾患ヒトゲノム、染色体、 遺伝子の構造、次世代シーケンサー	島田	
3	遺伝医学の基礎、遺伝とゲノム、運動能力、性格、体質	島田	
4	遺伝医学の基礎：遺伝学的検査（染色体法ふくむ）	血液内科学	
5	遺伝医学の基礎：エピゲノム、ゲノム薬理学、薬理遺伝学	血液内科学	
6	遺伝医学の基礎：先天代謝異常・染色体異常症	森本	
7	遺伝医学の基礎：脳神経の先天性疾患と小児神経外科学	脳神経外科学	
8	遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）１	内分泌・ 乳腺外科学	
9	遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）２	産婦人科学	
10	ゲノム医療の現状と遺伝カウンセリング	千代延	
11	小児疾患における遺伝医学・遺伝カウンセリング	千代延	
12	生殖・周産期医療における遺伝カウンセリング	村島	
13	神経疾患の遺伝学的検査と遺伝カウンセリング	水田	
14	がん診療における遺伝医学・遺伝カウンセリング	千代延	
15	遺伝医学の未来、ゲノム医療と外科治療、 がん医療と社会、専門医制度、まとめ	島田	

・授業内容７のコマシラバスは以下をご確認ください。

https://drive.google.com/drive/folders/1AEByBoKElhQvARUw81gWFS5F_OGmVHBq?usp=sharing

3　教科書：

4　参考書：「遺伝医学やさしい系統講義」福嶋義光監訳メディカルサイエンス・インターナショナル
トンプソン＆トンプソン「遺伝医学」福嶋義光監訳メディカルサイエンス・インターナショナル

5　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

6　助産学履修希望者は必修である。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業方法
臨床遺伝学 (2021年入学生)	１単位（３０時間）	選択	2年次・後期	講義

担当者	黒田純也　森本昌史　山中 巧　森田 翠　前田英子　水田依久子　千代延友裕 村島京子　○島田順一

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ（DP）との関連

遺伝医学は遺伝病を扱う専門領域で、遺伝子解析の高度化、高速化にともない、医学を構成する重要な分野になってきている。

講義では、「遺伝」の基礎を理解したうえで、実臨床で遺伝医学を担う現場の医療者から、最新の内容を講義に盛り込んでもらうことで、遺伝学・ゲノム学が人の健康と病気にどのように関与するかについて、理解を深める。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	遺伝医学総論、臨床遺伝学、メンデルの遺伝学、 単一遺伝子疾患	島田	【準備学習】 各授業開始前に教科書・資料などを事前学習し、質問の用意をする。
2	遺伝医学の基礎、多因子疾患ヒトゲノム、染色体、 遺伝子の構造、次世代シーケンサー	島田	
3	遺伝医学の基礎、遺伝とゲノム、運動能力、性格、体質	島田	
4	遺伝医学の基礎：遺伝学的検査（染色体法ふくむ）	血液内科学	
5	遺伝医学の基礎：エピゲノム、ゲノム薬理学、薬理遺伝学	血液内科学	
6	遺伝医学の基礎：先天代謝異常・染色体異常症	森本	
7	遺伝医学の基礎：脳神経の先天性疾患と小児神経外科学	脳神経外科学	
8	遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）１	内分泌・ 乳腺外科学	
9	遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）２	産婦人科学	
10	ゲノム医療の現状と遺伝カウンセリング	千代延	
11	小児疾患における遺伝医学・遺伝カウンセリング	千代延	
12	生殖・周産期医療における遺伝カウンセリング	村島	
13	神経疾患の遺伝学的検査と遺伝カウンセリング	水田	
14	がん診療における遺伝医学・遺伝カウンセリング	千代延	
15	遺伝医学の未来、ゲノム医療と外科治療、 がん医療と社会、専門医制度、まとめ	島田	

・授業内容７のコマシラバスは以下をご確認ください。

https://drive.google.com/drive/folders/1AEByBoKElhQvARUw81gWFS5F_OGmVHBq?usp=sharing

3　教科書：

4　参考書：「遺伝医学やさしい系統講義」福嶋義光監訳メディカルサイエンス・インターナショナル
トンプソン＆トンプソン「遺伝医学」福嶋義光監訳メディカルサイエンス・インターナショナル

5　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

6　助産学履修希望者は必修である。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
人間看護工学	１単位（３０時間）	選択	１年次・後期	講義

担当者	關戸啓人

1　授業概要（教育目標・指導方法）

この授業は一般的人間工学ではなく、看護がどのように人間工学とかかわりあっているのかを理解することを目的とする。そのために、看護用具や検査法、あるいは日常行われている看護技術を例に取り上げ、学問的うらづけについても教授する。

2　授業内容

1	ガイダンス、力とその単位
2	牽引や体位変換における力の加減
3	作用・反作用の法則とその応用、摩擦の種類とその性質
4	トルクの原理と看護への応用
5	重心と安定性、重い荷物を持つ工夫、仙骨にかかる力と腰痛
6	ネブライザーの原理、経管栄養と粘性
7	圧力についての基礎知識、ケイソン病の原因と圧力
8	血圧測定の方法と原理
9	ボンベと流量、真空採血の原理
10	サイフォンの原理と胃洗浄、オートクレーブの原理
11	低圧持続吸引装置の原理
12	温療法、冷療法における熱量計算
13	熱の移動と保温
14	内視鏡の原理、看護と光学機械
15	まとめ

3　教科書：　指定しない

4　参考書：　平田雅子「ベッドサイドを科学する（完全版）」学習研究社
その他は講義中に適宜紹介する

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験を主に、講義中に行う小テストも加味して評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業方法
疫　学	１単位（３０時間）	必修	３年次・前期	講義

担当者	小山晃英　尾﨑悦子　松井大輔　長光玲央　高嶋直敬　○島田順一

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ（DP）との関連

到達目標：疫学は、人間集団において、健康事象を観察し、その発生要因、促進・抑制要因を分析し、健康問題の解決を図る方法論を提供し、実践に結び付ける学問であることを学習する。バイアスや交絡、疫学研究方法など疫学に特有な考え方を説明できる。

授業概要：疫学の方法論について、講義を受けて学ぶとともに、疫学統計演習を行い、講義での知識を定着・実践を行う。さらに実際の疫学調査を踏まえて講義内容を確認していく。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	疫学とは何か	【準備学習】 各授業開始前に教科書・資料などを事前学習し、質問の用意をする。
2	疫学で用いられる指標	
3	保健統計調査	
4	信頼性と妥当性	
5	バイアスと交絡	
6	記述疫学、情報収集方法、質問紙調査の実例	
7	分析疫学、因果関係	
8	介入研究、システマティックレビュー	
9	スクリーニング	
10	疫学統計演習1	
11	疫学統計演習2	
12	労働衛生の疫学	
13	栄養疫学	
14	生活習慣・主な疾患の疫学	
15	総まとめ	

3　教科書：はじめて学ぶやさしい疫学　改訂第3版（日本疫学会監修），南江堂

4　参考書：保健統計・疫学　改訂6版（福富和夫、橋本修二著）、南山堂

5　評価方法・成績評価基準：試験及び平常点、授業への参加状況を総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
公衆衛生学	１単位(30時間)	必修	３年次・前期	講義

担当者	高嶋直敬　小山晃英　松井大輔　尾﨑悦子 曽和義広　飯泉陽介　伊藤尚子 ○志澤美保

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：公衆衛生は、共同社会の組織的な努力を通じて疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進を図る科学技術である（鈴木,久道他 2010）。公衆衛生学では、人間集団を対象とした環境整備、傷病の予防、健康の保持増進を図ることを目的とした公衆衛生の内容について学ぶ。

授業概要：公衆衛生の概念や用いられている理論、制度、実際の活動内容について講義を受けて学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(①④)

2　授業内容・準備学習

1	公衆衛生学序論、公衆衛生活動　（志　澤）	【準備学習】 ・各授業開始前：前回授業の教科書やプリント等を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後：毎回の授業毎に、学習内容を講義ノートに整理し、予習指示に従って学習を進めておくこと。
2	保健統計　（医学科 公衆保健科学・高　嶋）	
3	感染症対策　（医学科 公衆保健科学・松　井）	
4	地域保健　（医学科 公衆保健科学・尾　崎）	
5	生活習慣病対策　（医学科 公衆保健科学・小　山）	
6	疾病予防と健康管理　（医学科 公衆保健科学・松　井）	
7	環境保健（１）　（医学科 予防医学・飯　泉）	
8	環境保健（２）　（教育センター・曽　和）	
9	公衆衛生活動の実際・母子保健　学校保健　（志　澤）	
10	公衆衛生活動の実際・産業保健　（伊　藤）	
11	公衆衛生活動の実際・精神保健　障害者　（志　澤）	
12	公衆衛生活動の実際・高齢者保健　（伊　藤）	
13	保健医療制度　（志　澤）	
14	地域保健対策　（志　澤）	
15	まとめ　（志　澤）	

3　教科書：南江堂　シンプル衛生公衆衛生学 2022

4　参考書：授業中に適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験(70%)、レポート他(30%)より評価する。

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
医療情報学	１単位 （３０時間）	必修	２年次・後期	講義・実習 （情報科学実習室）

担当者	浅野　弘明

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標　：SPSS による統計処理法と、エクセル・パワーポイントを用いた基礎資料の作成方法を修得するとともに、統計の基礎知識の修得を目標とする。

授業概要　：SPSS やエクセルを用いたデータ処理を通じて、統計処理法や統計学的基礎知識を習得する。

DPとの関連：強く関連するDP(②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	SPSSの紹介、エクセルの復習１、パワーポイントの復習	【準備学習】 ・授業内で説明されたパソコン操作については、繰り返し練習し、次の授業に臨むこと。 ・授業内で行ったデータ処理は、パソコン自習室等で復習し、処理内容の理解に努めること。 ・授業内で紹介する、統計スライド教材は、繰り返し視聴し、内容の理解に努めること。
2	エクセルの復習2、SPSSの基礎1（質的データのまとめ方）	
3	エクセルの復習3、SPSSの基礎2（量的データのまとめ方）	
4	エクセルの応用1、SPSSの基礎3（カイ二乗検定、t検定）	
5	エクセルの応用2、SPSSの基礎4（検定、有意差とは）	
6	エクセルの応用3、SPSSの基礎5（標本数と有意差）	
7	マクロ機能１，SPSSの基礎6（有意差の影響要因、順位和検定）	
8	マクロ機能２、SPSSの基礎7（グループ別集計）	
9	マクロ機能３、SPSSの基礎8（相関の基礎）	
10	電子化アンケート1、SPSSの基礎9（シンプソンのパラドクス）	
11	電子化アンケート2、SPSSの基礎10（外れ値の影響）	
12	エクセルの応用4、SPSSの基礎11（計算機能1、リコード）	
13	エクセルの応用5、SPSSの基礎12（計算機能2、値ラベルの付与）	
14	最終課題の説明、最終課題処理１	
15	最終課題処理２	

3　教科書（必携）： 浅野弘明、実習で学ぶ SPSS と統計学の基礎、プレアデス出版

4　参考書：特にナシ（必要資料は、ファイルとして提供する）。

5　評価方法・成績評価基準：講義に対する参加意欲(40%)、授業での提出課題（30%）、最終課題（30%）により評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
社会福祉学	１単位（３０時間）	必修	３年次・前期	講義

担当者	髙岡　理恵

１　授業概要（教育目標・指導方法）

この授業では、現代社会が抱える様々な社会問題を題材に福祉のあるべき姿を考察し、社会福祉の基本的な考え方について歴史や制度から総合的に学ぶ。
授業内容やテーマに応じて適宜グループワークやまとめ発表等を組み入れ能動的に学べるように進める。

２　授業内容

1	社会福祉の捉え方・・・医療職が社会福祉を学ぶ意味（ライフステージにおける社会福祉）
2	社会福祉の歴史と展開１・・・福祉の変遷（四個院、精神障害と岩倉）
3	社会福祉の歴史と展開２・・・障がい者とフリークス
4	社会福祉の歴史と展開３・・・戦前の障がい者と社会福祉制度
5	社会福祉の歴史と展開４・・・高度経済成長と女性の社会進出
6	社会福祉の制度と法体系・・・介護保険制度の誕生と社会保障
7	社会福祉の財政・・・自助、互助、共助、公助の理解、　様々な社会福祉制度
8	ノーマライゼーションと優生学・・・各国の捉え方
9	ノーマライゼーションと優生学・・・日本の捉え方
10	生存権保障とナショナルミニマム
11	公的扶助と社会保険制度
12	社会福祉を支える人の理解１・・・社会福祉士、介護福祉士、保育士等の職務理解
13	社会福祉を支える人の理解２・・・医療職との連携、ＭＳＷの職務理解
14	社会福祉を支える人の理解３・・・地域福祉で働く医療職、ボランティア組織、ネットワークのありかた
15	これからの社会福祉・・・授業からの気付き

３　教科書：プリントを配布します。
４　参考書：『国民の福祉と介護の動向』、厚生労働統計協会
　　大久保秀子『社会福祉とは何か』中央法規、2022
５　評価方法・成績評価基準：レポート試験（40%）、授業内課題レポート2回（30%）
　　授業後の振り返りシート（30%）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
カウンセリング論	１単位（３０時間）	必修	３年次・前期	講義

担当者	吉田　三紀

１　授業概要（教育目標・指導方法）

対人援助の場面においてカウンセリングマインドをもって取り組むことができるよう，カウンセリングの基本的な知識，技術を学び，援助者としての姿勢について考えることを目標とする。
講義および演習形式にて，カウンセリングの基礎的・具体的な技法を習得し、カウンセリングの実際についての知識を獲得することを目指す。

２　授業内容

1	カウンセリングとは何か：心を扱うということについて
2	基本的技法①
3	基本的技法②
4	非言語的コミュニケーション①
5	非言語的コミュニケーション②
6	非言語的コミュニケーション③　コラージュ療法の体験
7	援助者自身のメンタルヘルス
8	医療現場におけるカウンセリングの実際①
9	医療現場でのカウンセリングの実際②　がん医療
10	医療現場でのカウンセリングの実際③　小児医療
11	医療現場でのカウンセリングの実際④　産科医療
12	医療現場でのカウンセリングの実際⑤　脳神経医療、循環器医療
13	医療現場でのカウンセリングの実際⑥　精神医療、その他
14	教育現場でのカウンセリングの実際
15	まとめ

３　教科書：適宜プリントを配布する
４　参考書：
吉田三紀 編著「こころと医療をつなぐー病いとともに生きることを支えるアプローチ」（あいり出版、2015年）
５　評価方法・成績評価基準：学期末の試験，授業への取り組み状況 等を総合的に評価

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護と法律	１単位（３０時間）	必修	２年次・後期	講義

担当者	池谷　博 ほか、法医学教室 教室員

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：医療は、個々の医療従事者の行為としてだけではなく、システムとして存在し、機能している。そのシステムを大きく規定しているのが医療関係法規である。したがって、実際の医療を理解し、かつその一員として医療に従事するためには医療関係法規に対する基本的理解が不可欠であることから、本講義にて学習する。

授業概要：医療関係法規（看護法、医事法、保健衛生法、薬務法、社会保険法、福祉法、労働法や環境法）ならびに法の一般的・基本的事項の概説や厚生行政の仕組みに関する講義を受けて学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	法の概念	【準備学習】 ・日頃から新聞記事等で医療に関わる話題をよく読んでおくこと。 ・授業後に教科書を使ってよく復習すること。
2	看護法（１）	
3	看護法（２）	
4	医事法（１）	
5	医事法（２）	
6	保健衛生法（１）	
7	保健衛生法（２）	
8	薬務法（１）	
9	薬務法（２）	
10	社会保険法	
11	福祉法	
12	労働法と社会基盤整備	
13	環境法	
14	まとめ１	
15	まとめ２	

３　教科書：「系統看護学講座　健康支援と社会保障制度（４）看護関係法令」医学書院

４　参考書：適宜紹介する。

５　評価方法・成績評価基準：各授業最後の小テスト（60%）および期末テスト（40%）で評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
家族社会学	１単位（３０時間）	看護：選択 保健：必修 助産：必修	３年次・前期	講義 （第５講義室）

担当者	元橋　利恵

１　授業概要（教育目標・指導方法）

この授業の目標は、「家族」に関する基本的概念を学ぶとともに、家族をめぐる現状を把握・理解することで、現代社会において生じている様々な家族問題に適切に対処する方法を自身で考えられるようになることである。

授業は講義形式で行う。指定の教科書に沿って講義を進める。様々なデータや歴史的資料・映像資料をもとに、日本の家族および家族と社会の変化を説明する。

２　授業内容

1	イントロダクション　「フツーの家族」ってなんだろう？
2	日本における近代家族の成立と発展（１）その成立
3	日本における近代家族の成立と発展（２）その大衆化
4	近代家族の排他性と諸問題
5	家族とジェンダー（１）男らしさ、女らしさはどうしてつくられるのか
6	家族とジェンダー（２）セクシュアルマイノリティの排除の問題
7	家族とジェンダー（３）恋愛と結婚
8	家族とジェンダー（４）性別役割分業と家事労働
9	家族と暴力（１）DV
10	家族と暴力（２）児童虐待、性虐待
11	家族をひらく（１）住まい
12	家族をひらく（２）ケア
13	家族をひらく（３）親子関係、性愛関係
14	家族に介入する国家―サポートかコントロールか
15	まとめ

３　教科書：永田夏来、松木洋人編著（2017）『入門家族社会学』新泉社

４　参考書：適宜、プリントを配布する。

５　評価方法・成績評価基準：出席などの平常点３０％、筆記試験７０％で総合評価する。

６　助産学履修者は必修である。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
医療と経営	１単位（３０時間）	看護：選択 保健：必修 助産：選択	３年次・前期	講　義

担当者	古川　雅一

１　授業概要（教育目標・指導方法）

時代の変遷とともに、看護においても経営・経済を把握することの重要性が益々増加している。この講義では、日本の医療制度全般を理解した上で、昨今の医療機関のおかれている状況、医療機関における看護の役割を講義形式にて解説し、今後求められる看護サービスのあり方を考えていく。

２　授業内容

1	イントロダクション
2	社会保障制度 概論
3	公的医療保険制度の概要
4	医療サービスの供給体制
5	診療報酬制度
6	医療における規制
7	医療サービスの特性
8	医療機関経営の基本
9	リスクマネジメント
10	内部環境分析
11	内部環境分析、人事マネジメント
12	看護サービスの質、マネジドケア
13	介護保険制度と看護サービス
14	今後の看護サービスのあり方
15	まとめ

３　教科書：授業中に適宜紹介

４　参考書：授業中に適宜紹介

５　**評価方法・成績評価基準**：出席、レポート、確認テスト（授業中に実施）の結果を総合的に評価

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護基礎理論	１単位(30時間)	必修	Ⅰ年次・前期	講義・演習

担当者	○滝下幸栄　郷良淳子　志澤美保　松岡知子 毛利貴子　吉岡さおり　山本容子　筒井佳澄

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護の概念、健康と看護、看護の提供者、看護の倫理、看護管理、災害看護について学び、看護の変遷を通して、看護理論について学習する。

授業概要：看護の概念、健康と看護、看護活動、看護理論について講義を受けて学ぶ。健康を守る制度、ライフサイクルと健康に関する演習を行い発表する。

1.　DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	ガイダンス：　看護とはなにか、看護の概念、看護の定義（滝下）	【準備学習】 ・授業開始前 教科書、配布プリント等に目を通し、授業内容の予習を行う。 ・授業終了後 毎回の講義ごとに、授業評価表を記載し、学習内容と質問等を記載する。
2	人間と健康、健康の概念、健康関連行動（志澤）	
3	看護の対象とその理解（山本）	
4	看護の提供者、看護提供のしくみ（山本）	
5	看護の変遷（滝下）	
6	看護理論の変遷、近代看護の基盤を作った看護理論：ナイチンゲール（毛利）	
7	看護理論家の業績（１）：ヘンダーソン、アブデラ、ロイ（滝下）	
8	看護理論家の業績（２）：ペプロー、オレム、トラベルビー（郷良）	
9	看護理論家の業績（３）：ベナー、ワトソン（吉岡）	
10	保健・医療・福祉システム（志澤）	
11	看護管理、医療安全、看護の倫理（滝下）	
12	災害看護（滝下）	
13	健康を守る制度、ライフサイクルと健康に関するグループ演習（１）（筒井）	
14	健康を守る制度、ライフサイクルと健康に関するグループ演習（２）（筒井）	
15	これからの看護の課題と展望（松岡）	

３　教科書：志自岐康子ほか編「ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論」メディカ出版
フローレンス・ナイチンゲール著　小林章夫他訳「対訳　看護覚え書」うぶすな書院

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法・成績評価基準：演習発表資料（20%）、筆記試験（80%）

６　オフィス・アワー：毎週水曜日　16:00～18:00（滝下）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護人間論	1単位(30時間)	必修	1年次・後期	講義・演習

担当者	○山本容子　滝下幸栄　筒井佳澄　他

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：1）看護の対象である人間の理解のための基礎的知識について学ぶことができる。
2）家族看護、臨床看護の場、健康障害のレベル、災害時における看護の特徴について理解することができる。
3）講義や演習を通し、看護が持つ力、役割について思索を深めることができる。

授業概要：中範囲理論を基盤とする人間の理解のための基礎的知識、家族看護、臨床看護の場、健康障害のレベル、災害時における看護の特徴について講義を受けて学ぶ。人間の発達段階、心理・社会的な問題を抱えた患者に対する看護、人生の最終段階にある患者・家族の QOL について、個人課題とグループワークに取り組む。人間のニードについては個人課題に取り組む。

DP との関連：強く関連する DP(1)、関連する DP(2，3)

2　授業内容・準備学習

1	ガイダンス、看護の対象としての人間、人間の発達段階	【準備学習】 ・各授業開始前 教科書の該当頁を読み、授業時の理解が円滑になるように準備しておくこと。 ・各授業終了後 授業中に生じた疑問点や関心を持った点について、調べたり、思索を深めることが望ましい。個人課題を課する回があるので、期限内に取り組むこと（第1回：人間の発達段階、第3回：人間のニード、第4回：心理・社会的な問題を抱えた患者に対する看護、第12回：人生の最終段階にある患者・家族のQOL）。
2	人間の発達段階（グループワーク）	
3	ストレスとストレスコーピング	
4	人間のニード、様々な役割を持つ人間	
5	様々な役割を持つ人間（グループワーク）、セルフケア、保健行動	
6	家族看護	
7	臨床看護の場、在宅における看護	
8	急性期・回復期にある患者の特徴と援助	
9	急性期にある患者の事例：援助方法と家族への看護	
10	慢性期・リハビリ期にある患者の特徴と援助	
11	災害時の特徴と災害看護	
12	人生の最終段階にある患者・家族の特徴と援助	
13	人生の最終段階にある患者・家族の特徴と援助	
14	人生の最終段階にある患者・家族の特徴と援助（グループワーク）	
15	人生の最終段階にある患者・家族の特徴と援助（まとめ）	

3　教科書：宮脇美保子編「新体系看護学全書基礎看護学４　臨床看護総論」メヂカルフレンド社

4　参考書：適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験（50%）、個人課題レポート（50%）

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
生活援助論Ⅰ	２単位(60時間)	必修	１年次・前期	講義・演習

担当者	○滝下幸栄　山本容子　筒井佳澄　他

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護実践における共通基本技術と日常生活の援助技術について学び、安全・安楽・自立を考えた基礎的な看護技術を習得する。

授業概要：看護実践の基本技術である、感染予防の技術、安全管理の技術、コミュニケーション技術、安楽確保の技術と日常生活の援助技術である、環境調整技術、活動・休息の援助技術、観察の技術について講義と演習を中心に授業を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①)

2　授業内容・準備学習

1	看護の専門性と看護技術	【準備学習】 ・授業開始前 教科書、配布プリント等に目を通し、授業内容の予習を行う。特に、技術演習に関しては、看護技術の根拠や手順等を調べ、演習記録に記載する。 ・授業終了後 毎回の講義ごとに、授業評価表を記載し、学習内容と質問等を記載する。 看護技術演習では、演習で学んだことを演習記録にまとめ、提出する。
2	看護技術の科学性とエビデンス・ベースド・ナーシング（ＥＢＮ）	
3	感染予防と安全管理の技術（１）	
4	感染予防と安全管理の技術（２）	
5	感染予防と安全管理の技術（３）演習：手洗いと手指消毒	
6	感染予防と安全管理の技術（４）演習：防護具の付け方	
7	コミュニケーションの技術（１）	
8	コミュニケーションの技術（２）	
9	コミュニケーションの技術（３）：演習　思いを伝えてみよう、話を聞いてみよう	
10	環境を整える技術（１）	
11	環境を整える技術（２）	
12	環境を整える技術（３）	
13	環境を整える技術（４）：演習　リネン類の取り扱い	
14	環境を整える技術（５）：演習　病室・病床の整備方法	
15	環境を整える技術（６）：演習　ベッドメーキング	
16	環境を整える技術（７）：演習　ベッドメーキング	
17	安楽確保の技術（１）	
18	安楽確保の技術（２）：演習　ボディメカニクス　安楽な体位	
19	活動と休息の援助技術（１）	
20	活動と休息の援助技術（２）	
21	活動と休息の援助技術（３）：演習　体位変換	
22	移動・移送の援助技術（１）	
23	移動・移送の援助技術（２）：演習　車椅子の操作法	
24	移動・移送の援助技術（３）：演習　ストレッチャーの操作法	
25	看護における観察の技術	
26	バイタルサインの測定と観察の技術（１）	
27	バイタルサインの測定と観察の技術（２）	
28	バイタルサインの測定と観察の技術（３）：演習　血圧計の取り扱い	
29	バイタルサインの測定と観察の技術（４）：演習　バイタルサインの測定	
30	バイタルサインの測定と観察の技術（５）：演習　バイタルサインのアセスメント	

3　教科書：
深井喜代子他編「新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社
深井喜代子他編「新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社

4　参考書：適宜紹介する

5　評価方法・成績評価基準：演習記録（50%）、筆記試験（50%）

6　オフィス・アワー：毎週水曜日　16:00～18:00（滝下）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
生活援助論Ⅱ	２単位(60時間)	必修	Ⅰ年次・後期	講義・演習

担当者	○筒井佳澄　滝下幸栄　山本容子　他

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：

1）看護の対象が生理的・心理的・社会的ニードをもつ統合体として生活していることをとらえ、対象者に合わせた援助技術について考えることができる。

2）看護実践における共通基本技術と日常生活の援助技術について、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を考えた基礎的な看護技術を習得する。

授業概要：　基礎看護技術に必要な知識・技術・態度の視点から、環境の整備やプライバシーの保護、身体の清潔、衣生活、食生活、排泄、ターミナル期にある患者の援助について講義と演習を中心に授業を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①)

2　授業内容・準備学習

1	看護情報の共有と伝達の技術（１）	【準備学習】 ・授業開始前に、教科書、配布プリント等に目を通し、授業内容の予習を行う。特に、技術演習に関しては、看護技術の根拠や手順等を調べ、演習記録に記載する。 ・看護技術演習では、演習で学んだことを演習記録にまとめ、提出する。
2	看護情報の共有と伝達の技術（２）	
3	清潔の援助技術（１）：清拭	
4	清拭の演習	
5	清拭の演習	
6	清拭の演習	
7	清潔の援助技術(2):洗髪	
8	洗髪の演習	
9	洗髪の演習	
10	洗髪の演習	
11	清潔の援助技術(3):足浴･手浴	
12	足浴･手浴の演習	
13	足浴･手浴の演習	
14	足浴･手浴の演習	
15	衣生活の援助技術(1):寝衣交換	
16	寝衣交換の演習	
17	寝衣交換の演習	
18	衣生活の援助技術(2):シーツ交換	
19	シーツ交換の演習	
20	シーツ交換の演習	
21	食生活の援助技術(1)	
22	食生活の援助技術(2)	
23	食事の援助･口腔ケアの演習	
24	食事の援助･口腔ケアの演習	
25	食事の援助･口腔ケアの演習	
26	排泄の援助技術と観察(1)	
27	排泄の援助技術と観察(2)	
28	排泄援助の演習	
29	排泄援助の演習	
30	ターミナル期における援助技術	

3　教科書：
深井喜代子他編「新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社
深井喜代子他編「新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社

4　参考書：適宜紹介する

5　評価方法・成績評価基準：演習記録（50%）、筆記試験（50%）

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
治療援助論	２単位 （６０時間）	必修	２年次・前期	講義・演習

担当者	○山本容子　滝下幸栄　筒井佳澄　他

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：1）治療・検査に関連した基盤となる看護技術についての知識・技術・態度を学ぶことができる。

授業概要：治療・検査に関連した基盤となる看護技術について、エビデンスに基づいた知識を講義を受けて学ぶ。演習では、デモンストレーションを視聴後、看護師・患者役の双方を体験し、技術と態度の習得をはかる。

DPとの関連：強く関連するDP(1，2)

２　授業内容・準備学習

1	治療援助論概論，髄法	【準備学習】 ・各授業開始前 教科書の該当頁を読み、授業時の理解が円滑になるように準備しておくこと。 ・各授業終了後 授業内容について復習し、演習計画書を準備すること。演習内容は記録にまとめて提出すること。
2	感染予防の技術（消毒と滅菌）	
3	感染予防の技術（消毒と滅菌）	
4	感染予防の技術（感染経路別予防策）	
5	感染予防の技術（感染経路別予防策）	
6	感染予防の技術（演習１）：滅菌物の取り扱い，創傷管理	
7	感染予防の技術（演習２）：滅菌物の取り扱い，創傷管理	
8	薬物療法時の援助技術（１）	
9	薬物療法時の援助技術（２）	
10	薬物療法時の援助技術（３）	
11	薬物療法時の援助技術（４），輸血療法時の援助技術	
12	薬物療法時の援助技術（演習１）： 注射用薬液の準備と安全確認	
13	薬物療法時の援助技術（演習２）：皮下注射・筋肉内注射	
14	薬物療法時の援助技術（演習３）：皮下注射・筋肉内注射	
15	栄養療法時の援助技術：経管栄養法，中心静脈栄養法	
16	薬物療法時の援助技術（演習４）：点滴静脈内注射用薬液の準備と安全確認	
17	薬物療法時の援助技術（演習５）：点滴静脈内注射	
18	薬物療法時の援助技術（演習６）：点滴静脈内注射	
19	排泄の援助技術（１）	
20	排泄の援助技術（２）	
21	排泄の援助技術（演習１）：導尿法	
22	排泄の援助技術（演習２）：浣腸法	
23	診察・検査時の援助技術	
24	医療安全管理	
25	検査時の援助技術（演習１）：採血法	
26	検査時の援助技術（演習２）：採血法	
27	吸入・吸引の援助技術（１）：酸素吸入療法	
28	吸入・吸引の援助技術（２）：一時的吸引法	
29	吸入・吸引の援助技術（演習１）：酸素吸入療法・一時的吸引法	
30	吸入・吸引の援助技術（演習２）：酸素吸入療法・一時的吸引法	

３　教科書：深井喜代子編「新体系看護学全書基礎看護学②③　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」メヂカルフレンド社

４　参考書：適宜紹介する。

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験（50%），演習記録（40%），実技試験（10%）

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護方法論	１単位(30時間)	必修	２年次・後期	講義・演習

担当者	○滝下幸栄　山本容子　筒井佳澄　他

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標:看護の対象者に人間的なケアを系統的に行う方法である看護過程について理解することができる。

授業概要：前半は日常生活と看護における思考プロセスの対比を試みながら，看護過程における思考の特徴について学ぶ。後半は，視聴覚教材や紙上事例を利用し演習を行う中で，看護診断についての学習を深める。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①)

2　授業内容・準備学習

1	看護過程とは何か	【準備学習】 ・授業開始前 教科書、配布プリント等に目を通し、授業内容の予習を行う。 ・授業終了後 毎回の講義ごとに、授業評価表を記載し、学習内容と質問等を記載する。また、次回の予習指示に従って学習を進めておくこと。
2	看護における問題解決過程と意思決定	
3	看護実践と看護理論	
4	クリティカルシンキング	
5	情報の分析と統合	
6	看護問題の特定と看護計画	
7	看護の実施と評価の視点	
8	事例を通して看護を考える（演習１）：紙上事例からの情報収集	
9	事例を通して看護を考える（演習２）：情報の分類と分析	
10	事例を通して看護を考える（演習３）：看護関連図の検討	
11	事例を通して看護を考える（演習４）：情報の統合と看護問題の抽出	
12	事例を通して看護を考える（演習５）:問題の優先順位判断と看護計画の作成	
13	事例を通して看護を考える（演習６）：演習成果を発表しよう	
14	看護診断，看護介入分類，看護成果分類	
15	看護過程、看護診断と電子カルテ	

3　教科書：深井喜代子編「新体系　看護学全書 基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社

4　参考書：適宜紹介する

5　評価方法・成績評価基準：演習発表資料（50%)、筆記試験（50%）

6　オフィス・アワー：毎週水曜日　16:00～18:00（滝下）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
ヘルスアセスメント	1単位(30時間)	必修	2年次・前期	講義・演習

担当者	○筒井佳澄　滝下幸栄　山本容子　中田克哉　他

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：1）看護の対象者を身体的・心理的・社会的側面から統合体としてとらえ、アセスメントすることができる。

2）フィジカルアセスメントの基本的技術について説明し、実施できる。

3）対象者の安全・安楽に配慮し、フィジカルアセスメントを実施できる。

授業概要：臨地実習で実際に活用する頻度の高い技術であり、演習を通して系統的に学習する。講義・演習は、学生の主体的な学びを促進するために、既習の人体の基本的な構造と機能の知識と演習記録を活用しながら、学習する。

DP との関連：強く関連する DP(2)、関連する DP(1)

2　授業内容・準備学習

1	ヘルスアセスメントとは（講義）	【準備学習】 ・毎回の講義前には、教科書の該当箇所を熟読し、関連する既習科目の復習をしておくこと。演習記録に予習が必要な場合は、指示がある。 ・各授業終了後、授業内容について復習し、演習に備えること。演習内容は記録にまとめて提出すること。
2	全身・外観のアセスメントの方法（講義・演習）	
3	感覚器系のアセスメントの方法（講義）	
4	感覚器系のアセスメントの方法（演習）	
5	乳房・リンパ系のアセスメントの方法（講義・演習）	
6	筋・骨格系のアセスメントの方法（講義）	
7	筋・骨格系のアセスメントの方法（演習）	
8	腹部・消化器系のアセスメントの方法（講義）	
9	呼吸器系・循環器系のアセスメントの方法（講義）	
10	腹部・消化器系のアセスメントの方法（演習）	
11 12	呼吸器系・循環器系のアセスメントの方法（演習）	
13	脳神経系のアセスメントの方法（講義・演習） 心理・社会的側面のアセスメントの方法（講義）	
14	アセスメントに必要な放射線検査の理解（講義） 目標：看護職に必要な放射線の基礎、放射線を用いた検査・治療、人への放射線の健康影響を学ぶ。	
15	ヘルスアセスメントの方法(まとめ)（講義）	

3　教科書：深井喜代子編「新体系看護学全書基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社

4　参考書：適宜紹介する

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験（50%）、演習記録（50%）

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
基礎看護学実習Ⅰ	１単位(45時間)	看護師課程：必修	１年次・前後期	実習

担当者	○滝下幸栄　山本容子　筒井佳澄　他

1　授業概要（教育目標・指導方法）

教育目標：患者を取り巻く環境と看護の役割を理解し、患者との初歩的な人間関係を体験する。

実習目標
1）患者を取り巻く環境を観察できる。
2）看護師の活動の実際を観察できる。
3）患者とのコミュニケーションを体験できる。

指導方法：事前学習、オリエンテーション、病院見学、外来実習、病棟実習、カンファレンス等

2　授業内容
2023年度基礎看護学実習Ⅰ実習要項（看護学の基本）に掲載

3　教科書：
深井喜代子他編「新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社
深井喜代子他編「新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社
フローレンス・ナイチンゲール　小林章夫他訳「対訳　看護覚え書」うぶすな書院

4　参考書：なし

5　評価方法・成績評価基準：
事前学習、実習態度、カンファレンスなどでの討議内容、実習記録などから総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
基礎看護学実習Ⅱ	２単位 (90時間)	必修	２年次・後期	実習

担当者	○山本容子　滝下幸栄　筒井佳澄　他

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連
到達目標：「看護学の基本」で学んだ知識・技術・態度に基づいて、患者の生活を理解し、患者に合わせた日常生活援助ができる。
実習目標：
１）患者の生活の変化を理解できる。
２）生活の変化に伴う援助の必要性が理解できる。
３）日常生活援助を実施し評価できる。
授業概要：オリエンテーション、病棟実習、カンファレンス、グループワーク等を期間中に行う。
DP との関連：強く関連する DP(1，2，3)

2　授業内容・準備学習
実習要項を参照のこと

3　教科書：
深井喜代子編「新体系看護学全書基礎看護学②③　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」メヂカルフレンド社

4　参考書：実習時に紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：実習評価表の項目に従って評価（100％）

6　履修要件：治療援助論とヘルスアセスメント、看護方法論の履修

7　オフィス・アワー：基礎看護学実習Ⅱ実習期間中

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
成人看護学概論	２単位（３０時間）	必修	１年次・後期	講義・演習

担当者	○ 吉岡 さおり　佐伯 良子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：健康レベルに応じた健康障害の特徴と看護方法、看護理論を理解する。

授業概要：ライフサイクルにおける成人期の発達課題と健康障害の特徴、成人看護に活用される理論、成人保健について理解する。

DPとの関連:強く関連するDP(　②　)、関連するDP(　①　③　)

2　授業内容・準備教育

1	成人看護学の位置づけと成人の理解	【準備学習】 ・各授業開始前はシラバスに記載した講義内容について教科書の該当箇所を読み学習しておく。 ・各授業後は講義資料と教科書から授業内容を整理してまとめる。
2	ライフサイクルの中での成人の発達課題	
3	成人を取り巻く環境と成人の健康の理解	
4	ヘルスプロモーションと疾病予防：健康の一次・二次・三次予防	
5	患者の意思を尊重した看護	
6	がんの動向・今日的課題	
7	患者の価値を尊重したアドバンス・ケア・プランニング	
8	成人期における健康障害の特徴と援助（急性期・慢性期）	
9	成人期における健康障害の特徴と援助（各期のリハビリテーション）	
10	成人期における健康障害の特徴と援助（終末期）	
11	成人看護学で活用される理論：ニード論、ケアリング	
12	成人看護学で活用される理論：危機理論	
13	成人看護学で活用される理論：適応理論	
14	成人看護学で活用される理論：行動変容モデル・自己効力理論	
15	成人看護学で活用される理論：不確かさ ・ まとめ	

3　教科書：大西和子、岡部聰子編、「成人看護学　成人看護学概論」ヌーベルヒロカワ

4　参考書：授業中に紹介する

5　評価方法・成績評価基準：試験 70%、レポート 20%、演習参加状況 10%

6　オフィス・アワー：別途紹介

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
成人急性期看護援助論Ⅰ	１単位（３０ 時間）	必修	２年次・前期	講義・演習

担当者	○佐伯良子　吉岡さおり　室田昌子　山本裕子　山田親代　山内聡子　長谷川佳代 杉美紀

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：急激な健康破綻、手術療法および救命救急を必要とする患者の特徴を理解し、周手術期の看護に必要な知識・技術を理解する。急性期にある患者と家族へのケアを理解する。

授業概要：手術に伴う身体的・精神的変化を理解し、日常生活の自立のための援助方法を理解する。手術療法に関わる全身管理、術前・術中・術後の看護方法、救急時に必要な看護技術を学ぶ。また、日帰り手術、クリティカルパスについて理解する。

DPとの関連:強く関連するDP(　②　)、関連するDP(　①　)

2　授業内容・準備教育

1	急性期、周手術期看護の特徴	【準備学習】 各授業開始前にはシラバスに記載した講義内容について教科書の該当箇所を読み学習しておく。 【授業終了後】 各授業後は講義資料と教科書から授業内容を整理してまとめる。
2	外科的治療と外科看護の役割、手術侵襲と生体反応	
3	周手術期：術前外来/術前管理/術前オリエンテーション	
4	周手術期：手術準備と術後ベッド　演習に向けて	
5	周手術期：術前訓練と術後ベッド作成　（演習）	
6		
7	周手術期：手術後の看護・創傷管理/早期離床	
8	周手術期：手術室における看護　（日帰り手術含む）	
9	周手術期：術後合併症①	
10	周手術期：術後合併症②（高齢者に特徴的な合併症）	
11	周手術期：継続看護、退院に向けた看護、クリティカルパス	
12	クリティカルケア看護　（救急看護）	
13	クリティカルケア看護　（ICU看護）	
14	救急看護：気道確保と一時救命処置（演習）	
15		

3　教科書：　矢永勝彦、小路美喜子編　系統看護学講座別巻　臨床外科看護総論　医学書院、北島政樹、江川幸二編　系統看護学講座別巻　臨床外科看護各論　医学書院

4　参考書：随時紹介する

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験80%、演習レポート20%

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
成人急性期看護援助論Ⅱ	１単位(30時間)	必修	２年次・後期	講義・演習

担当者	○室田昌子　吉岡さおり　佐伯良子　山本裕子 山田親代　山内聡子　齊藤　芳　松村知咲

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：急性期にある患者の看護を行う上での基本的な知識と技術を習得する。

授業概要：特に、心臓手術、胸部手術、消化器系手術、臓器移植術における手術前・手術後・回復期における看護方法を理解する。周手術期にある患者の看護に焦点を当て、その身体的変化と心理社会的な影響を理解した看護方法を学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(　②　)、関連するDP(　①、③　)

2　授業内容・準備学習

1	看護過程の展開1　吉岡	【準備学習】 ・各授業開始前 シラバスに記載した講義内容について教科書の該当箇所を読み学習しておく。疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業修了後 授業内容を整理してまとめ、次回の予習指示にしたがって、学習を進めておくこと。
2	看護過程の展開2　吉岡	
3	消化器系の手術を受ける患者の看護過程の展開1：事例を通して考える（食道がん　胃がん）　室田	
4	消化器系の手術を受ける患者の看護過程の展開2：事例を通して考える（直腸がん　肝臓がん）　室田	
5	消化器系の手術を受ける患者の看護:ストーマ造設術を受ける患者の看護　齊藤Ns　室田	
6	ストーマ造設術を受ける患者の援助（演習）　齊藤Ns　山田　山内　室田	
7	心臓の手術を受ける患者の看護過程の展開1：大動脈弁置換術術前　室田	
8	心臓の手術を受ける患者の看護2：大動脈弁置換術術直後　室田	
9	心臓の手術を受ける患者の看護3：大動脈弁置換術回復期　室田	
10	肺の手術を受ける患者の看護過程の展開1：肺がん術前　室田	
11	肺の手術を受ける患者の看護過程の展開2：肺がん術直後　室田	
12	肺の手術を受ける患者の看護過程の展開3：肺がん回復期　室田	
13	リハビリテーションが必要な患者の看護過程の展開1：関節リウマチ　佐伯	
14	リハビリテーションが必要な患者の看護過程の展開2：脊髄損傷　佐伯	
15	腎臓移植術および肝臓移植術を受ける患者の看護　松村看護師 急性期にある患者の看護のまとめ　室田	

3　教科書：矢永勝彦他編：系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論　医学書院，北島政樹他編：系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論　医学書院，浅野浩一郎他著：系統看護学講座専門分野Ⅱ 呼吸器・循環器・消化器・腎/泌尿器 医学書院,中西純子他編:成人看護学 リハビリテーション看護論 ヌーヴェルヒロカワ

4　参考書：随時紹介する

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験80%、グループワーク・レポート20%

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
成人急性期看護援助論Ⅲ（2021年入学生）	1単位(30時間)	必 修	2年次・後期	講義・演習

担当者	○佐伯良子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：リハビリテーション看護の考え方、障害者の特徴、看護実践について学び、リハビリテーション看護の展開について学習する。

授業概要：リハビリテーション看護の考え方、障害者の特徴、筋・骨格系障害、高次脳機能障害、感覚機能障害、脳・神経系障害をもつ人へのリハビリテーション看護の援助方法について講義を受けて学ぶ。生活の再構築を支える社会資源の活用と社会生活を可能にする援助、リハビリテーションを継続する援助が実践できる。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(① ②)

2　授業内容・準備学習

1	リハビリテーション医療・看護の考え方、障害者施策と倫理的課題	【準備学習】 各授業開始前にはシラバスに記載した講義内容について教科書の該当箇所を読み学習しておく。 【授業終了後】 各授業後は講義資料と教科書から授業内容を整理してまとめる。
2	リハビリテーション看護で活用される国際障害分類	
3	看護過程の展開１　機能回復、各期のリハビリテーション	
4	看護過程の展開２　社会資源の活用 生活指導	
5	看護過程の展開３　関節リウマチ　情報の分析と解釈	
6	看護過程の展開４　関節リウマチ　関連図、看護診断、看護目標、看護計画	
7	運動器系の障害とリハビリテーション看護（脊髄損傷）　排泄機能障害	
8	高次脳機能障害とリハビリテーション看護	
9	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護　（脳卒中）	
10	神経変性疾患とリハビリテーション看護　（パーキンソン病）	
11	がんのリハビリテーション看護	
12	感覚器系の障害とリハビリテーション看護（視覚障害）	
13	社会生活を可能にする日常生活援助の指導（患者教育）	
14	社会生活を可能にする日常生活援助の指導（患者教育）演習	
15	リハビリテーション看護の課題と展望　まとめ	

3　教科書：中西純子,石川ふみよ編 成人看護学　リハビリテーション看護論　ヌーヴェルヒロカワ

4　参考書：系統看護学講座　成人看護 脳・神経,眼,アレルギー・膠原病・感染症　医学書院

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験70%、演習レポート30%、

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
成人慢性期看護援助論Ⅰ	１単位(30時間)	必修	２年次・前期	講義・演習

担当者	○室田昌子　佐伯良子　山本裕子　土田翔太　苅谷景子　井上恭子　中澤昌子

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：慢性疾患を持つ成人期の健康問題を理解し、その治療を受ける患者と家族への援助方法について学習する。

授業概要：循環器疾患、腎疾患、消化器疾患、呼吸器疾患を持つ患者の生涯にわたり自己管理を要する患者の生活を支える看護について事例を用いて理解する。また、慢性疾患をもつ患者の地域への継続看護の方法を退院調整の事例から理解する。

DPとの関連:強く関連するDP(　②　)、関連するDP(　①、③　)

２　授業内容・準備学習

1	慢性期にある患者の看護の特徴　室田	【準備学習】 ・各授業開始前 シラバスに記載した講義内容について教科書の該当箇所を読み学習しておく。疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業修了後 授業内容を整理してまとめ、次回の予習指示にしたがって、学習を進めておくこと。
2	消化器疾患患者の看護1：慢性肝炎、肝硬変　山本	
3	消化器疾患患者の看護2：胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン氏病　山本	
4	消化器疾患患者の看護3：慢性膵炎　山本	
5	循環器疾患患者の看護1：虚血性心疾患　室田	
6	循環器疾患患者の看護2：心不全　室田	
7	循環器疾患患者の看護3：心臓リハビリテーション・在宅でのケア　室田	
8	腎疾患患者の看護1：ネフローゼ症候群　室田	
9	腎疾患患者の看護2：在宅でのケア（血液透析療法・腹膜透析療法）　土田Ns　室田	
10	呼吸器疾患患者の看護1：COPD　室田	
11	呼吸器疾患患者の看護2：在宅酸素療法・呼吸器リハビリテーション　苅谷Ns　室田	
12	高次脳機能障害とリハビリテーション看護1：脳卒中　佐伯	
13	神経変性疾患患者のリハビリテーション看護2：パーキンソン病　佐伯	
14	慢性期疾患をもつ患者の地域への継続看護 （グループワーク）　井上師長・中澤副師長　室田	
15	慢性期にある患者の看護のまとめ　室田	

３　教科書：鈴木志津枝他編：成人看護学 慢性期看護論・リハビリテーション看護論 ヌーヴェルヒロカワ
浅野浩一郎他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器・循環器・消化器・腎/泌尿器・脳/神経 医学書院

４　参考書：随時紹介する

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験80%、グループワーク・レポート20%

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
成人慢性期看護援助論Ⅱ	１単位(30時間)	必修	２年次・後期	講義・演習

担当者	○山本裕子　吉岡さおり　佐伯良子 山内聡子　重森久仁子　教育支援

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：慢性疾患をもつ成人のセルフケア能力向上のための援助とQOLを高めるための看護に必要な知識を習得する。

授業概要：慢性疾患をもつ患者と家族の特徴について身体的・心理的・社会的視点から学ぶ。事例を用いて情報のアセスメント、看護上の問題点、看護目標設定、看護計画の立案ができる。

DPとの関連:強く関連するDP(　②　)、関連するDP(　①、③　)

２　授業内容・準備学習

1	看護過程の展開１	【準備学習】 ・各授業開始前はシラバスに記載した講義内容について教科書の該当箇所を読み学習しておく。 ・各授業後は講義資料と教科書から授業内容を整理してまとめる。
2	看護過程の展開２	
3	事例で考える血液・造血器疾患患者の看護１：悪性リンパ腫事例紹介 悪性リンパ腫と化学療法	
4	事例で考える血液・造血器疾患患者の看護２：情報の分類 造血幹細胞移植と看護	
5	事例で考える血液・造血器疾患患者の看護３：分析と解釈 輸血を受ける患者の看護	
6	事例で考える血液・造血器疾患患者の看護４：急性白血病と看護 多発性骨髄腫と看護	
7	事例で考える血液・造血器疾患患者の看護５：関連図、看護診断	
8	事例で考える血液・造血器疾患患者の看護６：看護目標、看護計画、評価　、修正	
9	膠原病疾患患者の看護	
10	糖尿病患者への看護：食事・運動療法と日常生活指導 糖尿病患者の看護過程の展開	
11	演習：糖尿病患者への生活指導のロールプレイ	
12	演習：社会生活を可能にする日常生活援助の指導（患者教育）	
13		
14	エンドオブライフケア：心不全緩和ケア	
15	慢性疾患を持つ成人の身体的・心理的・社会的問題　まとめ	

３　教科書：飯野京子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 4・6・11 医学書院
鈴木志津枝、藤田佐和編：成人看護学 慢性期看護論、ヌーヴェルヒロカワ

４　参考書：随時紹介する

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験 80%、グループワーク・演習レポート 20%

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
成人急性期看護学実習	３単位(135時間)	必修	３年次・後期 ４年次・前期	実習

担当者	○ 吉岡さおり　室田昌子　佐伯良子 山田親代　　山本裕子　山内聡子

１　授業概要（教育目標・指導方法）

既習の知識、技術を基盤として、成人期にある急性期医療を受ける患者を総合的に理解し、患者および家族に対し、健康障害に応じた看護過程を展開する。

２　授業内容

（１）実習目的

手術療法が必要な成人期にある患者の健康問題および身体的・心理的・社会的特徴を理解し、周手術期に応じた援助ができる。

（２）実習目標

１)手術を必要とする患者の病態と手術内容及び手術が生体に及ぼす影響について理解できる。
２)手術各期における患者の健康問題を把握し、看護過程を展開する中で必要な援助ができる。
３)手術後の機能障害や形態の変化に伴う受容過程に応じた援助ができる。
４)患者の回復状態に応じた社会生活への自立の援助ができる。
５)医療チームのメンバーとしての役割を理解し、連携と看護の継続ができる。

詳細は、実習要項を参照すること。

３　教科書

成人看護学概論、成人急性期援助論Ⅰ・Ⅱの授業で使用したテキストおよび資料

４　参考書

随時紹介する。

５　評価方法・成績評価基準

実習目標の達成度（実習記録等）、出席状況等から総合的に評価する。
実習内容・記録80%、実習態度（実習評価表参照）20%を原則とする。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
成人慢性期看護学実習	３単位(135時間)	必修	３年次・後期 ４年次・前期	実習

担当者	○ 吉岡さおり　室田昌子　山本裕子 山内聡子　　佐伯良子　山田親代

１　授業概要（教育目標・指導方法）

既習の知識、技術を基盤として、成人期にある慢性疾患を体験する患者を総合的に理解し、患者および家族に対し、健康障害に応じた看護過程を展開する。

２　授業内容

<u>慢性的な経過をたどり生涯にわたり自己管理を要する成人の看護</u>

Ⅰ．実習目的

慢性的な経過をたどる成人期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題を理解し、生涯にわたり自己管理を支援する援助ができる。

Ⅱ．実習目標

１．慢性的な経過をたどる患者の病態と治療が及ぼす影響を理解し、疾患受容のための援助ができる。
２．慢性的な健康問題を有する患者と家族を理解し、問題解決のための援助ができる。
３．患者のセルフケア能力を査定し、自己管理への援助ができる。
４．医療チームにおける看護の役割を理解した実践ができる。
５．退院後の生活に向けて必要な退院調整および社会資源の活用方法が理解できる。

<u>終末期にある対象への看護</u>

Ⅰ．実習目的

終末期にある患者の特徴を理解し、その人らしさを支えるとともに、苦痛を緩和する援助ができる。

Ⅱ．実習目標

１．終末期にある患者を総合的・全人的に理解し、その人らしさを支える援助ができる。
２．終末期にある患者の苦痛を緩和する援助ができる。
３．終末期にある患者の家族の援助ができる。

詳細は実習要項を参照すること

３　教科書

成人看護学概論、成人慢性期援助論Ⅰ・Ⅱの授業で使用したテキストおよび資料

４　参考書

随時紹介する。

５　評価方法・成績評価基準

実習目標の達成度（実習記録等）、出席状況等から総合的に評価する。
実習内容・記録80%、実習態度（実習評価表参照）20%を原則とする。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
がん看護援助論	１単位（３０時間）	必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	○ 林　容子　　佐伯 良子 菅谷 和子　　芦田 理恵

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：がんの診断を受けてから、治療や療養生活の過程における身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛などの患者の体験を理解し、がん治療を受ける患者への看護と最期の時までその人らしく生きるために必要な援助を学習する。

授業概要：がんおよびがん患者の理解、身体的苦痛とその援助、がん治療と看護、がん患者のエンド・オブ・ライフ・ケアについて講義を受け学ぶ。がん患者とのコミュニケーションについて、自己学習及びグループディスカッションし、発表する。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②③)

2　授業内容・準備学習

1	がんおよびがん患者の理解① 総論・がんの疫学	・【準備学習】 各授業開始前、配布資料等に目を通し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 また、次回の予習指示にしたがって、学習を進めておくこと。 ・【授業終了後】 講義内容に該当する教科書を精読し、講義資料に重要点を書き込んでおくこと。
2	がんおよびがん患者の理解② がんの病態と臨床経過	
3	がんおよびがん患者の理解③ がん患者と家族の体験とがん看護の特徴	
4	がん治療と看護① がん治療の特徴と看護	
5	がん治療と看護② がん薬物療法を受ける患者の看護　（菅谷）	
6	がん治療と看護③ 放射線療法を受ける患者の看護　（芦田）	
7	がん治療と看護④ 女性特有のがん治療を受ける患者の看護	
8	がん患者の身体的苦痛とその援助① 症状マネジメントと緩和ケア	
9	がん患者の身体的苦痛とその援助② 代表的な症状マネジメントと緩和ケア	
10	がんリハビリテーションと看護	
11	がん患者のエンドオブライフケア①	
12	がん患者のエンドオブライフケア②	
13	がん患者とのコミュニケーション（グループワーク）	提示された事例を展開し、課題をまとめたうえでグループワークに臨むこと。
14	がん患者とのコミュニケーション（グループワーク）	
15	がん患者とのコミュニケーション（発表会）・まとめ	

3　教科書：系統看護学講座　がん看護学　医学書院

4　参考書：適宜紹介する

5　評価方法・成績評価基準：自己学習１０％、ミニテスト１０％、筆記試験８０％

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
精神保健	１単位(30時間)	必修	１年次・後期	講義

担当者	占部　美恵

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：１）精神の健康に影響を及ぼす因子を具体的に捉え、健康を保持・増進するための援助方法に結び付けて考え,自らの精神の健康について述べることができる。

２）精神医療の歴史的変遷を踏まえ、精神に障害を持つ人の人権擁護の重要性が理解できる。

授業概要：精神の健康に関連した概念や理論、発達段階別のメンタルヘルスの問題を自身や家族、周囲の人たちのメンタルヘルスについて考える。

精神保健医療の歴史や法律、倫理的配慮を学び、精神障害者の人権擁護を学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②③④)

2　授業内容・準備学習

1	精神保健とは	【準備学習】 ・各授業開始前 前回の授業内容について教科書や配付資料を復習し、次の授業内容の教科書を予習する。 ・各授業終了後 質問や感想を配付した出席票に記載する。
2	精神の健康に影響を及ぼす因子	
3	ストレスと危機理論	
4	こころの発達と精神保健：フロイト	
5	発達段階別にみる発達課題と精神の健康①：エリクソン	
6	発達段階別にみる発達課題と精神の健康②：乳幼児期・学童期・思春期	
7	発達段階別にみる発達課題と精神の健康③：成人期、老年期	
8	看護師のメンタルヘルス	
9	メンタルウェルネス	
10	現代社会とこころの健康	
11	災害地域精神保健医療活動	
12	精神保健医療福祉の沿革・歴史	
13	精神看護における基本的人権と倫理的配慮	
14	精神保健医療福祉に関する法律	
15	精神保健の展望	

3　教科書：萱間真美他編「精神看護学Ⅰこころの健康と地域包括ケア　現代に生きる人々のこころの健康を考える」改訂第３版

4　参考書：適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：　定期試験80%、提出物20%

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
精神看護学概論	1単位(30時間)	必修	2年次・前期	講義・演習

担当者	郷良　淳子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：精神看護における理論および対人関係や家族関係に関する諸理論の概要を説明できる。
今日の精神保健についていくつかの側面についてその概要を説明できる。

授業概要：精神看護を理解するうえで必要な精神看護の理論、人間関係の主要概念の理解
対人援助技術として必要なコミュニケーションスキルの概要を、講義を通して学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(①　)、関連するDP(②③　　)

2　授業内容・準備学習

1	精神看護とは　精神看護の理論①　対人関係論	【準備学習】 ・各授業開始前 これまでの配布資料等を読み、分からない用語、概念は調べておくこと、疑問点も整理して授業中に質問できるよう準備しておくこと。 ・各授業終了後 毎回の講義ごとに、授業で示されたポイントを自分で説明できるようにしておくこと。
2	精神看護の理論②　オレムアンダーウッドのセルフケア理論と看護	
3	対人関係　精神看護における患者-看護師関係とコミュニケーション	
4	心理学的アセスメントの方法と演習	
5	人間関係の理論①　グループダイナミクス　集団精神療法の概要	
6	人間関係の理論②　集団におけるコミュニケーション	
7	精神看護の理論③　リカバリーとストレングス	
8	人間関係　看護師―患者関係に起こりやすい特徴	
9	家族関係の理論	
10	世界の精神保健	
11	今日的課題としての精神保健と看護①　うつと自殺【自殺対策基本法】	
12	今日的課題としての精神保健と看護②　トラウマインフォームドケアと心的外傷	
13	今日的課題としての精神保健と看護③　精神障害者の家族　ヤングケアラー	
14	今日的課題としての精神保健と看護④　性同一性障害　その他	
15	まとめ	

3　教科書：特に指定しない。

4　参考書：1年生の精神保健を参考。授業中に提示する。

5　評価方法・成績評価基準：本試験70%　小テスト20%　リアクションペーパー10%
小テストは中間時期に1度実施予定です。授業の中で時期は明示します。

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
精神看護援助論Ⅰ	1単位(30時間)	必修	2年次・後期	講義・演習

担当者	郷良　淳子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：精神疾患を持つ患者の看護の基本を説明できる。
地域における精神障害者のケアの概要を説明できる。

授業概要：代表的な精神疾患の症状を根拠として、看護の基本を講義で学ぶ。
地域における精神障害者のケアの基本を講義で学ぶ。
精神障害を持つ当事者の語りから当事者の生活のありようを理解する。

DPとの関連:強く関連するDP(②③)、関連するDP(①　)

2　授業内容・準備学習

1	精神保健福祉法と医療観察法　精神科における入院	【準備学習】 ・各授業開始前 これまでの配布資料等を読み、分からない用語、概念は調べておくこと、疑問点も整理して授業中に質問できるよう準備しておくこと。 ・各授業終了後 毎回の講義ごとに、授業で示されたポイントを自分で説明できるようにしておくこと。
2	統合失調症　急性期の看護のポイント	
3	統合失調症　回復期と慢性期の看護のポイント	
4	地域総合支援法におけるサービスと地域精神保健	
5	精神科における治療　精神科薬物療法と看護	
6	精神科における治療　認知行動療法やSST　心理教育	
7	精神障害者の家族とその支援	
8	統合失調症の看護のまとめ　事例を中心に	
9	双極性障害とうつ病の看護のポイント	
10	うつ病患者の看護のまとめ　事例を中心に	
11	精神科看護における倫理的課題	
12	境界性パーソナリティ障害の看護のポイント	
13	強迫性障害の看護のポイント	
14	当事者研究　当事者と当事者支援者による授業	
15	まとめ	

3　教科書：特に指定しない。

4　参考書：1年生の精神保健を参考。授業中に提示する。

5　評価方法・成績評価基準：本試験70%　小テスト20%　リアクションペーパー10%
小テストは中間時期に実施する

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
精神看護援助論Ⅱ	１単位(30時間)	必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	占部　美恵

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：１）精神障害の急性期から回復期、慢性期の看護を理解し、看護過程の演習を通して具体的な援助方法や精神科看護師の役割を考えることができる。

２）精神看護におけるリスクマネジメントと患者の権利擁護に配慮した援助を説明できる。

授業概要：１）各疾患や症状に対する看護過程を講義で学び、演習にて思考過程を実践する。

２）プロセスレコード演習にて、精神看護に必要なコミュニケーションを学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①③)

２　授業内容・準備学習

1	急性期から回復期・慢性期の看護	【準備学習】 ・各授業開始前 前回の授業内容について教科書や配付資料を復習し、次の授業内容の教科書を予習する。 ・各授業終了後 質問や感想を配付した出席票に記載する。 ・演習の振り返り後 自身が考えた内容との違いと自身の課題を各自で明らかにする。
2	精神科看護の基本と技術、mECTの看護	
3	プロセスレコード①　演習	
4	プロセスレコード②　演習、セルフヘルプグループ	
5	行動制限と看護、精神看護のセイフティマネジメント	
6	症状アセスメントとケアプラン（１）統合失調症	
7	症状アセスメントとケアプラン（２）演習③　慢性期	
8	症状アセスメントとケアプラン（３）演習③振り返り、ひきこもり	
9	症状アセスメントとケアプラン（４）気分障害	
10	症状アセスメントとケアプラン（５）パーソナリティ障害	
11	症状アセスメントとケアプラン（６）演習④　操作性	
12	症状アセスメントとケアプラン(７)演習④振り返り、認知症のBPSD	
13	症状アセスメントとケアプラン（８）依存症	
14	精神科訪問看護、地域で生活する精神障害者への支援	
15	精神と脳機能、まとめ	

３　教科書：萱間真美他編「精神看護学Ⅱ　地域・臨床で活かすケア　対象者の力を引き出し支える」改訂第３版

４　参考書：適宜紹介する。

５　評価方法・成績評価基準：　定期試験50%、演習時の提出物50%

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
精神看護学実習	３単位（135時間）	必　修	３年次・後期 ４年次・前期	実　習

担当者	郷良淳子　　占部美恵　　福田弘子

１　授業概要（教育目標・指導方法）

＜実習目的＞

精神看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、精神機能に障害をもつ人および家族を理解し、個別的な看護が実践できる基礎的能力を養う。

＜実習目標＞

１．専門職として「人」を援助する基本姿勢、出合い・関係作り・発展過程・終結を学ぶ
２．精神に障害を抱えた人に添い、日常生活・背景・経過を知り、対象理解に繋げる
３．日常生活活動を共にし、看護問題および対象者の健康面に気づき精査する
４．対象者を尊重する関わりを通し、自己決定、自尊心を高める援助方法を学ぶ
５．対象者の自立（律）レベル・能力に応じた看護計画が立案・実施・評価できる
６．精神障害者の社会参加、ノーマライゼーションについて理解し看護の役割が考察できる

２　授業内容

実習要項参照

３　教科書：瀧 川　薫 編：精神看護学（看護学標準教科書）オーム社
吉松和哉他 編:精神看護学Ⅰ　ヌーヴェルヒロカワ　東京
川野 雅資　編:精神看護学Ⅱ　ヌーヴェルヒロカワ　東京

４　参考書：適宜提示する

５　評価方法・成績評価基準：出席状況・実習目標の到達度・実習記録（レポート）から総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
小児看護学概論	２単位（３０時間）	必修	２年次・前期	講義

担当者	○原田清美

1　到達目標・授業概要・ディプロマポリシー（DP）との関連

到達目標

1）小児と家族への看護の概念を説明できる。

2）小児の成長・発達について説明できる。

3）発達段階別（乳児期、幼児期、学童期、思春期）に、小児の成長・発達と健康増進のための小児と家族への看護が説明できる。

4）小児と家族を守る法律と制度について説明できる。

授業概要：小児と家族の看護の概念，小児の成長・発達について学ぶ。発達段階別に健康増進のための小児への看護について学ぶ。さらに、小児と家族を守る法律と制度について学ぶ。小児をイメージできるよう視聴覚教材を活用しながら講義を行う。

DP との関連：強く関連する DP（①）、関連する DP（②・③）

2　授業内容・準備学習

1	小児看護学ガイダンス	【事前学習】 ・各授業開始前に、教科書を熟読しておくこと。 【事後学習】 ・各授業終了後に、配付資料を復習し、質問がある場合は、教員に質問すること。
2	小児と家族の看護の概念（１）:小児の特徴	
3	小児と家族の看護の概念（２）:小児と家族の諸統計・小児看護の変遷	
4	小児と家族の看護の概念（３）:小児看護における倫理、小児看護の課題	
5	小児と家族の看護の概念（４）:小児看護における概念と理論	
6	小児の成長と発達：小児の成長･発達と評価	
7	乳児の健康増進のための看護（１）：乳児期の特徴､形態的機能の成長･発達	
8	乳児の健康増進のための看護（２）：乳児の養育および看護	
9	幼児の健康増進のための看護：幼児の特徴､形態的機能の成長・発達、幼児の養育および看護	
10	学童の健康増進のための看護：学童期の特徴と成長･発達、日常生活と健康問題	
11	思春期の健康増進のための看護：思春期の特徴と成長･発達、日常生活と健康問題	
12	子どもと家族を取り巻く社会（１）：児童福祉・母子保健	
13	子どもと家族を取り巻く社会（２）：予防接種・感染予防	
14	子どもと家族を取り巻く社会（３）：学校保健・児童虐待	
15	小児と家族への看護：まとめ	

3　教科書

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論　医学書院

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論　医学書院

4　参考書：適宜紹介する

5　評価方法：成績評価基準：課題提出資料(20%)、筆記試験(80%)によって評価する。

6　オフィスアワー：下記のメールに連絡いただければ、質問等は個別に日程調整いたします。

原田清美　　kiyomih@koto.kpu-m.ac.jp

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
小児看護援助論Ⅰ (2022年入学生)	１単位（３０時間）	必修	２年次・後期	講義

担当者	○山口未久　　原田清美　　中口尚始

１　到達目標・授業概要・ディプロマポリシー（DP）との関連

到達目標

１）小児の安全と看護について説明できる。

２）小児特有の症状と看護について説明できる。

３）健康状態に応じた小児と家族への基本的な看護実践について学ぶ。

４）小児の観察・測定技術と検査・治療・処置を受ける小児と家族の看護実践について学ぶ。

授業概要：小児の安全と看護、小児特有の症状と看護について学ぶ。また、健康状態に応じた小児と家族への基本的な看護実践について学ぶ。小児の観察・測定技術と検査・治療・処置を受ける小児と家族の看護実践について学ぶ。小児がイメージできるよう視聴覚教材を活用する

DPとの関連：強く関連するDP（②）、関連するDP（①・③）

２　授業内容

1	小児の安全と看護：小児の事故の特徴と実態、事故防止と安全教育	【事前学習】 ・各授業開始前に、教科書を熟読しておくこと。 【事後学習】 ・各授業終了後に、配付資料を復習し、質問がある場合は、教員に質問すること。
2	小児の日常生活の援助技術（講義）：食事・排泄・移動・遊びの援助	
3	症状を示す小児の看護：（１）	
4	症状を示す小児の看護：（２）	
5	症状を示す小児の看護：（３）	
6	小児のバイタルサインの観察・測定技術	
7	小児の身体の観察・測定技術	
8	小児のフィジカルアセスメント	
9	検査･治療･処置を受ける小児と家族の看護：年齢に応じた説明と同意、プレパレーション	
10	検査･治療･処置を受ける小児と家族の看護：小児の経口与薬、睡眠を必要とする検査	
11	検査･治療･処置を受ける小児と家族の看護：小児の輸液管理、採血、注射、採尿	
12	検査･治療･処置を受ける小児と家族の看護：経管栄養法、骨髄穿刺、腰椎穿刺、固定方法	
13	障がいのある子どもと家族の看護	
14	子どもと虐待の看護	
15	小児特有の症状と検査・治療・処置を受ける小児と家族の看護：まとめ	

３　教科書

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論　医学書院

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論　医学書院

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法：成績評価基準：課題提出資料(20%)、筆記試験(80%)によって評価する。

６　オフィスアワー：下記のメールに連絡いただければ、質問等は個別に日程調整いたします。

山口未久　　m-yamagu@koto.kpu-m.ac.jp

原田清美　　kiyomih@koto.kpu-m.ac.jp

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
小児看護援助論Ⅰ (2021年入学生)	１単位（３０時間）	必修	２年次・後期	講義・演習

担当者	○原田清美　　山口未久　　中口尚始

１　到達目標・授業概要・ディプロマポリシー（DP）との関連

到達目標

１）小児と家族を守る法律と制度について説明できる。

２）小児の安全と看護について説明できる。

３）小児の成長・発達と健康増進のための小児の日常生活の援助技術を実践できる。

授業概要：小児と家族を守る法律と制度、小児の安全と看護、小児の成長・発達と健康増進のための小児の日常生活の援助技術について、小児がイメージできるように視聴覚教材を活用しながら講義を行う。

DPとの関連：強く関連するDP（②）、関連するDP（①・③）

２　授業内容

1	小児看護援助論Ⅰガイダンス	【事前学習】 ・各授業開始前に、教科書を熟読しておくこと。 【事後学習】 ・各授業終了後に、配付資料を復習し、質問がある場合は、教員に質問すること。
2	小児の安全と看護（１）：子どもの権利を考える	
3	小児の安全と看護（２）：予防接種、感染予防	
4	小児の日常生活の援助技術（１）：「食事」の援助（授乳、離乳食、食事の自立）	
5	小児の日常生活の援助技術（２）：「排泄」の援助（おむつ、トイレトレーニング）	
6	小児の日常生活の援助技術（３）：「移動」の援助（抱っこ）	
7	小児の日常生活の援助技術（４）：小児の事故の特徴と実態、事故防止と安全教育	
8	小児の日常生活の援助技術（演習１）：「遊び」の援助	
9	小児の日常生活の援助技術（演習２）：グループワーク	
10	小児の日常生活の援助技術（演習３）：グループワーク	
11	小児の日常生活の援助技術（演習４）：グループワーク	
12	小児を守る法律と制度（１）：母子保健対策	
13	小児を守る法律と制度（２）：児童虐待の防止	
14	小児を守る法律と制度（３）：学校保健対策	
15	小児の安全と日常生活援助：まとめ	

３　教科書

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論　医学書院

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論　医学書院

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法：成績評価基準：課題提出資料(20%)、筆記試験(80%)によって評価する。

６　オフィスアワー：下記のメールに連絡いただければ、質問等は個別に日程調整いたします。

原田清美　　kiyomih@koto.kpu-m.ac.jp

山口未久　　m-yamagu@koto.kpu-m.ac.jp

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
小児看護援助論Ⅱ	１単位（３０時間）	必修	３年次・前期	講義

担当者	○原田清美　山口未久　中口尚始　宮澤真由美

１　到達目標・授業概要・ディプロマポリシー（DP）との関連

到達目標

１）疾病が小児と家族に与えるさまざまな影響を理解する。

２）小児の成長・発達と健康状態に応じた小児と家族の看護について理解する。

３）健康問題のある小児の事例を通して、小児と家族の看護過程を展開する。

授業概要：配布資料に沿って、疾病が小児と家族に与える影響を理解し、小児の成長・発達と健康状態に応じた小児と家族の看護について学ぶ。また、小児の健康問題に対するアセスメント能力を向上するために、小児がんの子どもと家族の看護過程の展開を行う。小児のイメージができるように視聴覚教材を活用し講義を行う。

DPとの関連：強く関連するDP（②）、関連するDP（①・③）

２　授業内容

1	子どもの成長・発達に応じた看護	【事前学習】 ・各授業開始前に、教科書を熟読しておくこと。 【事前学習】 ・各授業終了後に、配付資料を復習し、質問がある場合は、教員に質問すること。 ・看護過程の展開に関しては、事前の講義で提示した課題を持参し、講義に望むこと。
2	子どもの環境に特徴づけられる看護（入院・外来・在宅）	
3	病気・障がいを持つ子どもと家族の看護	
4	慢性期にある小児と家族の看護（生活制限含む）	
5	急性期にある小児と家族の看護	
6	周手術期にある小児と家族の看護	
7	終末期にある小児と家族の看護	
8	先天性疾患のある子どもと家族の看護（１）	
9	先天性疾患のある子どもと家族の看護（２）	
10	小児がんの子どもと家族の看護（１）：看護過程の展開	
11	小児がんの子どもと家族の看護（２）：看護過程の展開	
12	小児がんの子どもと家族の看護（３）：看護過程の展開	
13	小児がんの子どもと家族の看護（４）：看護過程の展開	
14	小児がんの子どもと家族の看護（５）	
15	小児の健康問題に応じた看護：まとめ	

３　教科書

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論　医学書院

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論　医学書院

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法：成績評価基準：課題提出(30%)、筆記試験(70%)によって評価する。

６　オフィスアワー：下記のメールに連絡いただければ、質問等は個別に日程調整いたします。

原田清美　kiyomih@koto.kpu-m.ac.jp

山口未久　m-yamagu@koto.kpu-m.ac.jp

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
小児看護援助論Ⅲ	１単位（３０時間）	必修	３年次・前期	講義

担当者	○　山口未久　　原田清美　　中口尚始

１　到達目標・授業概要・ディプロマポリシー（DP）との関連

到達目標

１）小児の身体的構造と機能的な特徴について説明できる。

２）小児の成長・発達を踏まえた小児特有の症状と看護について説明できる。

３）小児の観察・測定技術、検査や処置を受ける小児と家族の看護実践が説明できる。

授業概要：小児の身体的構造と機能的な特徴と小児特有の症状と看護を学ぶ。また、小児の観察・測定技術、検査や処置を受ける小児と家族への看護実践について、視聴覚教材を活用して講義を行う。

DPとの関連：強く関連するDP（②）、関連するDP（①・③）

２　授業内容

1	症状を示す小児の看護：（１）	【事前学習】 ・各授業開始前に、教科書を熟読しておくこと。 【事後学習】 ・各授業終了後に、配付資料を復習し、質問がある場合は、教員に質問すること。
2	症状を示す小児の看護：（２）	
3	症状を示す小児の看護：（３）	
4	症状を示す小児の看護：（４）	
5	小児のフィジカルアセスメント	
6	小児の身体の観察・測定技術	
7	小児のバイタルサインの観察・測定技術	
8	検査･治療･処置を受ける小児と家族の看護：年齢に応じた説明と同意、プレパレーション	
9	検査･治療･処置を受ける小児と家族の看護：小児の経口与薬、睡眠を必要とする検査	
10	検査･治療･処置を受ける小児と家族の看護：小児の輸液管理	
11	検査･治療･処置を受ける小児と家族の看護：採血、注射、採尿、経管栄養法	
12	検査･治療･処置を受ける小児と家族の看護：骨髄穿刺、腰椎穿刺、固定方法	
13	障がいのある子どもと家族の看護（１）	
14	障がいのある子どもと家族の看護（２）	
15	小児特有の症状と看護：まとめ	

３　教科書

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論　医学書院

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論　医学書院

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法：成績評価基準：課題(20%)、筆記試験(80%)によって評価する。

６　オフィスアワー：下記のメールに連絡いただければ、質問等は個別に日程調整いたします。

山口未久　m-yamagu@koto.kpu-m.ac.jp

原田清美　kiyomih@koto.kpu-m.ac.jp

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
小児看護学実習	３単位(135時間)	必修	３年次・後期 ４年次・前期	実習

担当者	○原田清美　　山口未久　　中口尚始

1　授業(実習)概要（教育目標・指導方法）・ディプロマポリシー（DP）との関連

＜実習目的＞

小児と家族のおかれている状況を的確に判断し、成長・発達と健康状態に応じた子どもと家族への基本的な看護実践を修得する。

＜実習目標＞

1）小児の成長・発達について理解できる。
2）疾病や障害、入院が小児と家族に与える影響について理解できる。
3）病態生理を理解し、成長・発達と健康状態に応じた看護過程の展開ができる。
4）小児看護に必要な技術が実践できる。
5）小児の安全を守るために必要な看護が実践できる。
6）保健医療チームの一員としての看護の役割を理解できる。
7）在宅移行にある小児と家族の支援について理解できる。
8）小児集中治療室（PICU）におけるケアの実際と看護師の役割について理解できる。
9）小児をひとりの人間として尊重することができる。

DPとの関連：強く関連するDP（①・②・③）

2　実習内容：実習要項参照

3　教科書：

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論　医学書院

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論　医学書院

4　参考書：山元恵子，佐々木祥子「写真でわかる小児看護技術」インターメディカ

5　評価方法・成績評価基準：参加状況、実習内容(実習態度を含む)、実習記録・課題レポートの内容から総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	学　期	授業形態
母性看護学概論	２単位（３０時間）	必修	１年次・後期	講義

担当者	○松岡知子　安田美緒

1　到達目標・授業概要．ディプロマポリシー（DP）との関連

到達目標：母性看護の対象である親と子どもおよびその家族の特徴を理解し、母性看護における看護師の役割について学習する。

授業概要：母性看護の概念，女性のライフサイクルにおける健康と看護について講義を受けて学ぶ．

DPとの関連：強く関連するDP（①），関連するDP（③，④）

2　授業内容

1	母性看護の基盤となる概念	【事前学習】 ・授業開始前 教科書，配付資料等に目を通し，授業内容の予習を行う． ・授業終了後 毎回の講義毎に，学習内容と質問などを授業評価表に記載する．
2	母性看護の現状と変遷	
3	女性のライフサイクルと家族	
4	母性看護における看護倫理	
5	妊娠の成立と看護	
6	リプロダクティブヘルス／ライツ	
7	性感染症とその予防	
8	思春期女性の健康と看護	
9	成熟期女性の健康と看護	
10	更年期女性の健康と看護	
11	フリースタイル分娩と看護	
12	子ども虐待予防	
13	助産師教育	
14	喫煙女性の健康と看護	
15	国際化社会と母性看護	

3　教科書　森　恵美他　「系統看護学講座　母性看護学概論」　医学書院

4　参考書　森　恵美他　「系統看護学講座　母性看護学各論」　医学書院
厚生統計協会　「厚生の指標　臨時増刊　国民衛生の動向」

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験，参加態度を総合して評価する．

6　オフィスアワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
母性看護援助論Ⅰ	１単位(30時間)	必修	２年次・前期	講義・演習

担当者	○前田絢子　原田幸恵　前田圭子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：妊産婦の身体的心理的社会的特徴を理解することができる。さらに、
周産期にある母子および家族への看護援助の基本を学ぶことができる。

授業概要：妊産婦の特徴を理解するために講義や演習を通して学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②③)

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション（周産期における母性看護の必要性と役割）	【準備学習】 ・授業に関連する内容が記載されている箇所を、教科書で事前に読んでおくこと。 ・各授業終了後は、自己にて復習すること。
2	出産にまつわる事象	
3	①妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴	
4	②妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴（ハイリスク）	
5	③妊娠期のアセスメント	
6	④妊娠期のアセスメントと看護ケア	
7	①分娩期の身体的・心理的・社会的特徴	
8	②分娩期の身体的・心理的・社会的特徴　（ハイリスク）	
9	③分娩期のアセスメントと看護ケア	
10	④分娩期のアセスメントと看護ケア	
11	社会からみた母性看護①（出生前診断と生殖補助医療）	
12	社会からみた母性看護②（性教育）	
13	母性看護援助論演習①	
14	母性看護援助論演習②	
15	まとめ（実習に向けてのおさらい）	

3　教科書：松本清一編『母性看護学各論』系統看護学講座　専門Ⅱ 母性看護学２　医学書院
4　参考書：資料配布します。
5　評価方法・成績評価基準：筆記試験50%　授業毎のリフレクションシート50%
6　履修条件　助産学に関する履修許可を受けた者
6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
母性看護援助論Ⅱ	１単位(30時間)	必修	２年次・前期	講義・演習

担当者	○吉岡友香子　原田幸恵　前田圭子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：1）産褥期にある母子とその家族の身体的・心理社会的特徴の理解ができる
2）産褥・育児期におけるアセスメントより必要な支援を考えられる

授業概要：産褥期にある母子とその家族の身体的・心理社会的特徴の理解，アセスメント視点と情報収集技術，母子と家族に対する看護を TBL（Team　Based　Learning）を通して理解する．

DPとの関連:強く関連するDP(①，②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション　母性看護の特徴	【準備学習】 ・授業開始前に事前学習課題を出します ・授業毎に課題を出しますので次の授業までに準備して臨んで下さい
2	新生児の生理・身体的特徴と看護1（講義・演習）	
3	新生児の生理・身体的特徴と看護2（講義・演習）	
4	新生児の生理・身体的特徴と看護3（演習）	
5	新生児の生理・身体的特徴（TBL）	
6	産褥期の身体的、心理・社会的変化と看護1（講義・演習）	
7	産褥期の身体的、心理・社会的変化と看護2（講義・演習）	
8	産褥期の身体的、心理・社会的変化と看護3（演習）	
9	産褥期の身体的、心理・社会的変化（TBL）	
10	ハイリスク褥婦のアセスメントと看護1（講義・演習）	
11	ハイリスク褥婦のアセスメントと看護2（演習）	
12	退院に向けた支援（講義・演習）1	
13	退院に向けた支援（講義・演習）2	
14	産褥期・新生児の日常生活援助（演習）	
15	まとめ	

3　教科書：森恵美他　「系統看護学講座　母性看護学各論」　医学書院
4　参考書：佐世正勝他　「ウェルネスからみた母性看護過程」　医学書院
石村由利子他「根拠と事故防止からみた母性看護技術」　医学書院
5　評価方法・成績評価基準：事前学習課題(10%)，課題レポート(90%)
6　オフィス・アワー：本授業日の9:00～17:00

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
母性看護学実習	２単位（９０時間）	必修	３年次・後期 ４年次・前期	実習

担当者	○　松岡知子　　吉岡友香子　前田絢子 原田幸恵　　前田圭子

1　授業概要（教育目標・指導方法）

妊娠・分娩・産褥・新生児期・育児期の母子およびその家族への看護実践をとおして、母性各期における対象を理解し、そのニーズに応じた看護を実践できる能力を習得する。

2　授業内容

［実習目的］

妊産褥婦・新生児およびその家族を理解し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を習得する。

［実習目標］

１．妊産褥婦、新生児の生理的・心理的・社会的特徴について理解できる。

２．妊産褥婦、新生児の看護に必要な技術が習得できる。

３．対象の個別性に応じた看護過程の展開が理解できる。

４．周産期医療・母子保健における看護職の役割が理解できる。

［行動目標、実習内容、実習の展開］

母性看護学実習要項参照

3　教科書

母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、Ⅱの授業で使用した教科書および資料

4　参考書

適宜提示

5　評価方法・成績評価基準

対象の理解および実践能力の評価および出席日数から総合的に評価する。

受持ち事例の理解・実践（技術 20%、実習記録 50%）

カンファレンス参加度 10%

実習態度（予習・復習、倫理的態度）20%

出席日数

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
老年看護学概論	2単位(30時間)	必修	2年次・前期	講義・演習

担当者	○毛利貴子　川上祐子　松尾綾子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：高齢者の定義、発達段階とその課題を理解し、加齢に伴う身体・心理・社会的変化について説明できる。高齢者を支える保健医療福祉制度と看護活動について説明できる。

授業概要：老いを生きる高齢者に焦点をあて、加齢に伴う身体・心理・社会的変化や超高齢社会の現状と保健医療福祉の動向、老年期の暮らしについて学習する。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②) 成熟と危機-発達理論と発達課題-

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション　老年看護学を学ぶ	【準備学習】 ・各講義前 指定された教科書の範囲を必ず読んで参加すること。 疑問や質問、感想は教科書に書き込んでおく。 ・演習、グループ学習 積極的に意見交換し学びを深めるよう心がける。 ・各講義後 講義前の疑問や質問が解決できなければ教員に尋ね、理解して次に進むこと。
2	加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化	
3	老年期の発達理論と発達課題	
4	ライフヒストリーインタビュー演習①グループ内発表	
5	ライフヒストリーインタビュー演習②発表資料づくり	
6	ライフヒストリーインタビュー演習③発表会	
7	数字から見る超高齢社会と高齢者の健康状態・暮らし	
8	高齢者福祉の変遷と動向	
9	介護保険制度①	
10	介護保険制度②と高齢者医療制度	
11	高齢者の権利擁護と制度　高齢者虐待と成年後見制度	
12	高齢者のリスクマネジメント	
13	老年看護の成り立ちと役割	
14	老年看護における理論・概念	
15	認知症高齢者を支える地域の支援活動（認知症サポーター講習会）	

3　教科書：北川公子,系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学,医学書院

4　参考書：鳥羽研二,系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論,医学書院

堀内ふき他編,ナーシンググラフィカ老年看護学①,メディカ出版　他随時紹介する

5　評価方法・成績評価基準：レポート（30%）定期試験（70%）にて評価する

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間。メールは随時受け付ける。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
老年看護援助論Ⅰ	１単位(30時間)	必修	２年次・後期	講義・演習

担当者	○毛利貴子　松尾綾子

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：1.高齢者の身体・精神・社会的変化について理解することができる。
2.高齢者の生活機能低下について理解することができる
3.生活機能が低下した高齢者の看護支援について学習する
4.生活機能評価の方法を理解することができる。

授業概要：高齢者における加齢や疾病等により生じた身体、精神、社会的機能低下およびそれらの変化から起こりうる生活機能低下を理解し、その再構築のための看護方法について学習する。生活機能低下を予防するための援助、自立した生活拡大のための援助を中心に、講義に沿ってさまざまな生活レベルの査定のスキルを学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②、③)

２．授業内容・準備学習

1	オリエンテーション　高齢者のヘルスアセスメント	【準備学習】 ・各授業開始前に、教科書にて予習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておく。 ・各授業終了後、教科書、配布資料を読み込み、ノートに重要な点を整理して記述しておく。次回の予習指示がある場合は、学習を進めておくこと。 ・学内演習日は、必要物品、服装、演習内容を確認すること。
2	身体の加齢変化とアセスメント	
3	生活機能を整える①動作のアセスメント	
4	〃　②転倒、廃用症候群、フレイルと看護	
5	〃　③食事・食生活のアセスメント	
6	〃　④誤嚥、低栄養と看護	
7	〃　⑤清潔のアセスメント	
8	〃　⑥褥瘡と皮膚障害の看護	
9	〃　⑦生活リズムと睡眠、コミュニケーション	
10	高齢者におけるヘルスプロモーション	
11	介護予防プログラムの作成	
12	〃　発表	
13	生活機能を整える⑧排泄のアセスメントと援助	
14	〃　⑨看護技術演習（排泄）	
15	〃　⑩　〃	

３．教科書、参考書：北川公子他　系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 医学書院 2021
堀内ふき他編 ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害 メディカ出版2021

４．評価方法：演習レポート（30%）筆記試験（70%）

５．オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間。メールは随時受け付ける。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
老年看護援助論Ⅱ	１単位（３０時間）	必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	○川上祐子　安里智洋

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：高齢者における加齢や疾病等により、生じた生活機能低下を理解できる。
高齢者のもてる力に着眼し、その人らしく生活することを支援する看護過程の展開ができる。

授業概要：高齢者の看護過程の展開をするために、必要な症状、生活機能の観点からのアセスメント方法や看護の要点などを取り上げて学習する。

DP との関連:強く関連する DP(①)、関連する DP(②、③)

２　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション、老年看護の特徴	【準備学習】 事前： 教科書の授業範囲を読み、授業に臨む。 事後： リアクションペーパー（オンラインアンケート）の提出を行う。また、各自、講義内容の復習をしておくこと。
2	老年看護における看護過程、事例の紹介	
3	高齢者の生活機能を整える看護（１） 転倒・廃用症候群・低栄養のアセスメントと看護	
4	高齢者の生活機能を整える看護（２） 転倒・廃用症候群・低栄養のアセスメントと看護：演習	
5	健康逸脱からの回復を促す看護（１）　症候のアセスメントと看護	
6	健康逸脱からの回復を促す看護（２）　身体疾患のある高齢者の看護	
7	生活・療養の場における看護　介護保険サービス	
8	看護過程の展開：演習	
9	看護過程の展開：演習	
10	健康逸脱からの回復を促す看護（３）　認知症のある高齢者の看護①	
11	健康逸脱からの回復を促す看護（４）　認知症のある高齢者の看護②	
12	看護過程の展開：演習	
13	入院治療を受ける高齢者の看護　手術、退院調整・退院支援	
14	看護過程の展開：演習	
15	まとめ	

３　教科書：北川公子ほか著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」医学書院

４　参考書：山田律子ほか編集「生活機能からみた老年看護過程」医学書院

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験（70%）、演習・レポート（30%）によって評価する。

６　オフィス・アワー：木曜日16:00～17:00、他、随時メールで予約して下さい。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
老年看護援助論Ⅲ	1単位(30時間)	必修	3年次・前期	講義・演習

担当者	○川上祐子　松尾綾子　河崎敬　垣田真理 安田友世　中田菜穂子　齋藤芳

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：老年症候群の特徴を踏まえ、入院医療やリハビリテーションを受ける高齢者の看護における留意点、エンドオブライフケアの概念と家族支援のあり方について説明できる。高齢者のリスクマネジメントの支援について説明できる。

授業概要：高齢者特有の身体的・心理的・社会的変化に必要な知識・技術について学習する。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション　老年症候群とは	【準備学習】 事前： 教科書の授業範囲を読み、授業に臨む。 事後： リアクションペーパー（オンラインアンケート）の提出を行う。また、各自、講義内容の復習をしておくこと。
2	ADL低下に合併する症候	
3	高齢者におけるリハビリテーションの特徴と実際	
4	リハビリテーションとケア(1)フレイル、サルコペニア予防	
5	リハビリテーションとケア(2)脳卒中	
6	嚥下機能障害と看護(1)	
7	嚥下機能障害と看護(2)	
8	褥瘡の予防と看護(1)	
9	褥瘡の予防と看護(2)	
10	高齢者への服薬支援-安全な薬物療法に向けて-	
11	リスクマネジメント(1)高齢者に起こりやすい医療事故とその予防	
12	リスクマネジメント(2)高齢者と災害	
13	エンドオブライフケア	
14	高齢者の家族支援	
15	人生の最終段階における入院医療と在宅医療の連携	

3　教科書：北川公子,系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学,医学書院

4　参考書：鳥羽研二,系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論,医学書院等

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験（70%）、演習・レポート（30%）によって評価する。

6　オフィス・アワー：木曜日16:00～17:00、他、随時メールで予約して下さい。

科目名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
老年看護学実習	３単位(135時間)	必修	３年次・後期 ４年次・前期	実習

担当者	○毛利貴子　川上祐子　松尾綾子　伊藤尚子

1　授業概要（教育目標・指導方法）

〔実習目的〕

1）高齢者の生活像および健康状態を理解し、加齢変化や疾病に伴う日常生活障害に焦点を当て、高齢者のＱＯＬをふまえた援助ができる。

2）入院生活によって支障をきたしている高齢者の個別性をふまえた日常生活への影響を理解し、援助ができる。

3）高齢者の暮らしを支える地域包括ケアシステムにおいて、保健・医療・福祉領域で看護職に求められる役割について考えることができる。

〔実習目標〕

1）高齢者の身体的・心理的・社会的な特徴および健康障害の状態をふまえ、日常生活の自立に向けた退院支援ができる。

2）尊厳を基盤とし、ＱＯＬ向上に向けた日常生活援助を考えて実践できる。

3）高齢者と家族の生活実態を理解し、地域で暮らし続けるために在宅復帰の援助を考えることができる。

4）脳神経内科外来を受診する高齢者の病態や治療、在宅での生活、家族の状況などを理解し、必要な援助を考えることができる。

5）介護保険サービスの事業目的並びに利用者の心身の健康状態や生活、家族の状況、利用目的などを理解し、高齢者の健康状態に応じて利用できる社会資源の理解を深めることができる。

6）高齢者の暮らしを支える保健・医療・福祉の連携について考えることができる。

2　授業内容

行動目標・実習内容・実習の展開等については、実習要項を参照すること。

3　参考書・資料等：適宜紹介

4　評価方法・成績評価基準

出席状況、実習内容（知識：事前学習含む・技術・態度）、カンファレンス参加態度から総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
在宅看護学概論 (2022年入学生)	2単位(30時間)	必修	2年次・後期	講義

担当者	伊藤尚子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：地域包括ケアシステムと法制度、社会資源について説明できる。訪問看護制度と利用者・家族の特徴、在宅看護の基盤となる概念や理論について説明できる。

授業概要：健康障害を抱えながら生活する在宅療養者と家族を対象とした看護の展開に必要な基礎知識を、社会的背景や法制度をふまえて学習する。在宅看護における退院調整と多職種連携、意思決定支援や倫理的課題について理解を深める。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(①、②)

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション	【準備学習】 ・各講義前 指定された教科書の範囲を必ず読んで参加すること。 疑問や質問、感想は教科書に書き込んでおく。 ・各講義後 講義前の疑問や質問が解決できなければ教員に尋ね、理解して次に進むこと。
2	在宅看護の対象と基盤となる概念①	
3	在宅看護の対象と基盤となる概念②	
4	在宅看護の対象と基盤となる概念③	
5	在宅看護における安全と健康危機管理	
6	訪問看護の概要①	
7	訪問看護の概要②	
8	在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	
9	療養の場の移行に伴う看護①	
10	療養の場の移行に伴う看護②	
11	在宅療養児の特徴、家族への支援	
12	小児の退院支援、退院調整	
13	家族看護に用いられる理論と支援	
14	在宅看護における権利保障と倫理的課題	
15	地域包括ケアシステムにおける多職種連携	

3　教科書：河原加代子, 1)地域・在宅看護の基礎, 2)地域・在宅看護の実践, 医学書院

4　参考書：臺有桂編, ナーシンググラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア, メディカ出版等

5　評価方法・成績評価基準：定期試験（100%）にて評価する

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間。メールは随時受け付ける。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
在宅看護論Ⅰ (2021年入学生)	1単位(30時間)	必修	2年次・後期	講義

担当者	伊藤尚子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：地域包括ケアシステムと法制度、社会資源について説明できる。訪問看護制度と利用者・家族の特徴、在宅看護の基盤となる概念や理論について説明できる。

授業概要：健康障害を抱えながら生活する在宅療養者と家族を対象とした看護の展開に必要な基礎知識を、社会的背景や法制度をふまえて学習する。在宅看護における退院調整と多職種連携、意思決定支援や倫理的課題について理解を深める。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(①、②)

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション	【準備学習】 ・各講義前 指定された教科書の範囲を必ず読んで参加すること。 疑問や質問、感想は教科書に書き込んでおく。 ・各講義後 講義前の疑問や質問が解決できなければ教員に尋ね、理解して次に進むこと。
2	在宅看護の対象と基盤となる概念①	
3	在宅看護の対象と基盤となる概念②	
4	在宅看護の対象と基盤となる概念③	
5	在宅看護における安全と健康危機管理	
6	訪問看護の概要①	
7	訪問看護の概要②	
8	在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	
9	療養の場の移行に伴う看護①	
10	療養の場の移行に伴う看護②	
11	在宅療養児の特徴、家族への支援	
12	小児の退院支援、退院調整	
13	家族看護に用いられる理論と支援	
14	在宅看護における権利保障と倫理的課題	
15	地域包括ケアシステムにおける多職種連携	

3　教科書：河原加代子, 1)地域・在宅看護の基礎, 2)地域・在宅看護の実践, 医学書院

4　参考書：臺有桂編, ナーシンググラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア, メディカ出版等

5　評価方法・成績評価基準：定期試験（100%）にて評価する

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間。メールは随時受け付ける。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
在宅看護論Ⅱ	１単位(30時間)	必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	伊藤尚子

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：在宅看護で必要な療養者・家族への援助技術について、目的や方法、留意点など説明することができる。事例展開を通して、在宅看護の実践に必要とされる基本的な看護展開のプロセスを理解できる。

授業概要：在宅看護における生活ケアと医療ケアについて、講義と演習により学習する。紙上事例を用いて看護過程の展開を行い、グループワークで理解を深め発表会にて共有する。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①、③)

２　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション	【準備学習】 ・各講義開始前 看護技術の動画（事前に指定）を視聴して講義に臨む。 ・各講義終了後 Nursing Skillを参照し指定された看護技術のレポートを作成する。
2	在宅療養が必要となる疾患の理解 ～筋萎縮性側索硬化症の病態生理と看護～	
3	在宅看護技術（生活ケア）食生活の援助	
4	在宅看護技術（医療ケア）栄養管理と援助	
5	在宅看護技術（生活ケア）排泄の援助	
6	在宅看護技術（医療ケア）排尿ケアとストーマ管理	
7	在宅看護技術（生活ケア）清潔と移動の援助	
8	在宅看護技術（医療ケア）呼吸に関する援助①	
9	看護過程の展開 ①	
10	看護過程の展開 ②	
11	看護過程の展開 ③	
12	看護過程の展開 ④	
13	在宅看護技術（医療ケア）呼吸に関する援助②	
14	在宅看護技術（医療ケア）呼吸に関する援助③	
15	まとめ～在宅における看護実践～	

３　教科書：河原加代子、系統看護学講座　統合分野　在宅看護論、医学書院

４　参考書：臺有桂編、ナーシンググラフィカ在宅看護論②地域療養を支える技術、メディカ出版

５　評価方法・成績評価基準：看護技術レポート（30%）、看護過程の展開（30%）、学内演習レポート（20%）、各回小レポート（20%）

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
在宅看護実習	1単位(45時間)	必修	3年次・後期 4年次・前期	実習

担当者	○伊藤尚子　毛利貴子　川上祐子　松尾綾子他

１　授業概要（教育目標・指導方法）

１）実習目的

訪問看護を通して在宅療養者とその家族の健康問題を理解し、生活の場における看護の実際を学ぶ。

２）実習目標

(1) 在宅療養者と家族を対象に看護過程を展開し、生活と環境を踏まえたアセスメントとケアの立案ができる。

(2) 在宅療養者と家族が在宅療養を継続するための法令・制度と社会資源を理解できる。

(3) 在宅ケアにおける訪問看護の機能と多職種連携における看護職の役割を理解できる。

２　授業内容

実習要項参照

３　教科書

・河原加代子,系統看護学講座 統合分野 在宅看護論,医学書院

・北川公子,系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学,医学書院

・鳥羽研二,系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論,医学書院

・臺有桂編,ナーシンググラフィカ在宅看護論①②,メディカ出版

他適宜紹介する。

４　評価方法・成績評価基準：実習要項に添付の評価項目に沿って総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
地域看護学概論	２単位（３０時間）	必修	２年次・前期	講義

担当者	○志澤美保

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：地域看護・公衆衛生看護の成立過程や歴史をふまえ、地域看護学（公衆衛生看護学）の対象である地域で生活する人々の健康問題の解決や地域の健康課題に対する組織的な解決方法など、地域看護学の概念について理解する。
地域看護活動の対象や活動、および地域看護学（公衆衛生看護学）の特徴である　個人、家族、集団、地域を対象にした支援について理解する。

授業概要：地域看護の概念、健康の定義、対象に応じた活動と展開方法、公衆衛生における制度と政策について講義を受けて学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②、③、④)

2　授業内容・準備学習

1	地域看護学の理念、目的	【準備学習】 ・各授業開始前： 前回授業の教科書やプリント等を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後： 毎回の授業毎に、学習内容を講義ノートに整理し、予習指示に従って学習を進めておくこと。
2	地域看護学の歴史と健康課題の変遷（１）	
3	地域看護学の歴史と健康課題の変遷（２）	
4	地域看護活動の場と対象（１）－個人、家族－	
5	地域看護活動の場と対象（２）－集団、地域－	
6	地域看護活動の場と対象（３）－学校－	
7	地域看護活動の場と対象（４）－産業－	
8	地域看護学に活用される基本概念とその活用（１）	
9	地域看護学に活用される基本概念とその活用（２）	
10	地域看護学に活用される基本概念とその活用（３）	
11	地域看護学に活用される基本概念とその活用（４）	
12	地域看護活動の方法（１）	
13	地域看護活動の方法（２）	
14	地域看護活動の方法（３）	
15	まとめ	

3　教科書：標 美奈子 他：標準保健師講座１ 公衆衛生看護学概論　第６版 医学書院　2022
4　参考書：授業で随時、適宜提示する。
5　評価方法・成績評価基準：筆記試験（80%）及びミニレポート等（20%）により総合的に評価する。
6　オフィス・アワー：昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
健康教育論 (2022年入学生)	2単位(30時間)	必修	2年次・後期	講義・演習

担当者	○　　村上佳栄子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：健康レベルの向上を図る上で健康教育の果たす役割と意義、展開方法を理解する。

教育的対応の原則をふまえ、健康教育の方法論と基本的な技術を習得する。

授業概要：健康教育に関する理論や教育媒体について講義を受けて学ぶ。

演習により健康教育の企画書・指導案・媒体案を作成し、発表する。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①、③)

2　授業内容・準備学習

1	ガイダンス、健康教育の理念、グループワーク事例紹介	【準備学習】 ・各授業開始前： 前回授業の教科書やプリント等を復習しておき、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。また、円滑なグループワークの実施に向けて、自身の考えを整理しておくこと。 ・各授業終了後： 毎回の授業毎に、学習内容を振り返る授業ノートを作成し、予習指示に従って学習を進めておくこと。また、グループワークの成果物については、メンバー全員で共有しておくこと。
2	保健行動とは、健康教育の理論（1）	
3	健康教育の理論（2）	
4	健康教育の理論（3）	
5	健康教育の企画書とは(目的目標）、グループ演習(1)	
6	健康教育の企画書とは(評価計画)、グループ演習(2)	
7	健康教育の指導案とは①、健康教育のアプローチ	
8	グループ演習(3)	
9	健康教育の指導案とは②、健康教育の方法と媒体	
10	グループ演習(4)	
11	グループ演習(5)	
12	健康教育のシナリオ案、媒体案とは	
13	グループ演習(6)	
14	グループ発表①	
15	グループ発表②、まとめ	

3　教科書：宮坂忠夫他編著　「最新保健学講座別巻１　健康教育論」　メヂカルフレンド社

4　参考書：授業中に適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：個人レポート(60%)、演習・ミニレポート他(40%)等を総合的に評価する。

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
健康教育論 (2021年入学生)	1単位(30時間)	必修	2年次・後期	講義・演習

担当者	○　　村上佳栄子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：健康レベルの向上を図る上で健康教育の果たす役割と意義、展開方法を理解する。

教育的対応の原則をふまえ、健康教育の方法論と基本的な技術を習得する。

授業概要：健康教育に関する理論や教育媒体について講義を受けて学ぶ。

演習により健康教育の企画書・指導案・媒体案を作成し、発表する。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①、③)

2　授業内容・準備学習

1	ガイダンス、健康教育の理念、グループワーク事例紹介	【準備学習】 ・各授業開始前： 前回授業の教科書やプリント等を復習しておき、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。また、円滑なグループワークの実施に向けて、自身の考えを整理しておくこと。 ・各授業終了後： 毎回の授業毎に、学習内容を振り返る授業ノートを作成し、予習指示に従って学習を進めておくこと。また、グループワークの成果物については、メンバー全員で共有しておくこと。
2	保健行動とは、健康教育の理論（1）	
3	健康教育の理論（2）	
4	健康教育の理論（3）	
5	健康教育の企画書とは(目的目標）、グループ演習(1)	
6	健康教育の企画書とは(評価計画)、グループ演習(2)	
7	健康教育の指導案とは①、健康教育のアプローチ	
8	グループ演習(3)	
9	健康教育の指導案とは②、健康教育の方法と媒体	
10	グループ演習(4)	
11	グループ演習(5)	
12	健康教育のシナリオ案、媒体案とは	
13	グループ演習(6)	
14	グループ発表①	
15	グループ発表②、まとめ	

3　教科書：宮坂忠夫他編著　「最新保健学講座別巻１　健康教育論」　メヂカルフレンド社

4　参考書：授業中に適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：個人レポート(60%)、演習・ミニレポート他(40%)等を総合的に評価する。

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
研究方法論Ⅰ	1単位(30時間)	必修	3年次・前期	講義・演習

担当者	○伊藤尚子　毛利貴子　林容子 吉岡さおり　占部美恵

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護研究の意義、研究の手法およびそのプロセスについて基礎的知識を学ぶ。また、文献の批判的吟味について学ぶとともに、実際に研究計画立案を体験することにより、研究デザインの重要性を学び、看護研究への関心を高める。

授業概要：講義、文献抄読、図書館司書による二次資料を用いた文献検索演習、グループワーク等を通じ、研究の問いの見つけ方、研究のプロセスを学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①)

2　授業内容・準備学習

1	看護研究の意義と動向　（伊藤）	・【準備学習】 各授業開始前、配布資料等に目を通し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。また、次回の予習指示にしたがって、学習を進めておくこと。 ・【授業終了後】 講義内容に該当する教科書を精読し、講義資料に重要点を書き込んでおくこと。
2	看護研究のプロセスと研究論文の構成　（伊藤）	
3	研究における倫理的配慮　（毛利）	
4	文献検索の方法　（伊藤）	
5	研究課題と文献検索（演習）（図書館司書）	
6	研究デザイン① 量的研究と質的研究の特徴（吉岡）	
7	研究デザイン② 調査研究と実験研究（毛利）	
8	研究デザイン③ 事例研究と質的記述的研究（林）	
9	文献のクリティーク（占部）	個人ワークで提示された文献クリティークを行う。
10	文献クリティーク（演習）	
11	研究計画の立案　（伊藤）	・【準備学習】 研究計画における自便の考えをまとめた上でグループワークに参加すること。 ・グループで研究計画を立案し、発表する。
12・13	研究計画の立案（演習）	
14・15	研究計画の発表	

3　教科書：坂下玲子，宮芝智子，小野博史：系統看護学講座 別巻 看護研究，医学書院.

4　参考書：南裕子：看護における研究，日本看護協会出版会.
小笠原知枝・松木光子 編：これからの看護研究 - 基礎と応用 第3版，ヌーヴェルヒロカワ.

5　評価方法・成績評価基準：研究計画書（グループワーク）40%、個人ワーク 60%

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
研究方法論Ⅱ	1単位（30時間）	必修	4年次前期	演習

担当者	看護学科専任教員

1．到達目標・授業概要・デイプロマ・ポリシー（DP）との関連

到達目標：看護を科学的に探究することを目的として、自らの関心に従い看護研究のテーマを設定することができるとともに研究計画書を作成することができる。

授業概要:文献検索並びに文献検討の方法、研究テーマ設定と研究計画立案の方法について学ぶ。

DP との関連：強く関連する DP(②)、関連する DP（①、③、④）

2．授業内容・準備学習

1	授業オリエンテーション
2 ～ 15	各担当教員の指導のもと文献検討や研究計画立案のプロセスを学ぶ。 （授業日程の詳細及び準備学習については担当教員から別途指示がある。）

3．教科書

担当教員から提示される。

4．参考書

担当教員から適宜提示される。

5．評価方法・成績評価基準

授業への取り組み姿勢、研究計画書の内容により評価を行う。

6．オフィス・アワー

担当教員から提示される。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
研究方法論Ⅲ	2単位（60時間）	必修	4年次後期	演習

担当者	看護学科専任教員

1．到達目標・授業概要・デイプロマ・ポリシー（DP）との関連

到達目標：自らの研究テーマにそって、研究を計画的に実施し、その成果を卒業研究論文としてまとめ、発表することができる。

授業概要：卒業研究論文作成のプロセスを通して、看護研究を行う基礎的能力を養う。

DP との関連：強く関連する DP(②)、関連する DP（①、③、④）

2．授業内容・準備学習

1～27	各担当教員の指導を受ける。 各自のテーマ・研究計画に沿って研究を進める。 卒業研究論文を作成する。	準備学習については、担当教員から別途指示がある。
28～30	卒業研究論文発表会でプレゼンテーションを行う。	

1）学習日程等の詳細は担当教員が別途指示する。

2）各自の研究テーマに沿った論文を作成し、発表する。

論文形式：A4 サイズの用紙、ワープロを使用。
記載方法は、本学紀要の規定に準拠する。
表紙には「2023 年度卒業論文、卒業研究論文タイトル、学籍番号、氏名、指導教員名」を記す。

提出方法：提出期限　2023 年 12 月 1 日(金)　午後 5 時(時間厳守)
提出先　　担当教員
提出部数　1 部

3）卒業研究論文発表会

2023 年 12 月 18 日（月）、19 日（火）、20 日（水）　　詳細は、別途説明・掲示する。

4）研究の倫理と対象の権利保護について理解を深める。

研究倫理に関する e-1eaning（APRIN e ラーニングプログラム（eAPRIN)など）を受けることが望ましい。詳細は指導教員の指示をうける。

3．教科書・参考書：担当教員により提示される。

4．評価方法・成績評価基準

期日内の論文の提出と発表会への参加をもって合格とする。

評価は授業への取り組み姿勢、卒業研究論文および発表会の内容により行う。

5．オフィス・アワー：担当教員から提示される。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護マネジメント論	1単位(15時間)	必修	3年次・前期	講義

担当者	吾妻知美、○郷良淳子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：医療チームの一員さらに看護専門職として、質の高い看護サービスを効果的に提供するためのしくみや管理について学ぶ。看護マネジメントの変遷及び諸理論と看護実践とのつながり、専門職業人として組織における望ましい行動のあり方、自己管理の方法を理解する看護サービスを維持、管理するための理論を理解する。

授業概要：看護マネジメントの変遷、看護マネジメントの要素とプロセス、組織行動理論、キャリア開発、ストレスマネジメント、チーム医療と他職種連携、授業は講義方式で行う。

DPとの関連:強く関連するDP(②③)、関連するDP(④)

2　授業内容・準備学習

1	看護マネジメントの歴史とナイチンゲールの影響	【準備学習】 ・各授業開始前 教科書・プリント等を復習し、疑問点がある場合は質問の準備をしておくこと。 ・各授業終了後 小レポートを毎回提出する。
2	看護マネジメントの要素とプロセス	
3	日本と世界の医療制度と看護サービス	
4	組織行動論と看護（リーダーシップ、メンバーシップ、組織文化）	
5	人的資源管理と自己管理の理論	
6	業務管理と交替制勤務	
7	医療チームと多職種連携のマネジメント	
8	看護管理の展望	

3　教科書：上泉和子（2018）系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践１　看護管理、医学書院

4　参考書：授業時に紹介する

5　評価方法・成績評価基準：授業毎の小レポート（50%)、授業後の最終レポート(50%)によって評価する。

6　オフィス・アワー：本授業後

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
国際看護･国際保健	１単位（１５時間）	必修	３年次・前期	講義 （第５講義室）

担当者	常田裕子　黒瀧安紀子　マルティネス真喜子

１　授業概要（教育目標・指導方法）

国際看護・国際保健の主要概念を学び、諸外国の保健医療の現状と人々の健康について理解する。

また、看護職の国内外での活動の事例を通して学び、異文化看護の視点から人々の生活へのより深い理解に立ち、看護の役割について考える。

２　授業内容

4/7 4限	世界の健康問題の現状①	マルティネス
4/7　5限	世界の健康問題の現状②	マルティネス
5/12 4限	Sustainable Development Goals：SDGs	黒瀧
5/12 5 限	国際救援活動における看護	黒瀧
6/21 4限	グローバルヘルス	常田
6/21 5限	リプロダクティブヘルス/ライツ	常田
7/14　4限	開発途上国での看護活動　　青年海外協力隊	マルティネス
7/14　5限	日本における外国人看護	マルティネス

３　教科書：（後日提示）

４　参考書：講義時に適宜紹介する

５　評価方法・成績評価基準：筆記試験（１００％）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
国際看護英語	１単位（１５時間）	選択	４年次・後期	演習

担当者	小久保　有美

１　授業概要（教育目標・指導方法）

グローバルな人材として、仕事で、研究で、また留学先で、英語を使って活躍するために自分の意見を明確に言うための発言力を養成します。看護に関する記事や読み物を英語で読み、それを元にして英語でのプレゼンテーションやディスカッション力を高め英会話力を習得しましょう。また、非言語的な要素においても異文化対応能力を高めて、幅広い英語コミュニケーション力を身につけましょう。

２　授業内容

1	オリエンテーション
2	プレゼンテーション準備
3	英語プレゼンテーション実践
4	看護に関する英語の記事・ディベート準備
5	英語でディベート（1）
6	看護に関する英語の記事・ディベート準備
7	英語でディベート（2）

３　教科書：ハンドアウト配布

４　参考書：授業時に説明します。

５　評価方法：平常点（積極的な授業参加・発表など）、小テスト、レポート。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護教育論	１単位(15時間)	選択	４年次・後期	講義・演習

担当者	○滝下幸栄　　越智幾世

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護を取り巻く社会の動向から看護教育の過去・現在・未来を見つめ、看護教育の現状と課題を理解する。これからの看護教育の方向について考える。

授業概要：看護教育とは、看護教育制度、看護基礎教育のカリキュラム、看護継続教育の実際等の学習を通して、看護教育の今後を検討する。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(②)

２　授業内容・準備学習

1	看護教育とは、看護と社会、看護教育の歴史	【準備学習】 ・授業開始前 配布プリントに目を通し、授業内容の予習を行う。 ・授業終了後 毎回の講義ごとに、授業評価表を記載し、学習内容と質問等を記載する。また、次回の予習指示に従って学習を進めておくこと。
2	看護教育制度とカリキュラム	
3	看護教育の方法と基盤となる学習理論	
4	看護と専門性、多職種連携教育	
5	看護継続教育の実際（越智）	
6	看護教育を考えるその１（演習）	
7	看護教育を考えるその２（発表）	

３　教科書：なし

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法・成績評価基準：演習記録・レポート

６　オフィス・アワー：毎週水曜日　16:00～18:00（滝下）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護倫理	１単位(15時間)	選択・後期	４年次・後期	講義・演習

担当者	

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護実践に必要な倫理学、生命倫理、看護倫理の基本的概念および、看護専門職者としての社会的・倫理的責任や倫理的意思決定のための具体的方法について理解する。さらに看護におけるケアリングの意味、日本文化に根ざした看護倫理とは何かについて考える。この授業を通して、倫理的感受性や倫理的態度を身につけ看護専門職者として看護実践するための礎を築くことを目指す。

授業概要：生命倫理と医療倫理、看護倫理、看護職の倫理綱領、倫理的意思決定、症例検討シート。授業は講義およびグループワークによる演習で行う。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②③④)

２　授業内容・準備学習

1	生命倫理と医療倫理	【準備学習】 ・各授業開始前 教科書･プリント等を復習し､疑問点がある場合は質問の準備をしておくこと。 ・各授業終了後 小レポートを毎回提出する。
2	看護倫理と看護職の倫理綱領	
3	事例から生命倫理について考える演習①	
4	事例から生命倫理について考える演習②	
5	倫理的意思決定のための具体的方法	
6	事例から倫理的意思決定のための具体的方法を考える演習①	
7	事例から倫理的意思決定のための具体的方法を考える演習②	
8	よい看護、よい看護師とは	

３　教科書：宮坂道夫（2018）系統看護学講座　別巻　看護倫理、医学書院

４　参考書：授業時に紹介する

５　評価方法・成績評価基準：授業毎の小レポート（30%）、授業後の最終レポート(40%)、演習記録（30%）によって評価する。

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
災害看護論	１単位(15時間)	必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	○滝下幸栄　　山田英子　上内聡子

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：災害および災害看護についての基礎的知識を学ぶ。また、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、災害サイクル各期における看護の果たす役割について理解を深めることができる。

授業概要：災害看護実践者による講義、災害看護シミュレーション学習などを通じて、主体的な学習を促す。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(④)

２　授業内容・準備学習

1	災害看護概論①：災害の種類と特徴、災害看護の概念と歴史、災害サイクル	【準備学習】 ・授業開始前 教科書、配布プリント等に目を通し、授業内容の予習を行う。 ・授業終了後 毎回の講義ごとに、授業評価表を記載し、学習内容と質問等を記載する。また、次回の予習指示に従って学習を進めておくこと。
2	災害看護概論②：災害時要援護者への対応、災害医療・看護に関する法律と制度	
3	災害看護各論①：初動期（超急性期・急性期）の看護活動	
4	災害看護各論②：初動期（超急性期・急性期）の看護活動（演習）	
5	災害看護各論③：中長期（亜急性期・復旧復興期）の看護活動	
6	災害看護各論④：災害時における健康危機管理、他職種の連携	
7	災害時支援机上シミュレーション（演習）①	
8	災害時支援机上シミュレーション（演習）②	

３　教科書：小井土雄一　石井美恵子編：新体系　看護学全書　看護の統合と実践②災害看護学　メヂカルフレンド社

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法・成績評価基準：レポート

６　オフィス・アワー：毎週水曜日　16:00～18:00（滝下）

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
地域精神看護論	1単位(15時間)	看護：選択 保健：必修 助産：選択	3年次・前期	講義・演習

担当者	郷良　淳子

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：精神障害者が地域で生活するために必要な理論を踏まえ、長期入院患者の退院の課題、再入院の課題、地域で生活するために必要な保健医療福祉資源の種類と活用について説明できる。
さらに精神障害者の社会参加について自身の考えを持ち説明できる。

授業概要：地域精神保健と看護に必要な理論であるリカバリとストレングスを踏まえ、精神障害者の地域生活支援の在り方を、いくつかの課題を踏まえて学ぶ。これまで学んだ精神看護学の授業の学びを発展させ、自身の精神障害者の社会参加についての考え方を明確にする。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②③)

２　授業内容・準備学習

1	地域精神看護概説　ストレングスとリカバリ 多職種連携と当事者支援	【準備学習】 ・各授業開始前 これまでの教科書や配布資料等を読み、分からない用語、概念は調べておくこと、疑問点も整理して授業中に質問できるよう準備しておくこと。 ・各授業終了後 毎回の講義ごとに、授業で示されたポイントを自分で説明できるようにしておくこと。
2	地域精神保健と長期入院患者の退院促進	
3	地域精神保健と再発予防のための支援	
4	精神障害者の社会参加：就労支援	
5	精神障害者の家族の支援	
6	地域で生活する当事者との交流から社会参加を考える	
7	地域精神看護における看護職のストレスマネジメント	
8	まとめ	

３　教科書：特に指定しない
これまでの精神看護学の授業の資料を参照。

４　参考書：授業中に提示する

５　評価方法・成績評価基準：レポート60%　リアクションペーパー40%

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
発達援助論	１単位（１５時間）	選択	４年次・後期	演習

担当者	原田清美

１　到達目標・授業概要・ディプロマポリシー（DP）との関連

到達目標

１）子どものプレパレーションの意義について説明できる。
２）事例の子どもの成長・発達に合わせたプレパレーションの目標が設定できる。
３）事例の子どもに合わせたプレパレーションの展開方法を考えることができる。
４）事例の子どもに合わせたプレパレーションツールを作成できる。
５）子どもの事例に合わせたプレパレーションが実践し、評価できる。

授業概要：子どもの成長・発達（身体的機能、認知機能、情緒・社会性）を理解し、
成長・発達に応じた子どもプレパレーションの展開方法について探求する。

DPとの関連：強く関連するDP（①）、関連するDP（②、③）

２　授業内容

1	（演習１）演習の進め方、グループの決定、テーマ・対象の決定	【事前学習】 ・各授業開始前に、小児の発達段階別の特徴を復習しておくこと。 【事後学習】 ・各授業終了後に、グループワークした内容を深め、質問がある場合は、教員に質問すること。
2	（演習２）事例の検討・指導案の作成	
3	（演習３）指導案の作成	
4	（演習４）教材の作成	
5	（演習５）教材の作成	
6	（演習６）教材の作成	
7	（演習７）発表の準備	
8	（演習８）成果発表、まとめ	

３　教科書

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論　医学書院

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論　医学書院

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法：成績評価基準：演習のグループ課題（20%）と課題（80%）によって評価する。

６　オフィスアワー：下記のメールに連絡いただければ、質問等は個別に日程調整いたします。

原田清美　　kiyomih@koto.kpu-m.ac.jp

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
高齢者健康論	1単位(15時間)	選択	４年次・後期	講義・演習

担当者	○毛利貴子　フルイミエコ

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：１．高齢者にとっての健康生活とは何かを考えることができる。
２．介護予防を目的とするエクササイズを体験し、健康寿命延伸に向けた取り組みを理解することができる。
３．認知症高齢者とその家族のためのセラピー（臨床美術）を体験し、看護支援のあり方を考えることができる。
４．介護予防プログラムの作成・実施・評価を行い、地域で暮らす高齢者への健康支援を学ぶ。

授業概要：高齢者が明るく充実した生活を送るためにどのような看護支援が必要か、現在展開されている理論やエビデンスを検証しながら、高齢者の健康について学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(①②)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション、高齢者のヘルスプロモーション	【準備学習】 ・各授業終了後、配布資料を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・演習に必要な物品や実施場所など事前に理解しておく。
2	認知症高齢者とその家族のためのセラピー：臨床美術	
3	〃	
4	介護予防のアクティビティ：スクエアステップ	
5	〃	
6	介護予防プログラムの作成	
7	〃　　実施	
8	プログラムの評価と考察、まとめ	

３　教科書：特に指定はない。授業資料は当日配布する。

４　参考書：特に指定はない。

５　評価方法・成績評価基準：学びのレポートで評価する。

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護の統合と実践Ⅰ （演習）	１単位(30時間)	選択	４年次・後期	講義・演習

担当者	○林容子、吉岡さおり、滝下幸栄、原田清美、室田昌子、毛利貴子、占部美恵、 川上祐子、佐伯良子、山本容子、筒井佳澄、福田弘子、山口未久、山田親代、 山本裕子、松尾綾子、山内聡子、太田凡、畑中祐也、菅原浩樹、 附属病院教育インストラクター

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：既習の知識・技術を統合し、対象の状態に応じた看護実践能力、看護師としての責務、倫理的判断、ケアリングを基本とした援助関係形成能力、臨床判断能力、リスクマネジメント能力など、臨床現場における実践的知識・技術を習得する。

授業概要：初回授業、最終授業にグループワークを行い、求められる看護実践能力についてグループで検討する。ワークブックに沿って e-learning を活用し、自己学習、演習を進める。演習では、事例に基づく実践的な看護援助について学習し、附属病院の教育インストラクター等が演習指導を担当する。総合評価として客観的臨床能力試験（OSCE）を取り入れる。

DPとの関連:強く関連するDP(①②③)

２　授業内容・準備学習

１・２	①オリエンテーション ・ポートフォリオ作成について ・看護職者の基本姿勢 ②グループワーク「私たちの目指す看護実践能力」	・【準備学習】 授業初日に配布説明するワークブックに沿って事前学習し、演習に参加する。演習を通して気づいた点や受けたアドバイスを参考に、ワークブックに記載し、ポートフォリオを完成させる。 自己学習には、E-learning を活用する。
３・４	臨床事例から看護を考えるⅠ： 肺炎患者の看護、糖尿病患者の看護	
５・６	臨床事例から看護を考えるⅡ： 肺炎患者の看護、糖尿病患者の看護	
７・８	救急場面における臨床判断と看護の役割を理解する	
９・10	臨床事例から看護を考えるⅢ：狭心症発作時の看護	
11～13	ＭＥ機器の理論と操作を理解する(学内：臨床工学士)	
14	看護実践能力評価と課題の確認：ＯＳＣＥ	
15	ＯＳＣＥの振り返りとまとめ 看護実践能力と自己の課題のまとめ	

３　教科書：授業内で適宜紹介する

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法・成績評価基準：ワークブックによる事前学習と修正40%、レポート10%、実技試験（OSCE）50%

６　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護の統合と実践Ⅱ（実習） （2021年入学生）	２単位（９０時間）	必修	３年～４年次・ 後期	実習

担当者	看護学科教員

ねらい：
　看護に関する学習内容を統合し、看護実践の基礎となる看護マネジメントの実際を理解する。さらに、各自の関心領域での実践を通して、住民の生活に即した保健・医療・福祉に関わる他機関や他職種者との連携と看護職者の役割を考える。

対象学生：
Ａ．看護師コース（看護師選択学生 57 名）
Ｂ．保健師コース（保健師選択学生 20 名）
Ｃ．助産師コース（助産師選択学生８名）

Ａ．看護師コース（看護師選択学生 57 名）
１　授業概要
　本実習は、看護基礎教育の集大成として、看護における総合的な実践能力を高めるために、地域で生活する様々な住民の健康課題と看護職のはたす役割を考えることをねらいとする。

２　実習内容
　詳細は、実習要項を参照すること。

３　評価方法・成績評価基準
　実習内容、事前学習、事後学習、課題レポートなどから総合的に評価する。

Ｂ．保健師コース（保健師選択学生 20 名）
１　授業概要（教育目標）
　地域で生活する住民の暮らしや、健康課題と対象地域の住民の生活習慣や健康行動との関連について考え、保健師としての役割を理解しケアを実践する。地域における住民組織、他機関や他職種者との連携の現場に参加し、協働の必要性について考える。

２　実習内容
　実施場所は、K 住民福祉協議会（京都市上京区）による住民組織の健康に関する活動や、A 自治会（京都市東山区）等と連携した健康な街づくり活動における健康相談や健康教育等の実践を中心に実施する。詳細は、実習要項を参照すること。

３　評価方法・成績評価基準
　実習内容、記録、レポートより総合的に評価する。

Ｃ．助産師コース（助産師選択学生８名）
１　授業概要（教育目標・指導方法）
　地域における母子およびその家族の健康問題を総合的に把握し、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期における助産師と医師の役割，緊急時の助産師と医師・嘱託医療機関、他職種との連携について理解できる。また、病院におけるチーム医療に必要な助産業務管理について理解できる。

２　授業内容
　詳細は、実習要項を参照すること。

３　評価方法・成績評価基準
　実習内容、記録、レポートより総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
看護の統合と実践Ⅱ（実習） 2020年入学生	２単位（９０時間）	必修	３年～４年次・ 後期	実習

担当者	看護学科教員

ねらい：
　看護に関するこれまでの学習内容を統合するために、地域で生活する様々な住民の健康課題および住民の生活に即した保健・医療・福祉に関わる他機関や他職種者との連携と看護職者の役割を考える。

対象学生：
Ａ．看護師コース（看護師選択学生 57 名）
Ｂ．保健師コース（保健師選択学生 20 名）
Ｃ．助産師コース（助産師選択学生 8 名）

Ａ．看護師コース（看護師選択学生 57 名）
１　授業概要（教育目標）
　本実習は、看護基礎教育の集大成として、看護における総合的な実践能力を高めるために、地域で生活する様々な住民の健康課題理解し（北部滞在実習）、チーム医療と他職種連携および地域で生活する様々な対象者に対する看護師の果たす役割を考える（領域別統合実習）ことをねらいとする。

２　実習内容
　詳細は、実習要項を参照すること。

３　評価方法・成績評価基準
実習内容、事前学習、事後学習、課題レポートなどから総合的に評価する。

Ｂ．保健師コース（保健師選択学生 20 名）
１　授業概要（教育目標）
　地域で生活する住民の暮らしや、健康課題と対象地域の住民の生活習慣や健康行動との関連について考え、保健師としての役割を理解しケアを実践する。地域における住民組織、他機関や他職種者との連携の現場に参加し、協働の必要性について考える。

２　実習内容
　実施場所は、K 住民福祉協議会（京都市上京区）による住民組織の健康に関する活動や、A 自治会（京都市東山区）等と連携した健康な街づくり活動における健康相談や健康教育等の実践を中心に実施する。詳細は、実習要項を参照すること。

３　評価方法・成績評価基準
　実習内容、記録、レポートより総合的に評価する。

Ｃ．助産師コース（助産師選択学生 8 名）
１　授業概要（教育目標・指導方法）
　地域における母子およびその家族の健康問題を総合的に把握し、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期における助産師と医師の役割，緊急時の助産師と医師・嘱託医療機関、他職種との連携について理解できる。また、病院におけるチーム医療に必要な助産業務管理について理解できる。

２　授業内容
　詳細は、実習要項を参照すること。

３　評価方法・成績評価基準
　実習内容、記録、レポートより総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
公衆衛生看護行政論	１単位(15時間)	選択	3年次・前期	講義

担当者	○志澤美保　　池田裕子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：医療、保健及び地域施策の視点から、地域社会の健康を高める支援の必要性と地域保健管理について、施策と事業評価の必要性について理解する。

授業概要：地域における公衆衛生、医療施策と組織について講義で学ぶ。
地域健康管理についてその概念と専門職種の役割について学ぶ。
地域の人々と社会資源のマネジメント、事業評価について学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(①、②)

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション　保健医療福祉行政の目標と理念	【準備学習】 ・各授業開始前： 前回授業の教科書やプリント等を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後： 毎回の授業毎に、学習内容を講義ノートに整理し、予習指示に従って学習を進めておくこと。
2	地域保健の機能と公衆衛生行政の計画と評価	
3	地域看護管理　情報管理と組織運営管理	
4	地域看護管理　業務管理と予算管理	
5	地域看護管理　健康危機管理　（災害、感染症　他）	
6	保健所・市町村組織と公衆衛生看護活動	
7	地域ケアの質の保証	
8	まとめ	

3　教科書：特に指定しない。授業時に資料を配布する

4　参考書：適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験（80%）と講義内でのミニレポートなど（20%）により総合的に判断する。

6　オフィス・アワー：講義日の昼休み

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
家族相談援助論	1単位(15時間)	看護：選択 保健：必修 助産：必修	3年次・前期	講義

担当者	村上佳栄子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：看護における家族のとらえ方について学習する。
家族を単位とした援助の基本と重要性を理解し、その援助方法を学習する。
地域看護活動における家庭訪問の意義と展開方法を学習する。

授業概要：家族の概念、家族アセスメント、家族支援のあり方、看護記録の展開方法について講義を受けて学習し、家族を単位とした看護計画の立案ができる。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	ガイダンス、看護学における「家族」の概念、家族の健康	【準備学習】 ・各授業開始前 教科書・講義資料等を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後 毎回の講義ごとに、A4サイズ用紙一枚程度に授業内容を整理して書いておくこと。また、次回の予習指示にしたがって、学習を進めておくこと。
2	家族アセスメントの視点・内容、および留意点	
3	家族を単位とした看護の展開	
4	家族支援の方法：家庭訪問の目的と計画立案	
5	家族支援の展開（1）	
6	家族支援の展開（2）	
7	家族支援の展開（3）看護記録の目的と記録方法	
8	家族支援の展開（4）家族を単位とした看護計画の立案・まとめ	

3　教科書：鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子著「家族看護学　理論と実践　第５版」
日本看護協会出版会

4　参考書：上別府圭子他著「系統看護学講座　家族看護学」医学書院
その他、授業中に適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験(60%)、レポート試験(30%)、学習態度(10%)等を総合的に評価する。

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
地域看護活動論Ⅰ	1単位(15時間)	看護：選択 保健：必修 助産：選択	3年次・前期	講　義

担当者	○志澤美保　　細川陸也

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：地域住民の健康を守るために必要な保健師の援助技術について説明できる。
ライフステージごとの健康課題や支援体系について説明できる。

授業概要：地域で生活する人々に対して、健康生活を支援するために必要な保健師の援助の視点や技術について講義を受けて学ぶ。ただし、家庭訪問・健康教育についてはそれぞれの該当科目で学習するため、本講義からは除外する。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(①②)

2　授業内容・準備学習

1	ガイダンス、保健指導①	【準備学習】 ・各授業開始前： 地域看護学概論や各ライフステージにおける統計や看護の基本について、あらかじめ十分に理解しておくこと。 ・各授業終了後： 毎回の授業毎に学習内容を振り返るとともに、公衆衛生学や他の地域看護関連科目と併せて理解を深めること。
2	保健指導②：対象別支援	
3	保健指導③：対象別支援	
4	健康診査	
5	母子保健対策	
6	成人保健対策・高齢者保健対策	
7	地区組織活動、グループ支援	
8	地域ケアシステムづくり　まとめ	

3　教科書：
中谷芳美他　標準保健師講座3「対象別公衆衛生看護活動」医学書院
中村裕美子他　標準保健師講座2「公衆衛生看護技術」医学書院

4　参考書：
授業中に適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：
学習課題提出物（60点）、最終レポート（40点）等を総合的に評価する

6　オフィスアワー：本授業日の昼休み時間　３Ｆ　312号室

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
地域看護活動論Ⅱ	１単位(15時間)	看護：選択 保健：必修 助産：選択	3年次・前期	講　義

担当者	○志澤美保　　細川陸也

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：健康課題を持ちながら生活をする地域住民を対象として、その支援制度や体系について説明できる。また、アセスメント・支援の際の視点、必要となる地域看護技術について説明できる。

授業概要：個人・家族・集団およびコミュニティの特徴や諸条件をふまえた対象別・健康課題別の支援の基本的な考え方を学び、地域における看護の展開方法について、講義を受けて学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(③)、関連するDP(①②)

2　授業内容・準備学習

1	感染症保健対策と保健師の役割（１）	【準備学習】 ・各授業開始前： 地域看護学概論や各健康課題における統計や病態、看護技術について、あらかじめ十分に理解しておくこと。 ・各授業終了後： 毎回の授業毎に学習内容を振り返るとともに、公衆衛生学や他の地域看護関連科目と併せて理解を深めること。
2	感染症保健対策と保健師の役割（２）	
3	感染症保健対策と保健師の役割（３）	
4	難病・障害者保健対策と保健師の役割（１）	
5	難病・障害者保健対策と保健師の役割（２）	
6	学校保健	
7	産業保健	
8	歯科保健　まとめ	

3　教科書：
中谷芳美他　標準保健師講座3「対象別公衆衛生看護活動」医学書院
中村裕美子他　標準保健師講座2「公衆衛生看護技術」医学書院

4　参考書：
授業中に適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：
学習課題提出物（60点）、最終レポート（40点）等を総合的に評価する

6　オフィスアワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
地域看護診断学Ⅰ	２単位（３０時間）	保健：必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	○志澤美保　　村上佳栄子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：地域看護活動の対象のとらえ方、地域の健康課題の抽出について、モデルを用いた手法の理解と演習を通して情報収集、アセスメントの手技を学習する。

授業概要：地域看護活動の対象の理解と、地域特性を把握するための理論と方法を講義にて学ぶ。
地域の把握をしたうえでの健康課題の抽出の手法を講義にて学ぶ。
演習形式で実際の情報を使って分析、アセスメントを行い、学びを深める。
※備考　地域看護診断学Ⅱと連動して行う。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①、③)

2　授業内容・準備学習

1	ガイダンス、地域看護活動とは	【準備学習】 ・各授業開始前： 前回授業の教科書やプリント等を復習し､疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後： 毎回の授業毎に、学習内容を講義ノートに整理し、予習指示に従って学習を進めておくこと。 演習時は、次回までに進めておく作業内容をグループ内で確認し、各自で進めてくること。
2	地区活動の基本と対象集団のとらえ方	
3	地区活動の方法と展開　（１）量的情報を整理する	
4	地区活動の方法と展開　（２）既存情報を活用する	
5	地区活動の方法と展開　（３）健康課題の抽出1	
6	地区活動の方法と展開　（４）健康課題の抽出2	
7	地区診断の実際　根拠となる情報を整理する	
8	地区診断の実際　演習（１）	
9	地区診断の実際　演習（２）	
10	地区診断の実際　演習（３）	
11	地区診断の実際　演習（４）	
12	地区診断の実際　演習（５）	
13	地区診断の実際　演習（６）	
14	地区診断の実際　演習（７）	
15	まとめ	

3　教科書：佐伯和子編「第2巻　公衆衛生看護の方法と技術　第2版」 医歯薬出版株式会社
4　参考書：適宜紹介する。
5　評価方法・成績評価基準：演習での成果物（30%）、筆記試験（70%）により総合的に判断する。
6　オフィス・アワー：演習日の昼休みおよび演習後

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
地域看護診断学Ⅱ	２単位（３０時間）	保健：必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	○志澤美保　　村上佳栄子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：地域看護活動を展開する上で、対象特性を捉え、健康課題から目標と活動計画の立案までの視点と方法を学ぶ。演習を交えて学習する。

授業概要：保健計画の策定の基本的な考え方、設定の仕方、理論に基づいた評価手法を学び、演習形式にてシミュレーションし、学びを深める。
※備考　地域看護診断学Ⅰと連動して行う。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①、③)

2　授業内容・準備学習

1	地域看護活動計画の立案　（１）　保健活動における計画と計画策定の基本的考え方	【準備学習】 ・各授業開始前： 前回授業の教科書やプリント等を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後： 毎回の授業毎に、学習内容を講義ノートに整理し、予習指示に従って学習を進めておくこと。 演習時は、次回までに進めておく作業内容をグループ内で確認し、各自で進めてくること。
2	地域看護活動計画の立案　（２）　活動方針と目標の設定	
3	地域看護活動計画の立案　（３）　計画の実際例①	
4	地域看護活動計画の立案　（４）　計画の実際例②	
5	地域看護活動の事業評価	
6	地域看護活動の事業評価の方法	
7	地域看護活動の評価の実際　（１）	
8	地域看護活動の評価の実際　（２）	
9	地域看護活動の評価の実際　（３）	
10	地域看護活動の評価の実際　（４）	
11	地域看護活動評価と計画　演習（１）	
12	地域看護活動評価と計画　演習（２）	
13	地域看護活動評価と計画　演習（３）	
14	地域看護活動評価と計画　演習（４）	
15	まとめ	

3　教科書：佐伯和子編「第2巻　公衆衛生看護の方法と技術　第2版」 医歯薬出版株式会社
4　参考書：適宜紹介する。
5　評価方法・成績評価基準：演習での成果物（30%）、筆記試験（70%）により総合的に判断する。
6　オフィス・アワー：演習日の昼休みおよび演習後

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
地域保健活動展開論	1単位(15時間)	選択	4年次・後期	講義・演習

担当者	○村上佳栄子　志澤美保

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：地域保健活動の展開方法について学習する。対象特性に応じた支援の現状と方法について理解を深め、地域で生活する人々の健康支援について考える。

授業概要：地域保健活動の現状と支援についてグループワークで理解を深め、健康支援についてディスカッション形式で学習する。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②③)

2　授業内容・準備学習

1	ガイダンス・地域保健の課題	【準備学習】 ・毎回のグループワーク内容をまとめ発表資料を作成していく。
2	地域母子保健の課題と支援方法（1）	
3	地域母子保健の課題と支援方法（2）	
4	地域成人保健の課題と支援方法	
5	地域高齢者保健の課題と支援方法	
6	グループ発表と意見交換（1）	
7	グループ発表と意見交換（2）	
8	まとめ	

3・4　教科書・参考書：授業中に適宜紹介する。

5　評価方法・成績評価基準：グループワーク、レポートおよび各課題への取り組み状況等を総合的に評価する。

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
地域看護学演習	2単位(60時間)	選択	3年次・後期	講義･演習

担当者	○志澤美保　村上佳栄子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：地区踏査、グループワーク、ロールプレイ、事例展開を通して地域看護の展開で必要となる地域診断、健康教育、家庭訪問の技術を習得する。

授業概要：地域看護の展開で必要となる地域診断、健康教育、家庭訪問の技術を習得する。地区踏査、グループワーク、事例展開、ロールプレイ学習を行う。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(①、③)

2　授業内容・準備学習

1	地域診断：グループワーク①	【準備学習】 ・各授業開始前 課題内容に合わせて、教科書や講義で用いたプリント等を復習し、演習実施に向けて予習しておくこと。 ・各授業終了後 グループ内での学びや、次回に向けての準備等がある場合は各自で進めておくこと。 毎回の演習内容ごとに、実施内容を振り返り、復習しておくこと。
2	地域診断：グループワーク②	
3	地域診断：グループワーク③	
4	地域診断：グループワーク④	
5	地域診断：グループワーク⑤	
6	地域診断：グループワーク⑥	
7	地域診断：グループワーク⑦	
8	地域診断：地区踏査①	
9	地域診断：地区踏査②	
10	地域診断：グループ発表①	
11	地域診断：グループ発表②　まとめ	
12	健康教育：オリエンテーション、企画立案	
13	健康教育：企画・計画発表準備	
14	健康教育：企画・計画発表	
15	健康教育：企画・計画修正、媒体作成①	
16	健康教育：企画・計画修正、媒体作成②	
17	健康教育：媒体作成③、発表練習①	
18	健康教育：媒体作成④、発表練習②	
19	健康教育：グループ発表①	

20	健康教育：グループ発表②
21	健康教育：企画・計画修正、および評価、まとめ
22	家庭訪問：オリエンテーション、家庭訪問計画作成①
23	家庭訪問：家庭訪問計画作成②
24	家庭訪問：新生児訪問ロールプレイ・評価①
25	家庭訪問：新生児訪問ロールプレイ・評価②
26	家庭訪問：ハイリスク・応用事例の計画立案①
27	家庭訪問：ハイリスク・応用事例の計画立案②
28	家庭訪問：ハイリスク・応用事例ロールプレイ・評価①
29	家庭訪問：ハイリスク・応用事例ロールプレイ・評価②
30	家庭訪問：ハイリスク・応用事例の計画修正・実施評価　まとめ

3　教科書：地域看護関連および各種領域において授業で用いられた教科書を総合的に使用する。
4　参考書：適宜紹介する。
5　評価方法・成績評価基準：演習での成果物（70%）、個人レポート（30%）により総合的に判断する。
6　オフィス・アワー：演習日の昼休みおよび演習後

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
地域看護学実習	5単位(225時間)	保健：必修	４年次・前後期	実習

担当者	○志澤美保　村上佳栄子

1　授業概要（教育目標・指導方法）

保健所や市町村で行われる公衆衛生看護活動の体験を通して、地域の特性を把握し居住する人々の生活実態（生活背景、家族関係、社会的立場を含めて）と健康問題を理解する。また、公衆衛生看護学の基礎的知識・技術を実際に活用し、地域住民の健康水準の向上を目指した公衆衛生看護活動の展開方法を学ぶ。これらを通して公衆衛生看護の理念と役割を理解する。

2　授業内容

詳細は､実習要項を参照すること。

[実習目標]

1) 地域診断を実施し、地域の健康課題を地域特性と関連づけて理解し、その対策を考えることができる。
2) 保健所や市町村における地域保健活動の体系と、事業の体系としての施策を理解できる。
3) 地域で暮らす個人･家族･集団のセルフケア能力を高めるための支援方法について理解し、指導のもとで実践できる。
4) 地域保健活動における地域ケアシステムの必要性、多職種と連携・協働した活動における保健師の役割を理解できる。
5) 地域保健活動の質の保証と情報管理を理解できる。
6) 公衆衛生看護活動の役割と機能を理解できる。

3　評価方法・成績評価基準

実習態度、カンファレンスなどでの討議内容、技術習得状況、実習記録、レポートなどから総合的に評価する。

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
助産学基礎理論	１単位（１５時間）	助産：必修	３年次・前期	講義

担当者	○松岡知子　安田美緒

1　到達目標・授業概要．ディプロマポリシー（DP）との関連
到達目標：助産師としての役割遂行に必要な専門職としての責務と役割を学習する。
授業概要：助産師としての役割遂行に必要な専門職としての責務と役割を講義、討論、グループワークを通して学習する。
DP との関連：強く関連する DP（①），関連する DP（③④）

2　授業内容

1	助産学のガイダンス　近畿ブロック助産師学生交流会参加	【事前学習】 ・授業開始前 教科書，配付資料等に目を通し，授業内容の予習を行う． ・授業終了後 毎回の講義毎に，学習内容と質問などを授業評価表に記載する．
2	助産学を支える理論	
3	助産師の専門職性と役割（１）助産師の能力	
4	助産師の専門職性と役割（２）世界の助産師教育	
5	助産師の専門職性と役割（３）日本の助産師教育	
6	助産師の専門職性と役割（４） 助産師の歴史	
7	助産師の役割遂行と倫理	

3　教科書：福井トシ子他編　「助産師業務要覧」　日本看護協会出版会

4　参考書：看護行政研究会監修　「看護六法」　新日本法規
我部山キヨ子編　「助産学講座１　基礎助産学［１］助産学概論」　医学書院
母子衛生研究会編　「母子保健の主なる統計」
助産師の歴史、生命倫理、看護倫理などに関する文献

5　評価方法・成績評価基準：筆記試験、授業への主体的な姿勢から総合的に評価する。
6　履修条件　助産学に関する履修許可を受けた者
7　オフィスアワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
親役割援助論	１単位（１５時間）	助産・必修	４年次・後期	講義・演習

担当者	○松岡知子

1　到達目標・授業概要．ディプロマポリシー（DP）との関連
到達目標：家族のライフスタイルおよび親役割の発達に応じたニーズを理解し、助産師の役割について学習する。
授業概要：家族のライフスタイルおよび親役割の発達に応じたニーズに対する助産師の役割について妊娠・育児期の支援活動の見学、役割支援に関するトピックスの講義を通して学習する。
DP との関連：強く関連する DP（①），関連する DP（③）

2　授業内容

1	妊娠・育児期の支援活動の現状１	【事前学習】 ・授業開始前 教科書，配付資料等に目を通し，授業内容の予習を行う． ・授業終了後 毎回の講義毎に，学習内容と質問などを授業評価表に記載する．
2	妊娠・育児期の支援活動の現状２	
3	妊娠・育児期の支援活動の現状3	
4	親役割支援に関する地域活動１	
5	親役割支援に関する地域活動2	
6	親役割支援に関する地域活動3	
7	課題の検討・まとめ	

3　教科書　　なし

4　参考書　　適宜紹介する

5　評価方法・成績評価基準
レポート（論理の展開、独創性、学習内容の反映の観点で評価する）　70％
グループワーク　30％

6　履修条件　助産学に関する履修許可を受けた者

7　オフィスアワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
助産マネジメント論	２単位（30時間）	助産・必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	○松岡知子　　白岩八千代

1　到達目標・授業概要．ディプロマポリシー（DP）との関連
　到達目標：助産業務管理、助産所の運営の基本及び周産期医療システムについて学習する。
　授業概要：助産業務管理、助産所の運営の基本及び周産期医療システムについて講義、討論、
　　グループワーク、助産所の見学を通して学習する。
　DPとの関連：強く関連するDP（①②），関連するDP（③）
2　授業内容

1	助産師の業務と義務	【事前学習】 ・授業開始前 教科書，配付資料等に目を通し，授業内容の予習を行う． ・授業終了後 毎回の講義毎に，学習内容と質問などを授業評価表に記載する．
2	助産業務ガイドライン	
3	助産師の活動場所の特性と助産業務管理　助産所	
4	助産師の活動場所の特性と助産業務管理　診療所	
5	助産師の活動場所の特性と助産業務管理 周産期母子センター・病院	
6	助産業務における安全危機管理	
7	助産業務における災害・防災管理	
8	産科棟管理の実際（１）	
9	産科棟管理の実際（２）	
10	院内助産院管理の実際	
11	NICUにおける管理の実際	
12	オープンシステム助産業務管理の実際	
13	地域における子育て支援事業における管理の実際（１）	
14	地域における子育て支援事業における管理の実際（２）	
15	助産所見学	

3　教科書：福井トシ子他編　「助産師業務要覧」　日本看護協会出版会
4　参考書：看護行政研究会監修　「看護六法」　新日本法規
　　我部山キヨ子編　「助産学講座10　助産管理」　医学書院
　　周産期医療システム、リスクマネジメントなどに関する文献
5　評価方法・成績評価基準：筆記試験、プレゼンテーションなど授業への主体的な姿勢から総合的に評価する。
6　履修条件　助産学に関する履修許可を受けた者
7　オフィスアワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
ウィメンズヘルス論	1単位(15時間)	助産；必修	３年次・前期	講義

担当者	○吉岡友香子

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連
　到達目標：1)思春期・性成熟期（マタニティステージを除く）における健康課題，不妊，中高年女性の性と生殖の支援に必要な知識を習得する．
　　2)女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康支援の展開を学ぶことができる．
　授業概要：女性のライフステージにおける性と生殖に関する健康支援の展開に必要な原理と技法について、講義と課題発表にて学ぶ．
　DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②，③，④)

2　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション，周産期医療の現状	【準備学習】 ・女性のライフサイクルに応じた健康課題の情報に意識して触れておく ・発表資料の作成（授業初日に説明）
2	受胎調節の基礎	
3	家族計画と受胎調節	
4	人工妊娠中絶とそのケア	
5	不妊症・生殖補助医療とそのケア	
6	女性のライフサイクルに応じた支援（１）	
7	女性のライフサイクルに応じた支援（２）	
8	女性のライフサイクルに応じた支援（３）	

3　教科書：日本家族計画連盟編　「新・受胎調節実地指導員用テキスト」　日本家族計画協会
4　参考書：適宜紹介する
5　評価方法・成績評価基準：レポート（50%），発表資料（50%）
6　オフィス・アワー：授業開講日の9:00～17:00

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
周産期病態生理学Ⅰ	1単位（３０時間）	助産：必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	楠木　泉、田中佑輝子、前田英子、沖村浩之、垂水洋輔、志村光揮、藤井麻耶

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：１）妊娠・分娩・産褥期、新生児期の診断に必要な医学的知識を習得する。
２）最近の周産期トピックスに関わる知識の理解を深める

授業概要：周産期の病態生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識を学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	母子保健と周産期医療	4/10　楠木　泉	【準備学習】 ・各授業開始前に教科書該当部を事前学習しておくこと ・各授業終了後、教科書、プリントなどを整理して知識を整理するとともに、次回授業の予習に生かすこと
2	妊娠の成立（排卵・受精・着床）、不妊症	4/17　垂水洋輔	
3	正常妊娠（母体の変化と胎児・胎児付属物）	4/24　楠木　泉	
4	妊娠期の異常、ハイリスク妊娠	5/8　前田英子	
5	偶発疾患合併妊娠、母子感染症	5/15　垂水洋輔	
6	正常分娩①（分娩の定義、分娩の3要素）	5/22　楠木　泉	
7	正常分娩②（分娩の経過、分娩の評価）	5/29　楠木　泉	
8	異常分娩①（分娩の3要素の異常）	6/5　楠木　泉	
9	異常分娩②（前置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群）	6/12　志村光揮	
10	正常産褥、異常産褥（産褥期感染症、血栓・塞栓症、産褥後遺症、産褥精神障害）	6/19 藤井麻耶	
11	周産期検査・診断法（理学所見、超音波検査、胎児心拍陣痛図）と胎児発育・胎児well-beingの評価	6/26 田中佑輝子	
12	産科手術、産科処置、産科麻酔、無痛分娩	7/3　楠木　泉	
13	妊娠・産褥と薬	7/10(4)志村光揮	
14	周産期のメンタルヘルスケア	7/10(5)前田英子	
15	まとめ	7/19 楠木　泉	

3　教科書：森　巍　「胎児診断・管理のABC」　金芳堂
我部山キヨ子他編　助産学講座 6　助産診断・技術学Ⅱ　妊娠期　医学書院
我部山キヨ子他編　助産学講座 7　助産診断・技術学Ⅱ　分娩期・産褥期　医学書院

4　参考書：井上裕美他監修　「病気が見えるvol10産科」　メディックメディア

5　評価方法・成績評価基準：成績評価基準：筆記試験(100%)、レポート課題により評価する

6　オフィス・アワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
周産期病態生理学Ⅱ	１単位（３０時間）	助産：必修	３年次・後期	講義・演習

担当者	○森本昌史　長谷川龍志　橋口加名栄 河井容子　森元英周、文野誠久 武部弘太郎　青山三智子　井上　郁

1　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：新生児の病態生理・医学的ケアおよび女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康支援の展開に必要な基礎知識を学び、説明することができる。

授業概要：新生児期の病態生理・医学的ケアなどにつき系統的に講義を行う。
適宜、適切なテーマで演習を行う。
新生児蘇生法について実技を学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(①、②)、関連するDP(③)

2　授業内容・準備学習

1	新生児（１）	【準備学習】 ・各授業開始前 事前配布された資料があれば予習を行い、質問の用意をしておくこと。 ・各授業終了後 A4サイズ用紙 一枚程度に授業内容をまとめておくこと。
2	新生児（２）	
3	ハイリスク新生児の病態と管理（１）	
4	ハイリスク新生児の病態と管理（２）	
5	ハイリスク新生児の病態と管理（３）	
6	ハイリスク新生児の救急蘇生（１）	
7	ハイリスク新生児の救急蘇生（２）	
8	新生児・小児の疾患　先天性心疾患（１）	
9	新生児・小児の疾患　先天性心疾患（２）	
10	新生児・小児の疾患　先天性代謝異常	
11	新生児の外科的疾患	
12	小児救急・産婦人科救急	
13	母子の予防医学	
14	幼児虐待と嬰児殺	
15	総括	

3　教科書：「日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト」
メジカルビュー社

4　評価方法・成績評価基準：筆記試験（90 %）、演習課題（10 %）

5　オフィス・アワー：本授業後

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
助産診断技術学Ⅰ	１単位(30時間)	助産：必修	３年次・前期	講義・演習

担当者	○前田絢子

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：妊娠期の診断，助産ケアの展開に必要な原理と技法を修得することができる。

授業概要：妊娠期の身体的・心理的・社会的側面の助産診断と助産ケア・保健指導について講義・演習を通して学ぶ。

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②③)

２　授業内容・準備学習

1	オリエンテーション（助産師とは）	【準備学習】 ・2年次に学んだ母性看護学や病態生理に関する内容を復習しておくこと。 ・各授業終了後は自己にて復習しておくこと。
2	妊娠期の診断①　（診断すること）	
3	妊娠期の診断②（妊娠の生理：復習）	
4	妊娠期の診断③（妊娠の生理：復習 ）	
5	妊娠期の診断④（妊娠期のフィジカルアセスメント）	
6	妊娠期の診断⑤（妊娠期のフィジカルアセスメント）	
7	妊娠期の診断⑥（ハイリスク妊娠と助産ケア）	
8	妊娠期の診断⑦（ハイリスク妊娠と助産ケア）	
9	包括的な助産過程①（ハイリスク妊娠と助産ケア） ①HDP　②GDM	
10	包括的な助産過程②（ハイリスク妊娠と助産ケア） ①切迫流早産	
11	包括的な助産過程③　①妊娠による体の変化 ②妊娠への社会保障とサービス	
12	包括的な助産過程④ ①　妊婦健康診査　②妊娠中の食生活　③妊娠中の活動休息	
13	包括的な助産過程⑤　①分娩に向けてと沐浴指導	
14	妊娠中の検査・薬剤・産科手術	
15	まとめ（実習にむけて）	

３　教科書：我部山キヨ子他編：助産学講座６助産診断・技術学Ⅱ［１］妊娠期，医学書院

４　参考書：北川眞理子：今日の助産，南江堂，
森恵美：助産師基礎教育テキスト，日本看護協会出版会

５　評価方法・成績評価基準：演習発表資料（50%）　課題レポート（50%）

６　履修条件　助産学に関する履修許可を受けた者

７　オフィスアワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
助産診断技術学Ⅱ	1単位(30時間)	助産：必修	３年次・後期	講義・演習

担当者	○吉岡　友香子

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：分娩期の診断，助産ケアの展開に必要な原理を理解する．
分娩期の診断，助産ケアに必要な技法を修得する．

授業概要：分娩期における産婦と胎児の身体的・心理社会的側面の助産診断と助産ケアについて講義・演習を通し学ぶ．

DPとの関連:強く関連するDP(①，②)、関連するDP(③)

２　授業内容・準備学習

1	分娩の機序と分娩四要素１	【準備学習】 ・授業開始前に母性看護援助論Ⅰの分娩期を復習しておくこと。 ・各授業中に出された課題を次の授業までに実施し、不明点や質問を明確にしておくこと。
2	分娩の機序と分娩四要素２	
3	分娩期の助産診断	
4	分娩期のアセスメント1	
5	分娩期のアセスメント2	
6	分娩期のアセスメント3	
7	分娩期のアセスメント4	
8	産婦のケア	
9	産婦のケア(演習)	
10	分娩介助の意義と原理	
11	分娩介助の技術（演習）	
12	分娩介助の技術（演習）	
13	分娩期の異常とそのケア１	
14	分娩期の異常とそのケア２	
15	事例に基づいた分娩期の助産診断	

３　教科書：我部山キヨ子他編助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期，医学書院
北川眞理子他編　今日の助産，南江堂
井上裕美他監修　「病気が見える vol.10　産科」　メディックメディア

４　参考書：適宜紹介する

５　評価方法・成績評価基準：レポート（20%）、筆記試験（80%）にて評価する

６　オフィス・アワー：講義日の9:00～17:00

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
助産診断技術学Ⅲ	１単位(30時間)	助産：必修	３年次・後期	講義・演習

担当者	○吉岡友香子　前田絢子　中島輝美

１　到達目標・授業概要・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ(DP)との関連

到達目標：産褥期・新生児期，育児期の助産診断，助産ケアの展開に必要な原理と技法を習得する．

授業概要：産褥期・新生児期，育児期の身体的・心理的側面の助産診断と助産ケア・保健指導について講義・演習を通して学ぶ．

DP との関連:強く関連する DP(①，②)、関連する DP(③)

２　授業内容・準備学習

1	産褥期のフィジカルアセスメントその支援１	（吉岡）	【準備学習】 ・授業開始前に母性看護援助論Ⅱ・母性看護学実習事前学習を復習しておく． ・産褥期の保健指導案を事前作成（概要は開講前に提示）．
2	産褥期のフィジカルアセスメントその支援２	（吉岡）	
3	母乳栄養確立の診断と支援１	（吉岡）	
4	母乳栄養確立の診断と支援２	（吉岡）	
5	褥婦の心理・社会的側面の診断と育児行動獲得への支援	（吉岡）	
6	産褥期の保健指導　（演習）１	（吉岡）	
7	産褥期の保健指導　（演習）２	（吉岡）	
8	新生児の病態生理とフィジカルアセスメント	（前田）	
9	新生児の病態生理とフィジカルアセスメント	（前田）	
10	新生児のケア①	（前田）	
11	新生児のケア②	（前田）	
12	産褥母子訪問①	（前田）	
13	産褥母子訪問②	（前田）	
14	周産期医療現場の災害対策	（前田）	
15	低出生児の看護	（中島輝美）	

３　教科書：我部山キヨ子他編:助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期・産褥期，医学書院
我部山キヨ子他編:助産学講座８助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児期・乳児期，医学書院
仁志田博司:新生児学入門　医学書院

４　参考書：北川眞理子他編　今日の助産，南江堂，他　適宜紹介する

５　評価方法・成績評価基準：演習レポート（65%），筆記試験（35%）によって評価する

６　オフィス・アワー：授業開講日の9:00～17:00

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
助産診断技術学Ⅳ	１単位(30時間)	助産：必修	４年次・前期	講義・演習

担当者	○松岡知子　吉岡友香子　前田絢子　原田幸恵 前田圭子

１　到達目標・授業概要．ディプロマポリシー（DP）との関連

到達目標：助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲを統合した助産診断，周産期における快適さを提供する助産ケア，周産期の緊急事態に対する産婦・家族への支援について学習する。

授業概要：助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲを統合した助産診断についてシミュレーション学習を通して学ぶ．また，周産期における快適さを提供する助産ケア，周産期の緊急事態に対する産婦・家族への支援について講義・演習を通し学習する．

DPとの関連：強く関連するDP（①②），関連するDP（③）

２　授業内容

1	臨時緊急の処置としての会陰裂傷縫合（講義）	【事前学習】 ・授業開始前 教科書，配付資料等に目を通し，授業内容の予習を行う． ・授業終了後 毎回の講義毎に，学習内容と質問などを授業評価表に記載する．
2	臨時緊急の処置としての会陰裂傷縫合（演習）	
3	流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊産婦と家族のケア１	
4	流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊産婦と家族のケア２	
5	帝王切開前後のケア	
6	フリースタイルバース（講義）	
7	フリースタイルバース（演習）	
8	マタニティヨガ	
9	周産期で用いるアロマセラピー（講義）	
10	周産期で用いるアロマセラピー（演習）	
11	超音波を用いた妊婦健康診査（演習）	
12	助産診断・技術のシミュレーション学習	
13	助産診断・技術のシミュレーション学習	
14	助産診断・技術のシミュレーション学習	
15	助産診断・技術のシミュレーション学習	

３　教科書：
我部山キヨ子他編：助産学講座６助産診断・技術学Ⅱ［１］妊娠期，医学書院
我部山キヨ子他編：助産学講座６助産診断・技術学Ⅱ［２］分娩期・産褥期，医学書院

４　参考書：
進純郎他編：正常分娩の助産術，医学書院
進純郎他編：助産外来での健診技術，医学書院
岩田塔子：フリースタイル分娩介助法，メディカ出版
北川眞理子：今日の助産，南江堂

５　評価方法・成績評価基準：
筆記試験，演習レポート・発表・参加態度を総合して評価する．

６　履修条件　助産学に関する履修許可を受けた者

７　オフィスアワー：本授業日の昼休み時間

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
助産学実習Ⅰ	２単位(90時間)	助産：必修	４年次・前後期	実習

担当者	○松岡知子　吉岡友香子　前田絢子 原田幸恵　前田圭子

授業概要（教育目標・指導方法）

妊産褥婦・新生児への助産過程の展開をとおして、周産期における対象を理解し，そのニーズに応じた看護を実践できる能力を習得する。

授業内容

［実習目的］

妊娠中期から産後１か月まで継続して受け持ち，助産過程を展開する実践能力を習得する．

［実習目標］

１．受け持ち妊婦の妊娠各期の助産診断を行い、助産計画に基づいた援助ができる．

２．妊娠期からの継続ケアと対象との信頼関係に基づき，産褥期・新生児期・育児期の助産過程が展開できる．

［行動目標、実習内容、実習の展開］　　助産学実習要項参照

教科書：　母性看護学、助産学及び関連科目で使用した教科書、資料

評価方法・成績評価基準：　実践能力・技術及び出席日数から総合的に評価をする。

事例の実践評価；実習記録 50%、技術 30%、レポート、カンファレンス参加度 10%

実習態度（予習・復習、倫理的態度） 10%

履修条件：助産学に関する履修許可を受けた者

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
助産学実習Ⅱ	8単位(360時間)	助産：必修	４年次・前後期	実習

担当者	○松岡知子　吉岡友香子　前田絢子 原田幸恵　前田圭子

授業概要（教育目標・指導方法）

妊産褥婦・新生児への助産過程の展開をとおして，周産期における対象を理解し，必要な助産ケアや保健指導力，分娩介助ができる能力を習得する．

授業内容

［実習目的］

分娩・産褥・新生児期の助産過程の展開を通し、対象に応じたケアを実践できる能力を習得する．

［実習目標］

１．分娩の開始，分娩の進行，胎児の健康状態の診断ができる．

２．正常な経腟分娩の介助ができる．

３．分娩期における異常予防，早期発見とそれに対する援助が理解できる．

４．分娩期の状態を考慮し，産褥・新生児期の助産過程が展開できる

［行動目標，実習内容，実習の展開］

助産学実習要項参照

教科書　　母性看護学，助産学及び関連科目で使用した教科書，資料

評価方法・成績評価基準　　実習内容，記録，事前・事後学習，レポートより総合的に評価する

履修条件　助産学に関する履修許可を受けた者

科　目　名	単位数（時間）	必修・選択	年次・学期	授業形態
助産学実習Ⅲ	１単位(45時間)	助産：必修	４年次・前後期	実習

担当者	○松岡知子　吉岡友香子　前田絢子 原田幸恵　前田圭子

授業概要（教育目標・指導方法）

地域における助産活動に対する理解を深め，女性のライフサイクルにおける性と生殖に関わる健康課題への支援のための基礎的能力を習得する．

授業内容

［実習目的］

地域で生活している妊娠・育児期の女性とその家族に対する助産活動，助産所のケアと管理を通して，地域母子保健における助産師の役割や他職種との連携について理解を深め，性と生殖に関わる健康課題への支援のための基礎的能力を習得する．

［実習目標］

１．助産所における助産ケアと管理について理解できる．

２．地域で生活している妊娠期・育児期の女性とその家族に対する助産ケアが実践できる．

３．地域母子保健における助産師の役割，他職種との連携，協働の重要性について理解できる．

４．女性のライフサイクル各期における性と生殖に関わる健康支援と役割について理解できる．

［行動目標、実習内容、実習の展開］　助産学実習要項参照

教科書：　母性看護学、助産学及び関連科目で使用した教科書、資料

評価方法・成績評価基準：　実践能力・技術及び出席日数から総合的に評価をする。

事例の実践評価；実習記録 20%、レポート、カンファレンス参加度 50%

実習態度、技術（予習・復習、倫理的態度） 30%

履修条件：助産学に関する履修許可を受けた者

９　関係規程等

京都府立医科大学医学部看護学科授業科目履修規程

平 成 ２ ０ 年 ４ 月 １ 日
京都府立医科大学規程第７号

（目的）
第１条　この規程は、京都府立医科大学学則（平成 20 年京都府立医科大学規則第１号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、医学部看護学科の授業科目（以下「科目」という。）の履修方法等に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（授業）
第２条　授業時間は、次のとおりとする。
１時限　８時 50 分から 10 時 20 分まで
２時限　10 時 30 分から 12 時 00 分まで
３時限　12 時 50 分から 14 時 20 分まで
４時限　14 時 30 分から 16 時 00 分まで
５時限　16 時 10 分から 17 時 40 分まで

（科目等）
第３条　開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、別表１のとおりとする。

（科目の履修）
第４条　科目は、原則として定められた年次に履修するものとする。

（履修届及び履修科目の制限）
第５条　学生は、履修しようとする科目について、毎学期の所定の期日までに所定の履修届を学長に提出し、承認を受けなければならない。
２　実習に関する科目については、別に定める科目を修得しなければ履修することができない。
３　助産学に関する科目を選択する学生の履修許可数は、15 人を超えないものとし、学生の履修方法及び選考等については、別に定める。
４　地域看護学に関する科目を選択する学生の履修許可数は、20 人を超えないものとし、学生の履修方法及び選考等については、別に定める。
５　その他の科目についても、履修学生数等を定めることがある。
６　履修届は、次の各号の規定を遵守の上、提出しなければならない。
(1)　同一科目がクラス別に開講されている場合は、所属クラスの時間に履修しなければならない。
(2)　既に単位を修得した授業科目は、再び履修することができない。
７　履修届提出後は科目を変更し、又は取り消すことはできない。ただし、学長が正当な事由と認めた場合は、この限りでない。

（単位認定試験等の受験資格）
第６条　学生は、次の各号の一に該当しなければ、履修する科目の認定試験を受験することはできない。
(1)　履修する科目の出席時間数が、当該科目の授業時間数の３分の２（臨地実習にあっては５分の４）以上の者
(2)　出席時間数が前項に達しない者のうち、担当教員が修了者と同等の能力があると認めた者

（単位の認定）
第７条　各科目の単位の認定は試験等によって行い、試験等の合格者に所定の単位を与えるものとする。
２　単位を認定する試験等は、その科目の授業が終了する学期末に学生に対して行う。ただし、担当教員が必要と認めたときは、学期末以外に行うことができる。

（追試験）
第８条　疾病その他やむを得ない理由により試験を受けることができなかった者は、その科目について追試験を受けることができる。
２　前項の規定により追試験を受けようとする者は、所定の追試験・再試験受験申請書に医師の診断書その他理由を証する書類を添えて、指定された期日までに学長に提出しなければならない。

（再試験）
第９条　定期試験又は追試験において不合格となった者に対しては､担当教員の判定に基づき、当該科目について１回に限り再試験を行うことができる。
２　前項の規定により再試験を受けようとする者は、所定の追試験・再試験受験申請書を指定された期日までに学長に提出しなければならない。

（成績の評価）
第 10 条　成績の評価は、評点又は評語をもって表し、合否の判定は次の基準により行う。ただし、
再試験の評価は、60 点以下とする。

評　　点	評　語	認　　定
100 点～80 点	優	合　　格
79 点～70 点	良	
69 点～60 点	可	
59 点～０点	不　可	不　合　格

２　評点をもって表せない特定科目については、合格、不合格をもって表す。
３　２人以上の教員により授業が分担される科目については、当該教員の合議により、成績の評価を行う。

（筆答試験時における入退室）
第 11 条　筆答試験時の入退室については、次に定めるところによる。
(1)　試験開始時刻より 30 分以上遅れた者は、試験室に入室することができない。
(2)　試験開始後 30 分を経過するまでは、試験室から退室することができない。

（試験における不正行為）
第 12 条　試験において不正行為があったときは、その試験期間中の全ての試験を無効とし、以後の受験を認めないものとする。

（進級の制限）
第 13 条　学長は、看護学科教授会議の議を経て、各学年において別表２に定める単位を習得できなかった者は、進級させないものとする。

（進級できなかった者の履修）
第 14 条　前条の規定により進級できなかった者は､修得を要する科目及び学長が定める範囲内の科目を履修するものとする。

（雑則）
第 15 条　この規程に定めるもののほか、授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この規程は、平成 21 年４月１日から施行する。ただし、別表１中「社会福祉学」、「カウンセリング論」、「リハビリテーション看護援助論Ⅱ」及び「精神看護学概論Ⅰ」の項にあっては平成１９年度の、「精神保健」及び「在宅看護論」の項にあっては平成２０年度の、「生命倫理」及び「発達心理学」の項にあっては平成２１年度の科目から適用し、別表２にあっては、この規程施行の際、現に第２学年に在籍している者については、改正後の京都府立医科大学医学部看護学科授業科目履修規程別表第２の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
1　この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
2　この規程施行の際、現に第２学年に在籍している者については、改正後の規定に関わらず、なお従前の例による。

附　則
1　この規程は、平成 25 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、平成 26 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、平成 27 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、平成 30 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、平成 31 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、令和 2 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、令和 3 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、令和 4 年４月１日から施行する。

附　則
1　この規程は、令和 5 年４月１日から施行する。

別表１　医学部看護学科教育課程（第３条関係）

改正案

区分		授業科目	単位数		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
					１年次		２年次		３年次		４年次			
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目	生命及び人間の尊厳	生命倫理		2		2							30	
		人権論	2		2								30	
		総合講義	2		2								30	
		医療人類学（共）		2	2								30	
		現代医療の人間観		2		2							30	
		哲学		2		2							30	
		公共哲学		2	2								30	
		人権教育※		2	2								30	
		科学と思想　リベラルアーツ・ゼミナール		2		2							30	**22単位以上**
		感性の実践哲学　リベラルアーツ・ゼミナール		1		1							15	
		経営哲学　リベラルアーツ・ゼミナール		2								2	30	
	人間の理解	文芸創作論		2		2							30	
		音楽		2	2								30	
		心の科学	2		2								30	**看護師課程**
		発達心理学		2	2								30	**22単位以上**
		健康スポーツ科学		2	2								30	**必修10単位+**
		健康スポーツ科学演習		1		1							30	**選択12単位以上**
		人間学		2		2							30	
		日本文学Ⅰ		2	2								30	
		日本文学Ⅱ		2		2							30	
		西洋文学論		2	2								30	
		日本近現代文学Ⅰ		1		1							15	
		日本近現代文学Ⅱ		1		1							15	
		西洋文化論		2		2							30	
		美と芸術		2	2								30	
		京都の文学Ⅰ		2	2								30	
		京都の文学Ⅱ		2		2							30	**保健師課程**
		こころの科学		2	2								30	**22単位以上**
		認知心理学		2		2							30	**必修13単位+**
		現代社会と心		2		2							30	**選択9単位以上**
		感覚で探る問題解決の方法　リベラルアーツ・ゼミナール		2		2							30	
		京都学・歴彩館ゼミ　リベラルアーツ・ゼミナール		2								2	30	
	人間と環境Ⅰ	環境論		2		2							30	
		教育の基礎		2	2								30	
		法律と社会	2		2								30	
		生活と経済		2		2							30	
		社会とは何か		2		2							30	
		医療社会史		2		2							30	
		宗教と文化		2		2							30	
		医療と社会		2	2								30	**助産師課程**
		比較宗教学		2	2								30	**22単位以上**
		宗教学		2	2								30	**必修12単位+**
		日本史		2		2							30	**選択10単位以上**
		京都の文化と文化財（共）		2		2							30	
		観光学α（共）		2							2		30	
		東西文化交流史		2		2							30	
		アジアの歴史と文化		2	2								30	
		ヨーロッパの歴史と文化		2		2							30	
		技術の人間学		2		2							30	
		日本近代精神史		2		2							30	
		京の意匠		2		2							30	
		京都の歴史Ⅰ		2	2								30	
		京都の歴史Ⅱ		2		2							30	
		英語で京都		2								2	30	
		政治学		2		2							30	
		現代の政治		2	2								30	
		国際政治		2		2							30	
		経済学入門		2		2							30	
		京都の経済		2		2							30	
		現代日本と経済		2	2								30	
		食経営学		2	2								30	
		人文地理学Ⅰ		2	2								30	
		人文地理学Ⅱ		2		2							30	
		現代教育論		2	2								30	
		京の産業技術史		2	2								30	
		近代京都と三大学		2		2							30	
		SDGsをまなぶ		2		2							30	
		文化社会学		2		2							30	

改正案

区分		授業科目	単位数		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
					1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎・教養科目	人間と環境Ⅰ	社会学Ⅰ		2	2								30	
		社会学Ⅱ		2		2							30	
		現代社会とジェンダー		2	2								30	
		現代京都論		2	2								30	
		医史学		2		2							30	
		科学史Ⅰ		1	1								15	
		科学史Ⅱ		1	1								15	
		環境問題と持続可能な社会		2	2								30	
		環境と法		2		2							30	
		法学		2	2								30	
		京都の防災と府民		2		2							30	
		京都の農林業		2		2							30	
		京都の自然（共）		2	2								30	
		京都の自然と森林		2	2								30	
		現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール（共）		2		2							30	
		社会科学の学び方　リベラルアーツ・ゼミナール		2		2							30	
		現代社会と映画制作　リベラルアーツ・ゼミナール		1	1								15	
		世界はいま　リベラルアーツ・ゼミナール		1		1							15	
		現代イスラーム世界の文化と社会　リベラルアーツ・ゼミナール		1		1							15	
		時事問題で学ぶファシリテーション（リベラルアーツ・ゼミナール）		2		2							30	
		マーケティング入門（リベラルアーツ・ゼミナール）		2							2		30	
		プレゼンテーション力とは（リベラルアーツ・ゼミナール）		2	2								30	
	人間と環境Ⅱ	生物学的人間学		2	2								30	1科目以上履修
		生命有機化学		2		2							30	
		物理学		2	2								30	
		情報科学	2		2								30	※「生物学的人間学」「生命有機化学」「物理学」から1科目以上履修する（すべての課程に共通）
		人と自然と数学αⅠ		1		1							15	
		人と自然と数学αⅡ		1		1							15	
		人と自然と数学β		2		2							30	
		物理学Ⅰ		2	2								30	
		人と自然と物理学		2		2							30	
		化学概論Ⅰ		2	2								30	
		化学概論Ⅱ		2		2							30	
		生物学概論Ⅰ		2	2								30	
		生物学概論Ⅱ		2		2							30	
		人類生態学		2		2							30	
		地球の科学		2		2							30	
		宇宙と地球の科学		2		2							30	
		エネルギー科学		2	2								30	
		キャンパスヘルス概論		2	2								30	
		食と健康の科学		2	2								30	
		食環境をめぐる国際社会と日本		2	2								30	
		現代科学と倫理		2		2							30	
		意外と知らない植物の世界		2		2							30	
		生命科学講話		2	2								30	
		時間生物学特論		1							1		15	
		医学概論		2		2							30	
		製品の機能から科学を学ぶ　リベラルアーツ・ゼミナール		2		2							30	
		レーザで測る、創る、楽しむ　リベラルアーツ・ゼミナール		2	2								30	
	国際理解とコミュニケーション	英語ⅠA	1		1								30	
		英語ⅠB	1			1							30	
		英語ⅡA		1			1						30	
		英語ⅡB		1				1					30	
		中国語Ⅰ		1	1								30	
		中国語Ⅱ		1		1							30	
		ドイツ語Ⅰ		1	1								30	
		ドイツ語Ⅱ		1		1							30	8単位以上
		フランス語Ⅰ		1	1								30	必修2単位+
		フランス語Ⅱ		1		1							30	選択6単位以上
		国際情勢の理解		2				2					30	
		英会話Ⅰ		1			1						30	
		英会話Ⅱ		1				1					30	
		ラテン語		2		2							30	
		現代社会に学ぶ問う力・書く力　リベラルアーツ・ゼミナール		2	2								30	
		フランス語圏の文化とジャポニズム		2							2		30	
		映画で学ぶ英語と文化		2							2		30	
		映画で学ぶドイツ語と文化		2								2	30	
基礎・教養科目合計			12	234	103	120	2	4			9	8	3885	30単位以上（必修単位を含む）

改正案

区分		授業科目	単位数		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
					1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	人体構造機能論Ⅰ	1		1								30	
		人体構造機能論Ⅱ	1			1							30	**看護師課程**
		生化学	1		1								30	**23単位以上**
		栄養学	1		1								30	**必修22単位+**
		薬理学	1				1						30	**選択1単位以上**
		病理学	1			1							30	
		感染免疫学	1				1						30	
		病態・疾病論Ⅰ(成人急性期)	1				1						30	
		病態・疾病論Ⅱ(成人慢性期)	1				1						30	
		病態・疾病論Ⅲ(精神・運動器)	1					1					30	
		病態・疾病論Ⅳ(臨床腫瘍)	1					1					30	**保健師課程**
		病態・疾病論Ⅴ(小児)	1					1					30	**24単位以上**
		病態・疾病論Ⅵ(老年)	1					1					30	**必修24単位+**
		成長発達論	1						1				30	**選択**
		生殖健康論	1				1						30	
		臨床遺伝学	1					1					30	
		人間看護工学		1		1							30	
	保健・福祉	疫学	1						1				30	
		公衆衛生学	1						1				30	
		医療情報学	1					1					30	**助産師課程**
		社会福祉学	1						1				30	**23単位以上**
		カウンセリング論	1						1				30	**必修23単位+**
		看護と法律	1					1					30	**選択**
		家族社会学		1					1				30	
		医療と経営		1					1				30	
		専門基礎科目合計	22	3	3	3	5	7	7				750	**23単位以上**
専門科目	看護学の基本	看護基礎理論	2		2								30	
		看護人間論	1			1							30	
		生活援助論Ⅰ	2		2								60	
		生活援助論Ⅱ	2			2							60	**14単位**
		治療援助論	2				2						60	**(必修14単位)**
		看護方法論	1					1					30	
		ヘルスアセスメント	1				1						30	
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1							45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2					2					90	
	看護学の展開(理論と実践)	成人看護学概論	2			2							30	
		成人急性期看護援助論Ⅰ	1				1						30	
		成人急性期看護援助論Ⅱ	1					1					30	
		成人慢性期看護援助論Ⅰ	1				1						30	
		成人慢性期看護援助論Ⅱ	1					1					30	
		成人急性期看護学実習	3							3			135	
		成人慢性期看護学実習	3							3			135	
		がん看護援助論	1						1				30	
		精神保健	1			1							30	
		精神看護学概論	2				2						30	**49単位**
		精神看護援助論Ⅰ	1					1					30	**(必修49単位)**
		精神看護援助論Ⅱ	1						1				30	
		精神看護学実習	3							3			135	
		小児看護学概論	2				2						30	
		小児看護援助論Ⅰ	1					1					30	
		小児看護援助論Ⅱ	1						1				30	
		小児看護学実習	3							3			135	
		母性看護学概論	2			2							30	
		母性看護援助論Ⅰ	1				1						30	
		母性看護援助論Ⅱ	1				1						30	
		母性看護学実習	2							2			90	
		老年看護学概論	2				2						30	
		老年看護援助論Ⅰ	1					1					30	
		老年看護援助論Ⅱ	1						1				30	
		老年看護学実習	3							3			135	
		在宅看護学概論	2					2					30	
		在宅看護援助論	1						1				30	
		在宅看護実習	1							1			45	
		地域看護学概論	2				2						30	
		健康教育論	2					2					30	

改正案

区分			授業科目		単位数		履修年次・授業時間数								時間数	卒業に必要な単位数
							1年次		2年次		3年次		4年次			
					必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	看護学の統合と発展		研究方法論Ⅰ		1						1				30	
			研究方法論Ⅱ		1								1		30	
			研究方法論Ⅲ		2									2	60	
			看護マネジメント論		1						1				15	**看護師課程**
			国際看護・国際保健Ⅰ		1						1				15	**14単位以上**
			国際看護・国際保健Ⅱ			1								1	15	**必修9単位+**
			国際看護英語			1								1	15	**選択5単位以上**
			看護教育論			1								1	15	
			地域精神看護論			1					1				15	**保健師課程**
			発達援助論			1								1	15	**14単位**
			看護倫理			1								1	15	**必修14単位**
			災害看護論		1						1				15	
			メンタルヘルス・マネジメント			1								1	15	**助産師課程**
			看護の統合と実践Ⅰ（演習）			1								1	30	**10単位以上**
			看護の統合と実践Ⅱ（実習）		2							2			90	**必修10単位+**
			公衆衛生看護行政論	※1		1					1				15	**選択**
			家族相談援助論	※1,2		1					1				15	
			地域看護活動論Ⅰ	※1		1					1				15	
			地域看護活動論Ⅱ	※1		1					1				15	
			小計		72	12	4	9	15	12	14	20	1	9	2385	
		（保健師課程のみ）	地域看護診断学Ⅰ	○	2						2				30	**保健師課程**
			地域看護診断学Ⅱ	○	2						2				30	**１２単位**
			地域保健活動展開論	○◎	1									1	15	**必修12単位**
			地域看護学演習	○	2							2			60	**助産師課程**
			地域看護学実習	○	5								5		225	**１単位**
			小計		12						4	2	5	1	360	**必修1単位**
		（助産師課程のみ）	助産学基礎理論	◎	1						1				15	
			親役割援助論	◎	1									1	15	
			助産マネジメント論Ⅰ	◎	2						2				30	
			ウィメンズヘルス論	◎	1						1				15	
			周産期病態生理学Ⅰ	◎	1						1				30	
			周産期病態生理学Ⅱ	◎	1							1			30	**助産師課程**
			地域母子保健論	◎	1							1			15	**25単位**
			助産診断学Ⅰ	◎	1						1				15	**必修25単位**
			助産診断学Ⅱ	◎	1						1				15	
			助産診断学Ⅲ	◎	1							1			15	
			助産診断学Ⅳ	◎	1							1			15	
			助産技術学Ⅰ	◎	1							1			30	
			助産技術学Ⅱ	◎	1								1		30	
			助産学実習Ⅰ	◎	2								2		90	
			助産学実習Ⅱ	◎	8									8	360	
			助産学実習Ⅲ	◎	1									1	45	
			小計		25						7	5	3	10	765	
合　計					143	249	110	132	22	23	32	27	18	28	8145	**看護師課程 １３０単位以上 保健師課程 １４３単位以上 助産師課程 １５２単位以上**

保健師課程は、健康スポーツ科学、健康スポーツ科学演習、家族社会学、医療と経営、※1の科目、○の科目の履修
助産師課程は、生命倫理、臨床遺伝学、家族社会学、※2の科目、◎の科目を履修

（注）○印及び◎印は、その履修を許可された学生が履修する。
この場合、「地域看護学」「助産学」の履修単位は、看護学の統合と発展の履修要件（保健師課程1単位、助産師課程5単位）に振替える。
したがって、保健師及び助産師国家試験受験資格を取得の上、卒業するためには保健師143単位、助産師152単位以上の履修が必要である。

別表2　授業科目履修規程（第13条関係）

進級に要する単位数

区　分	進級要件単位数		
	1年から2年次	2年から3年次	3年から4年次
	必修科目	必修科目	必修科目
基礎・教養科目	12単位	12単位	12単位
専門基礎科目	5単位	17単位	22単位
専門科目	13単位	40単位	54単位
合　計	30単位	69単位	88単位

京都府立医科大学医学部看護学科の入学前の既修得単位認定に関する規程

平成２０年４月１日
京都府立医科大学規程第72号

（趣旨）
第１条　京都府立医科大学学則（平成20年京都府立医科大学規則第1号。以下「学則」という。）第20条の規定により、大学又は短期大学（以下「大学等」という。）を卒業又は中途退学した後、京都府立医科大学（以下「本学」という。）医学部看護学科の第１年次入学した者の当該大学等において修得した単位（以下「既修得単位」という。）の認定手続きについては、この規程の定めるところによる。

（定義）
第２条　この要項において「中途退学」とは、大学等において１年以上在学し、当該大学等において３０単位以上修得し、退学したことをいう。

（既修得単位認定の授業科目及び単位数）
第３条　既修得単位の認定できる授業科目及び単位数は、本学医学部看護学科で開設している基礎・教養科目及び専門基礎科目に相当する科目で、合計30単位を超えないものとする。

（申請）
第４条　既修得単位の認定を受けようとする者は、所定の期日までに、別に定める既修得単位認定申請書に成績証明書及び単位を修得した授業科目の講義概要を記載した書類等を添えて、学長に申請するものとする。

（認定）
第５条　学長は第４条の規定による申請があったときは、教授会の議を経て、既修得単位の認定を行うものとする。

（認定書）
第６条　学長は、第５条の規定により認定した授業科目及び単位数について、別に定める既修得単位認定書を交付するものとする。この場合において、当該授業科目の成績の評価は、「認定」とする。

（既修得単位を認定した学生の指導）
第７条　第５条の規定により単位の認定を行った場合には、当該学生の指導教員は、認定した単位に代えて他の授業科目の履修等適切な指導を行うものとする。

（外国の大学を卒業又は中途退学した場合）
第８条　外国の大学を卒業又は中途退学した後に、本学医学部看護学科の第１年次に入学した学生の既修得単位の認定についても、この要項を準用する。

（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか、既修得単位の認定に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この規程は、平成20年４月１日から施行する。

１０　施設等の概要

施 設 の 概 要

(1)施設のあらまし

区　分	階　数	主　　な　　室　　名
看護学学舎	地　階	学生ホール、情報科学実習室、第９演習室、学生更衣室、キャリア支援コーナー、生協等
	1　階	学科長室、応接室、会議室、休養室、講師控室、大講義室、 第１～４講義室、第７，８演習室、看護実践キャリア開発センター
	2　階	第５，６講義室、第１～３実習室、第１準備室、研究員研究室、
	3　階	第１～３，６演習室、第４実習室、第２準備室、情報科学自習室、 教員研究室、大学院生研究室
	4　階	第８講義室、第５，６実習室、家庭看護実習室、第３準備室

○　所　在　地　　〒602-0857　京都市上京区清和院口寺町東入中御霊町 410 番地

○　学舎延床面積　　６，０００．０３ ㎡

(2)施設の利用

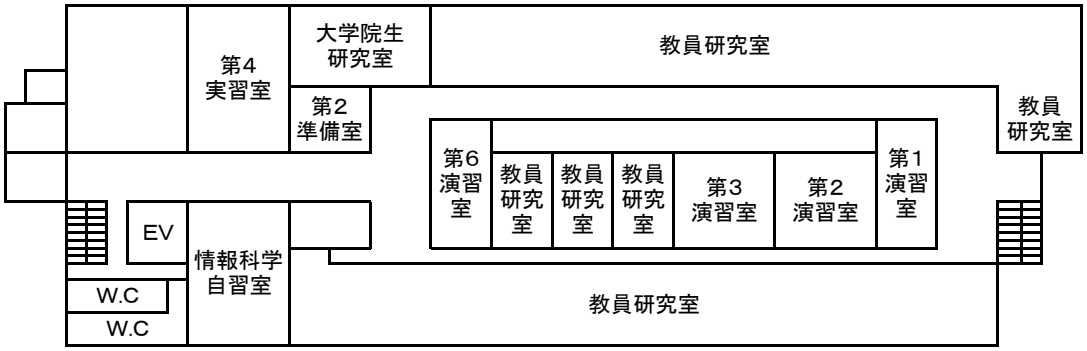
区　　分		時　　間　　帯
学　　舎	玄　　関	午前８時～午後８時
門	正　　門	午前８時～午後９時
	東　門　①	午前８時～午後１１時
	東　門　②	午前８時～午後８時
	西　　門	午前８時～午後５時１５分
敷　　地		午前８時～午後１１時

午後８時に看護学学舎全館の機械管理設定を行うので、それまでに退出しておくこと。
機械管理された部屋に入れば警備会社の警報が鳴り警備員が駆けつけてくるので注意すること。
（土曜日・日曜日は原則入館禁止。但し教員の許可を得て入館可能）

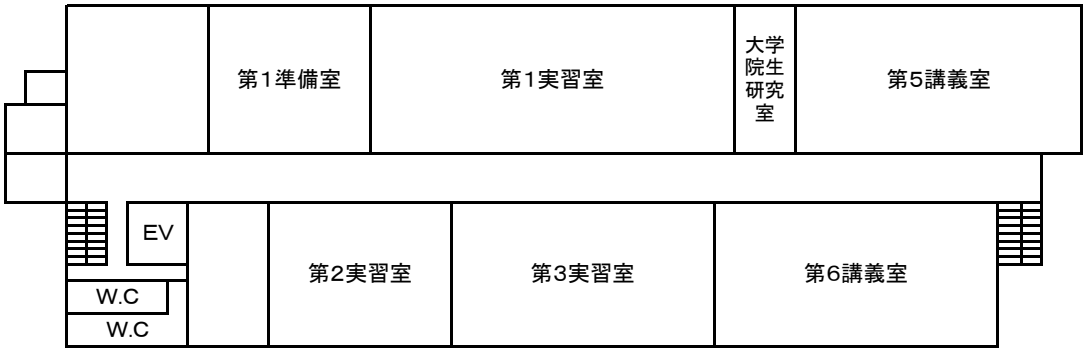
4階


W.C
第3準備室
EV
第8講義室
第5実習室
第6実習室
家庭看護実習室
W.C

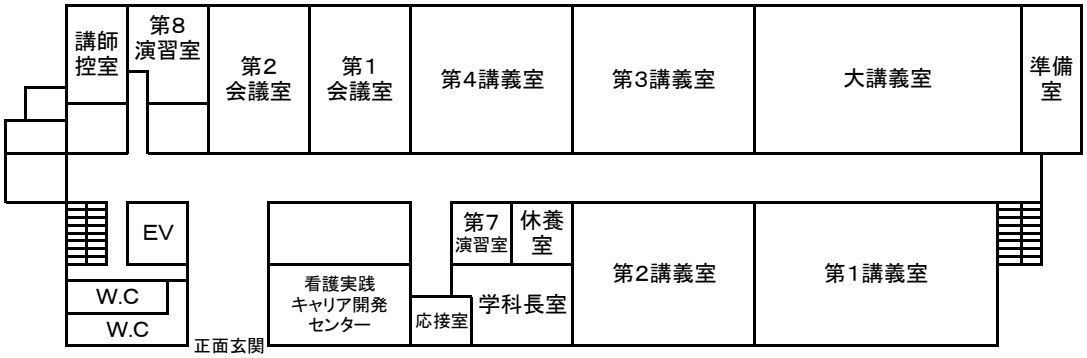
3階


第4
実習室
大学院生
研究室
教員研究室
第2
準備室
教員
研究室
第6
演習室
教員
研究室
教員
研究室
教員
研究室
第3
演習室
第2
演習室
第1
演習室
EV
情報科学
自習室
W.C
W.C
教員研究室

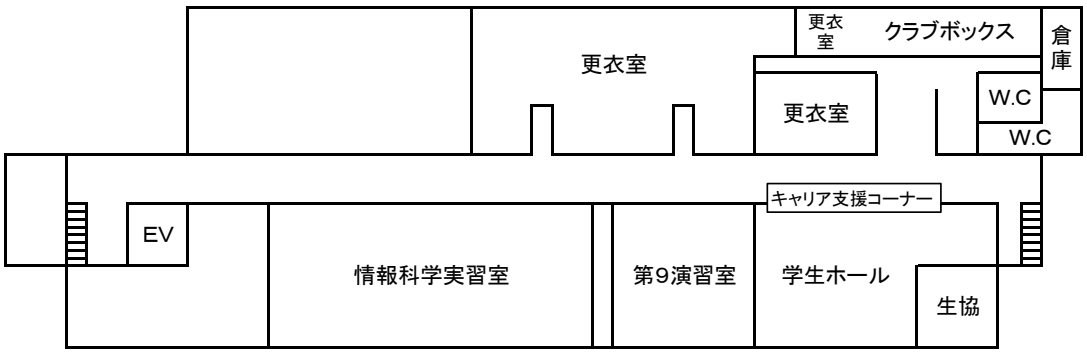
2階


第1準備室
第1実習室
大学
院生
研究
室
第5講義室
EV
第2実習室
第3実習室
第6講義室
W.C
W.C

1階


講師
控室
第8
演習室
第2
会議室
第1
会議室
第4講義室
第3講義室
大講義室
準備
室
EV
W.C
W.C
正面玄関
看護実践
キャリア開発
センター
応接室
第7
演習室
休養
室
学科長室
第2講義室
第1講義室

地階


更衣
室
クラブボックス
倉
庫
更衣室
更衣室
W.C
W.C
キャリア支援コーナー
EV
情報科学実習室
第9演習室
学生ホール
生協

令和5年度　学年・クラス担任及び講義室

学　年	学年担任	副担任		講義室
		Aクラス	Bクラス	
第1学年	教授 楠木　泉	准教授 伊藤　尚子	講師 山本　容子	第6講義室 （看護学学舎2階） ただし、前期水曜日は大講義室
第2学年	教授 志澤　美保	准教授 室田　昌子	講師 吉岡　友香子	第1講義室 （看護学学舎1階） ただし、前期水曜日は第6講義室
第3学年	教授 島田　順一	准教授 滝下　幸栄	講師 川上　祐子	第5講義室 （看護学学舎2階）
第4学年	教授 松岡　知子	准教授 原田　清美	講師 佐伯　良子	第8講義室 （看護学学舎4階）

※ただし、授業科目により講義室に指示があればそれに従う

学籍番号		氏　名	

令和5年度発行
京都府立医科大学教育支援課
〒602-8566　京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465
TEL 075(251)5166
FAX 075(251)5216

○看護学学舎
〒602-0857　京都市上京区清和院口寺町東入る中御霊町410
HP　http://www.kpu-m.ac.jp
○教養教育共同化施設「稲盛記念会館」
〒606－0823 京都市左京区下鴨半木町1-5